

FMV-BIBLO

NR1X30L/NR1X26X



B3FH-4981-01

- ▶ 本パソコンの取り扱い
- ▶ 電源と節電機能
- ▶ オプション機器を使うには
- ▶ BIOSセットアップ
- ▶ 仕様一覧
- ▶ 付録
- ▶ 索引

FMV 本体 & オプションガイド

パソコン本体の取り扱い方法や
オプション機器の接続方法を説明しています。
プリンタやメモリを接続するときなど、
必要なときにお読みください。

5

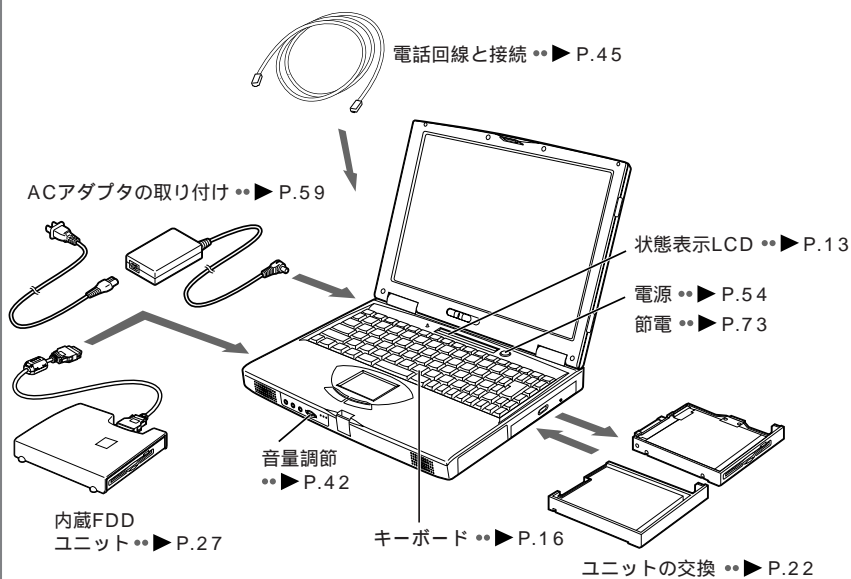
FUJITSU

本書のご案内

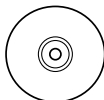
『FMV 本体&オプションガイド』は、パソコン本体の取り扱い方法や、別売のオプション機器の取り付け方法について説明しています。

別売のオプション機器の購入方法については、『パソコンFMシリーズ サポート&サービス 富士通パソポート ご案内』をご覧ください。

本パソコンの取り扱い



フロッピーディスク ●▶ P.27

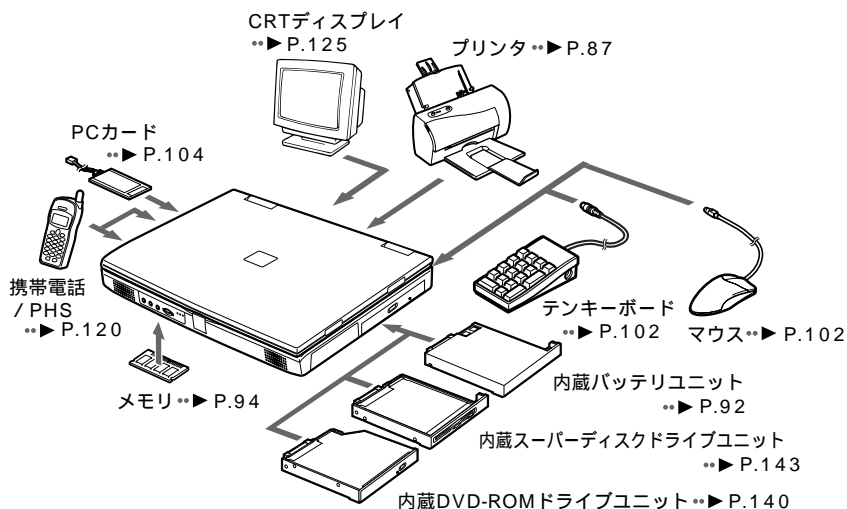


CD-ROM ●▶ P.36



お手入れのしかた ●▶ P.50

オプション機器を使うには



BIOS セットアップ

BIOSセットアップの方法やパスワードの設定方法などについて説明しています。 **▶▶ P.149

日常お使いになる範囲では、BIOSセットアップを操作する必要はありません。

仕様一覧



本パソコンの仕様について説明しています。 **▶▶ P.211

本書の表記について




安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


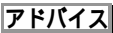








本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は一般的な禁止事項）が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

その他の記号について

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。  の中に番号がある場合は、マニュアルの表紙の番号を示しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

画面例および入力例について

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、 を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

FMV-BIBLO NRⅨ26Xを例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows®98 operating system	Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation Operating System Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
NIFTY MANAGER for Windows Ver.4.70	ニフティマネジャー
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

機種名	本書の表記
FMV-BIBLO NRⅨ30L/NRⅨ26X	本パソコン
FMV-BIBLO NRⅨ30L	NRⅨ30L
FMV-BIBLO NRⅨ26X	NRⅨ26X

目次

本書のご案内

本書の表記について

第 1 章 本パソコンの取り扱い

1. 各部の名称と働き	2
● 本体前面	2
● 本体左側面	6
● 本体右側面	9
● 本体背面	10
● 本体下面	12
● 状態表示 LCD	13
● キーボード	16
2. 本パソコンの取り扱い上の注意	20
● 取り扱い上の注意	20
● 廃棄について	21
3. ユニットの交換する	22
● ユニット取り扱い上の注意	22
● マルチベイに取り付けられるユニット	23
● マルチベイのユニットを交換する	25
4. フロッピーディスクを使う	27
● 内蔵 FDD ユニットを取り付ける	27
● お使いになれるフロッピーディスク	31
● フロッピーディスク取り扱い上の注意	32
● フロッピーディスクをセットする / 取り出す	33
● フロッピーディスクのデータを守るには	35
5. CD-ROM を使う	36
● お使いになれる CD-ROM	36
● CD-ROM 取り扱い上の注意	37
● CD-ROM をセットする / 取り出す	38

6. 音量を調節する	42
● 音量ボリュームで音量を調節する	42
● 音量つまみで音量を調節する	43
7. 電話回線と接続する	45
● 電話回線と接続する前の確認	45
● モジュラーケーブルを接続する	47
8. お手入れのしかた	50
● パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ ...	50
● フロッピーディスクドライブのお手入れ	51

第 2 章 電源と節電機能

1. 電源を入れる / 電源を切る	54
● 電源を入れる	54
● 電源を切る	56
2. AC アダプタで使う	59
● AC アダプタを取り付ける	59
● AC アダプタを取り外す	60
3. バッテリーで使う	61
● バッテリーを充電する	62
● バッテリーの充電時間	64
● バッテリーの稼動時間	64
● バッテリーの残量を確認する	65
● バッテリーの取り扱い上の注意	69
● 内蔵バッテリーパックを交換する	70
4. 節電する	73
● サスペンド機能と Save To Disk 機能	73
● サスペンド機能を使う	74
● Save To Disk 機能を使う	78

コラム

節電の設定	80
-------------	----

第3章 オプション機器を使うには

1. オプション機器について 82
 - オプション機器の紹介 82
 - オプション機器を接続する前の確認 84
2. プリンタを接続する 87
 - 必要なものを用意する 87
 - プリンタを接続する 88
3. 増設用内蔵バッテリーユニットを増設する 92
 - 必要なものを用意する 92
 - 増設用内蔵バッテリーユニットを取り付ける 93
4. メモリを増やす 94
 - 必要なものを用意する 94
 - メモリを取り付ける / 取り外す 95
5. マウス / テンキーボードを接続する 102
6. PC カードをセットする 104

コラム

PC カードの種類 104

- PC カード取り扱い上の注意 105
- 必要なものを用意する 106

コラム

PC カードの厚さ (TYPE) について 106

- PC カードをセットする 107
 - PC カードを取り出す 117
7. 携帯電話や PHS を接続する 120
 - PDC コネクタに接続する 120
 - 接続用の PC カードで接続する 122
 8. CRT ディスプレイを接続する 125
 - 必要なものを用意する 126
 - CRT ディスプレイを接続する 127
 - ディスプレイの表示を切り替える 129
 - CRT ディスプレイの解像度と発色数について 134

9. 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける	140
● 必要なものを用意する	140
● 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける	142
10. 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける ...	143
● 必要なものを用意する	143
● 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける ...	144
11. その他のオプション機器	146
● ハードディスク	146
● MO (光磁気ディスク) ドライブ	147

第 4 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップについて	150
● BIOS セットアップとは	150
● メニューと設定項目一覧	151
2. BIOS セットアップの操作のしかた	156
● BIOS セットアップを起動する	156
● 設定を変更する	158
● 変更内容を取り消す	159
● BIOS セットアップを終了する	160
3. ご購入時の設定に戻す	162
4. BIOS セットアップのメニュー詳細	164
● メインメニュー	164
● 詳細メニュー	170
● セキュリティメニュー	181
● 省電力メニュー	184
● 起動メニュー	191
● 情報メニュー	193
● 終了メニュー	194
5. BIOS のパスワード機能を使う	195
● パスワード機能について	195
● パスワード機能を設定する	197
● パスワードを入力する	199
● パスワードを変更 / 削除する	200
6. BIOS が表示するメッセージ一覧	203
● メッセージ一覧	203
● メッセージが表示されたときは	210

第 5 章 仕様一覧

- 1. 仕様一覧 212
 - 本体仕様 212
 - リソース一覧 214
 - コネクタのピン配列と信号名 216
 - 表示できる解像度と発色数 218
 - CRT ディスプレイの走査周波数 219

付録

- 1. 節電の設定を変更する 222
 - ご購入時の節電の設定 222
 - 「PMSet98」で設定を変更する 222
 - 「電源の管理」で設定を変更する 226
 - 2. Save To Disk 領域 227
 - Save To Disk 領域について 227
 - Save To Disk 領域の容量 227
 - Save To Disk 領域を変更する 228
 - 3. ドライバのインストール 232
 - インストールのときに気を付けること 232
 - ディスプレイドライバをインストールする 233
 - サウンドドライバをインストールする 241
 - モデムドライバをインストールする 244
 - Logitech MouseWare をインストールする 246
 - 4. その他の技術情報 249
 - 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意 249
- 索引 252

1

本パソコンの取り扱い

本章では本パソコンの各部の名称と働きや、取り扱い方法などについて説明しています。

1. 各部の名称と働き	2
2. 本パソコンの取り扱い上の注意	20
3. ユニットの交換する	22
4. フロッピーディスクを使う	27
5. CD-ROMを使う	36
6. 音量を調節する	42
7. 電話回線と接続する	45
8. お手入れのしかた	50

1

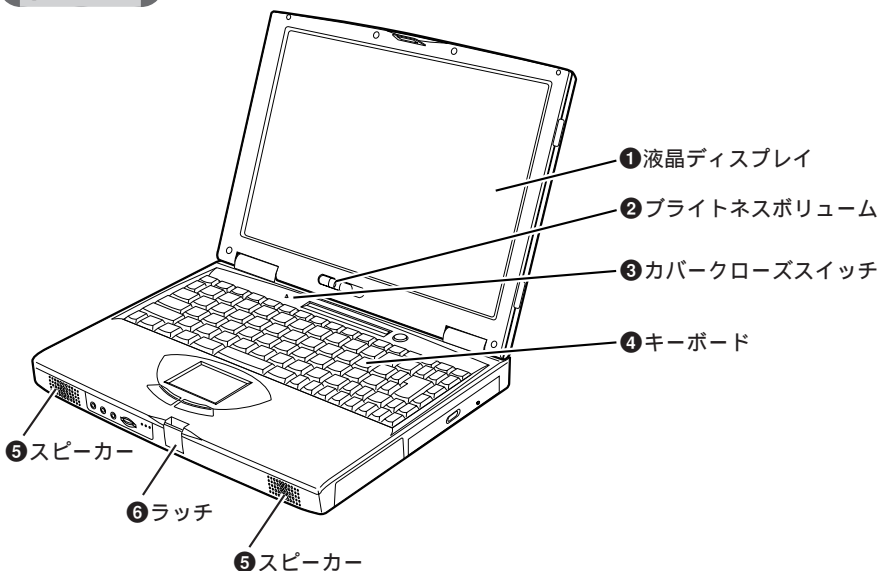
各部の名称と働き

パソコン本体の名称と働きを、以下の部分ごとに説明します。

- 本体前面 ●▶ P.2
- 本体左側面 ●▶ P.6
- 本体右側面 ●▶ P.9
- 本体背面 ●▶ P.10
- 本体下面 ●▶ P.12
- 状態表示 LCD ●▶ P.13
- キーボード ●▶ P.16

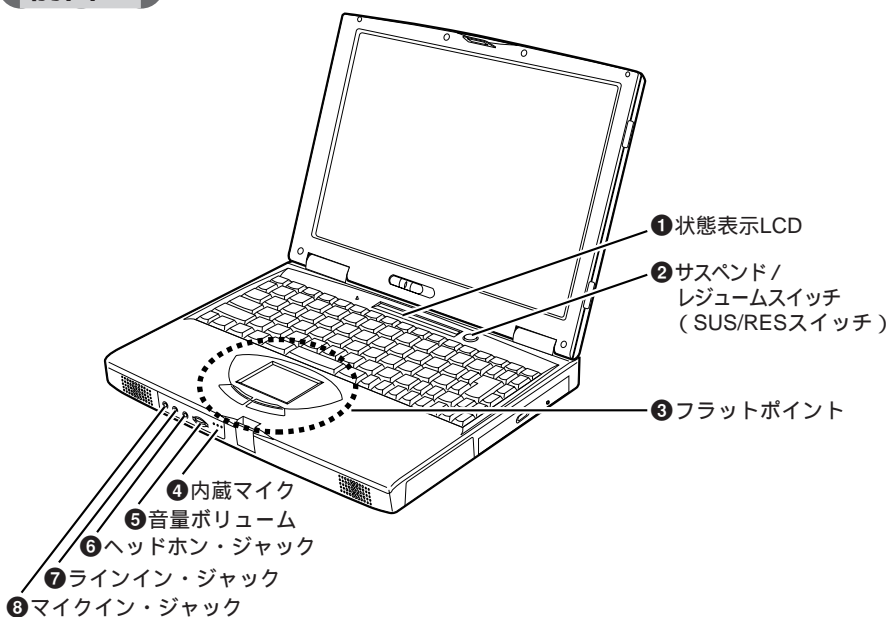
本体前面

前面 1



- ① 液晶ディスプレイ
文字や図形などを表示します。
- ② ブライトネスボリューム
液晶ディスプレイのバックライト（蛍光管）の明るさを調整します。
左にスライドさせると暗くなり、右にスライドさせると明るくなります。
- ③ カバークローズスイッチ
液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンド（一時停止）し、開けたときに
レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）ためのスイッチです。
●▶「液晶ディスプレイを閉じる」（P.76）
- ④ キーボード
文字を入力したり、パソコンに命令を与えます。
●▶「キーボード」（P.16）
- ⑤ スピーカー
音声（ステレオ）を出力します。
- ⑥ ラッチ
液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックしています。
液晶ディスプレイを開くときは、奥に押してロックを外します。

前面 2



エルシーディ

① 状態表示 LCD

パソコンの状態を表示します。

●▶「状態表示 LCD」(P.13)

② サスペンド/レジュームスイッチ

パソコンの電源を入れるためのスイッチです。

また、サスペンド(一時停止)したり、レジュームする(サスペンドする前の状態に戻す)ときにも使います。

4秒以上押すと、電源が切れます。通常は、4秒以上押さないでください。

本書ではSUS/RESスイッチと表記します。

●▶「電源を入れる」(P.54)

●▶「節電する」(P.73)


③ フラットポイント

操作面を上下左右になぞり、マウスポインタを操作します。

手前のボタンは、マウスの左ボタン、右ボタンに相当します。また、操作面を1本の指でたたくと左ボタン、3本の指でたたくと右ボタンを押したときと同じ機能になります。

4 内蔵マイク

音声を録音するときに使います。

●▶  『困ったときのQ&A』の「マイクを使って音声を録音したい」

5 音量ボリューム

音量を調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

●▶ 「音量を調節する」(P.42)

6 ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です。

ここに取り付けられるものは、外径3.5mmのミニプラグを持つヘッドホンやアンプ内蔵外部スピーカーです。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

注意

聴力障害



ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となります。

ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンを接続してください。

7 ラインイン・ジャック

AV機器の出力端子と接続するための端子です。

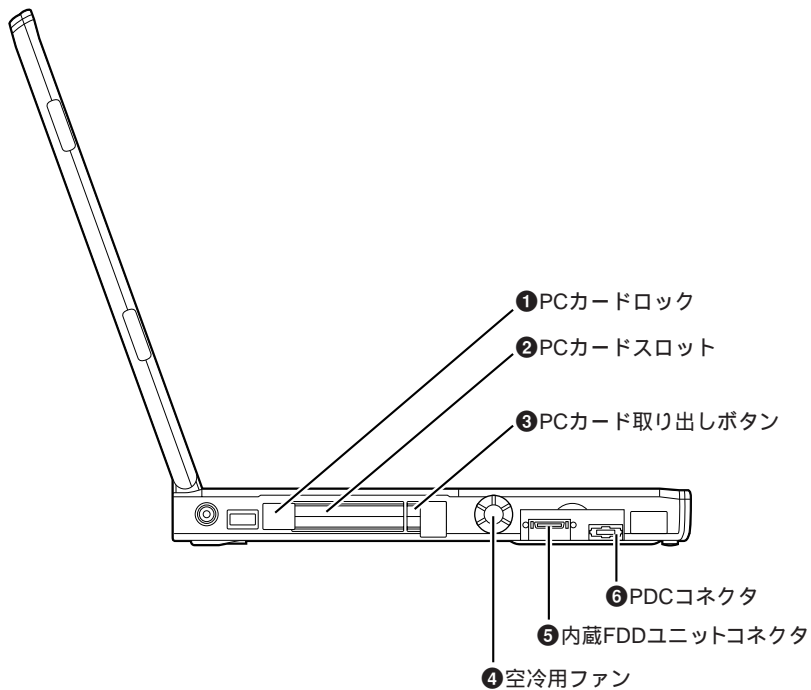
8 マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続するための端子です。

ここに取り付けられるものは、外径3.5mmのミニプラグをもつマイクです。ただし、市販されているマイクの一部の機種(ダイナミックマイクなど)では、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

本体左側面

左側面 1



① PC カードロック

ピーシー

PC カードが抜けないように、ロックします。

② PC カードスロット

ピーシー

別売の PC カードをセットするためのスロットです。

下段がスロット1、上段がスロット2です。スロット1はZVポートに対応しています。

●▶「PCカードをセットする」(P.104)

用語 スライヴ ZV ポート

動画や音声などのデータを高速に処理するための PC カードの規格です。

③ PC カード取り出しボタン

ピーシー

PC カードを取り出すときに押します。

下段がスロット1、上段がスロット2の取り出しボタンです。

●▶「PCカードをセットする」(P.104)

④ 空冷用ファン

パソコン内部の熱を外部に逃がすためのファンです。

ふさがないでください。

アドバイス

空冷用ファンについて

本パソコンの内部温度が一定以上になると回転します。

本パソコンを起動したときは、約1秒間回転して停止します。ただし、本パソコンの内部温度が高いときは、回転し続けます。

⑤ 内蔵 FDD ユニットコネクタ

内蔵 FDD ユニットを添付の FDD ケーブルで接続するためのコネクタです。

●▶「内蔵 FDD ユニットを外付けで接続する」(P.27)

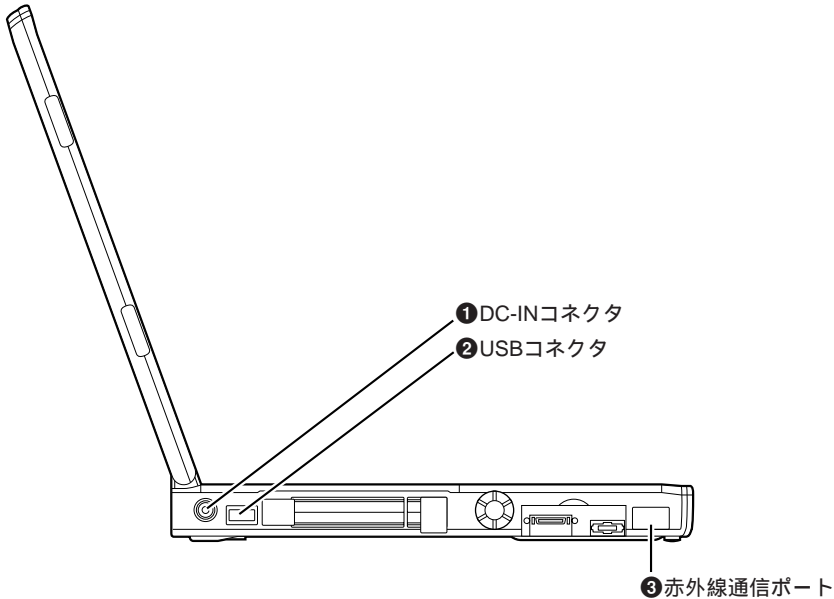
⑥ PDC コネクタ

ピーディーシー

携帯電話と接続するためのコネクタです。

●▶「PDC コネクタに接続する」(P.120)

左側面 2



- ディーシーイン
- ① DC-IN コネクタ
添付されている AC アダプタを接続するためのコネクタです。
●▶「AC アダプタを取り付ける」(P.59)

- ユーエスピー
- ② USB コネクタ
USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

用語 USB

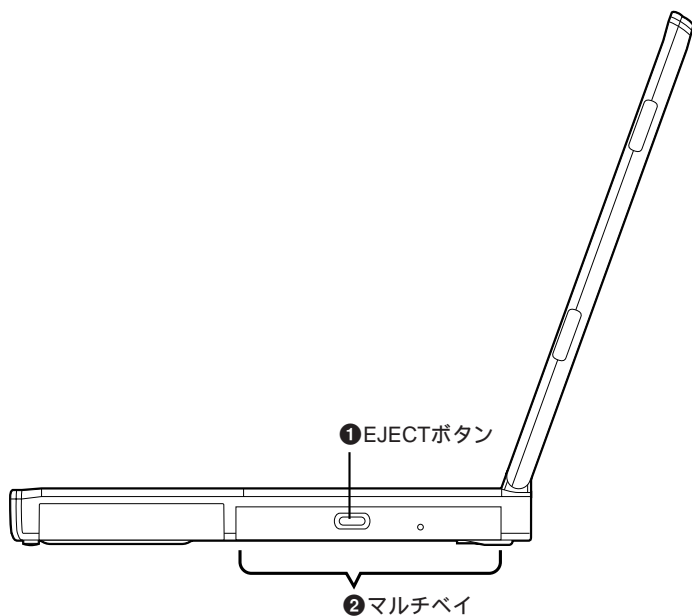
マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどの機器の接続に関する規格です。

- ③ 赤外線通信ポート
赤外線通信の送受光部です。
赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」でお使いになります。
インテリシンク
●▶「赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意」(P.249)

本体右側面

1

1 各部の名称と働き



イジェクト
1 EJECT ボタン

CD-ROM をセットしたり、取り出したりするときに押します。

パソコンの電源が入っているときに使えます。

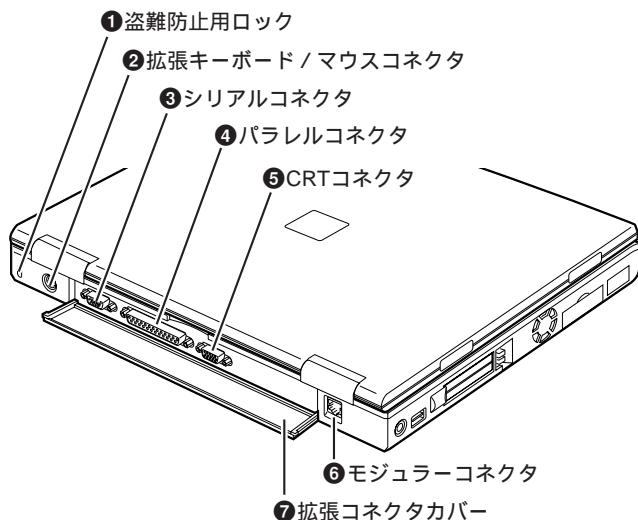
●▶「CD-ROM をセットする / 取り出す」(P.38)

2 マルチベイ

ご購入時は、内蔵 CD-ROM ドライブユニットが取り付けられています。内蔵 FDD ユニットなどのユニットを交換して取り付けることができます。

●▶「マルチベイに取り付けられるユニット」(P.23)

本体背面



① 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名 : マイクロサーバー (セキュリティワイヤー)

商品番号 : 0522010

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ:03-3434-0147)

② 拡張キーボード / マウスコネクタ

別売のテンキーボードやマウスを接続するためのコネクタです。

●▶「マウス / テンキーボードを接続する」(P.102)

③ シリアルコネクタ

RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

④ パラレルコネクタ

別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。

●▶「プリンタを接続する」(P.87)

シールドタイプ

⑤ CRT コネクタ

別売のCRTディスプレイを接続するためのコネクタです。

●▶「CRTディスプレイを接続する」(P.125)

⑥ モジュラーコネクタ

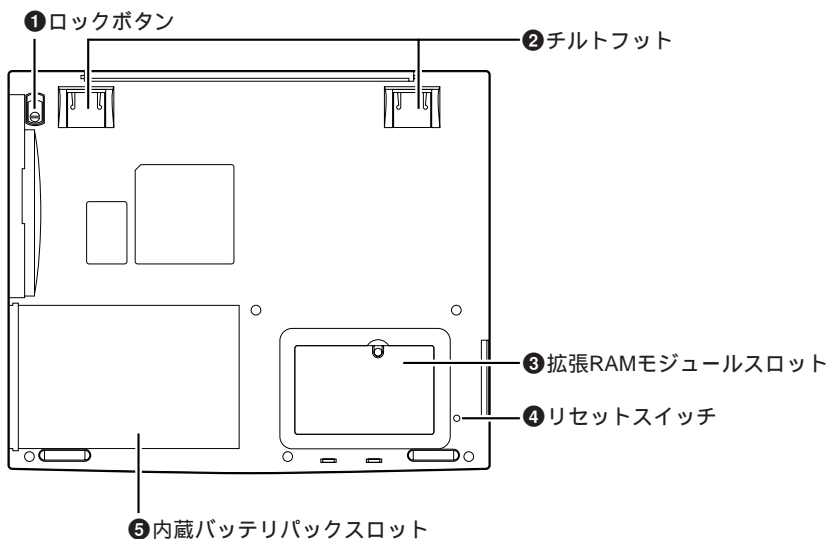
インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続するためのコネクタです。

●▶「電話回線と接続する」(P.45)

⑦ 拡張コネクタカバー

コネクタを保護しています。

本体下面



① ロックボタン

マルチベイに取り付けられているユニットを取り外すときにスライドさせます。

●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)

② チルトフット

パソコン本体の角度を調節できます。

③ 拡張RAMモジュールスロット

別売のメモリ（拡張RAMモジュール）を取り付けるためのスロットです。

●▶「メモリを増やす」(P.94)

④ リセットスイッチ

本パソコンを強制的に再起動するためのスイッチです。

●▶アドバイス「電源が切れないとき」(P.58)

⑤ 内蔵バッテリーパックスロット

内蔵バッテリーパックが装着されているスロットです。



●▶「バッテリーで使う」(P.61)

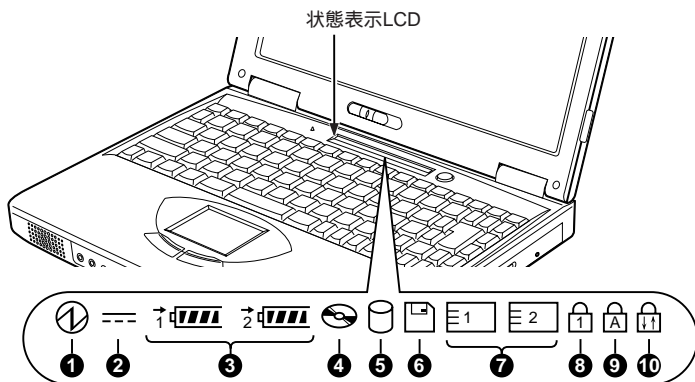
状態表示 LCD








電源を入れると状態表示 LCD にマークが表示されます。これらのマークは、バッテリーの残量など、本パソコンのさまざまな状態を表しています。

アドバイス

電源を切っているとき

状態表示 LCD の全表示が消えます。ただし、充電中は  と  が表示されています。充電が完了すると消えます。



- ① ^{サスレス} SUS/RES 表示 ()
本パソコンで作業ができる状態のときに表示されます。サスペンド(一時停止)状態のときは点滅します。
●▶「サスペンド機能を使う」(P.74)
- ② ^{エーシー} AC アダプタ表示 ()
AC アダプタから電源が供給されているときに表示されます。
- ③ バッテリーパック装着表示 (、)
-  は、本パソコンにあらかじめ内蔵されている、内蔵バッテリーパックを示しています。電源を入れる则表示されます。
 -  は、マルチベイに増設用内蔵バッテリーユニット(別売)が取り付けられているときに  とあわせて表示されます。

● バッテリ充電表示 (→)

バッテリーの充電中に表示されます。

バッテリーが熱くなっていたり、冷えていたりするときは、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまでバッテリーの充電を開始しないことがあります。この場合は→が点滅します。

● バッテリ残量表示 (■■■)



バッテリーの残量が表示されます。



●▶「バッテリーの残量を確認する」(P.65)

④ CD-ROM ドライブアクセス表示 (🌀)



CD-ROMやDVD-ROM(別売の内蔵DVD-ROMドライブユニット取り付け時)にアクセスしているときに表示されます。



アドバイス



 (CD-ROM ドライブアクセス表示) の点滅を止めるには CD-ROM をセットしていないときでも、状態表示 LCD に  が表示されることがあります。これはWindows98がCD-ROMドライブにCD-ROMが入っているかどうかを定期的に調べているためです。次の操作を行うと点滅を止めることができます。ただし自動で起動するCD-ROMをセットしても、自動起動の機能は動かなくなります。








- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
デバイスの一覧が表示されます。
- 4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。
「TEAC CD-224E」または、「TOSHIBA CD-ROM XM1802B」が表示されます。
- 5 「TEAC CD-224E」または、「TOSHIBA CD-ROM XM1802B」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「TEAC CD-224Eのプロパティ」または、「TOSHIBA CD-ROM XM1802B」ウィンドウが表示されます。
- 6 「設定」タブをクリックし、「挿入の自動通知」をクリックし、 を にします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「システムのプロパティ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って、再起動します。

自動起動の機能を使うときは、手順6の「挿入の自動通知」で にしてください。

- 5 ハードディスクアクセス表示 ()
ハードディスクにアクセスしているときに表示されます。
- 6 フロッピーディスクアクセス表示 ()
フロッピーディスクやスーパーディスク(別売の内蔵スーパーディスクドライブユニット取り付け時)にアクセスしているときに表示されます。

重要**やが表示されているときの注意**

状態表示LCDにやが表示されているときは、サスペンドしないでください。ハードディスク、フロッピーディスクまたはスーパーディスクのデータが壊れるおそれがあります。

- 7 PC カードアクセス表示 ( )
PC カードにアクセスしているときに表示されます。
は、PC カードスロット1(下段)のPCカードにアクセスしているときに表示されます。
は、PC カードスロット2(上段)のPCカードにアクセスしているときに表示されます。
- 8 ニューメリカルロック
Num Lock 表示 ()
テンキーモードのときに表示されます。**[Shift]** を押しながら **[Num Lk]** を押し、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。
●▶「テンキーモードについて」(P.19)
- 9 キャプスロック
Caps Lock 表示 ()
英大文字固定モード(英字を大文字で入力する状態)のときに表示されます。**[Shift]** を押しながら **[Caps Lock]** を押し、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。
- 10 スクロールロック
Scroll Lock 表示 ()
[Scr Lk] を押して、画面がスクロールしないように設定すると表示されます。もう一度 **[Scr Lk]** を押すと表示が消え、画面がスクロールするようになります。アプリケーションにより、機能が異なることがあります。

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示やデータを入力したり、実行させたりするために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。

ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき



エスケープ

① Esc キー

1 つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

② ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられています。

ニューメリカルロック

③ Num Lk キー

[Shift] を押しながら **[Num Lk]** を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。

●▶「テンキーモードについて」(P.19)

インサート

④ Insert キー

文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。

- ④ プリントスクリーン Print Screen キー
表示されている画面を画像データにするときに使います。**[Fn]** といっしょに **[Prt Sc]** を押します。
●▶ ④『困ったときのQ&A』の「気に入った画面を保存しておきたい」
- ⑤ デリート Delete キー
カーソルの右側にある1文字を削除するときに使います。また、選択されたファイルやアイコンを削除します。
[Ctrl] と **[Alt]** を押しながら **[Delete]** を押すと、応答のなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを再起動したりできます。
- ⑥ バック スペース Back Space キー
カーソルの左側にある1文字を削除するときに使います。
- ⑦ 半角/全角キー
文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。
- ⑧ キャプスロック Caps Lock 英数キー
[Shift] を押しながら **[CapsLock 英数]** を押すと、英大文字固定モードになります。もう1度押すと解除されます。
- ⑨ シフト Shift キー
他のキーと組み合わせて使います。
- ⑩ ホーム Home キー
カーソルを行の最初に移動します。
[Ctrl] を押しながら **[Home]** を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。
- ⑪ ページ アップ Page Up キー
前のページに切り替えるときに使います。
- ⑫ エンター Enter キー
入力した文字を確定するときに使います。
ワープロソフトでこのキーを使うと改行が入力されるため、リターン（改行）キーともいいます。

ページ ダウン
⑬ Page Down キー

次のページに切り替えるときに使います。

エンド
⑭ End キー

カーソルを行の最後に移動します。

[Ctrl] を押しながらか **[End]** を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

⑮ カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

エフエス
⑯ Fn キー

本パソコン独自の機能で、他のキーと組み合わせて使います。たとえば次のような使いかたがあります。

- **[Fn]** を押しながらか **[F3]** を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。
- 800 × 600 ドット以下の解像度のときに **[Fn]** を押しながらか **[F5]** を押すと、全画面表示と通常表示を切り替えます。
全画面表示に切り替えると、画面が乱れることがあります。
- CRT ディスプレイを接続したときに **[Fn]** を押しながらか **[F10]** を押すと、液晶ディスプレイとCRTディスプレイで表示先を切り替えます。

コントロール
⑰ Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。

ウィンドウズ
⑱ Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。

オルト
⑲ Alt キー


他のキーと組み合わせて使います。

アプリケーション
⑳ Application キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。

右クリックの代わりになります。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー(数字の入力を容易にするキー配列)として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。**[Shift]**を押しながら**[Num Lk]**を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LCDにが表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面にピンク色の文字で刻印されています。ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

2

本パソコンの取り扱い上の注意

ここでは本パソコンの取り扱い上の注意事項と、廃棄するときの注意事項について説明します。

- **取り扱い上の注意** ●▶ P.20
- **廃棄について** ●▶ P.21

取り扱い上の注意

■ 本パソコンの取り扱いについて ■

- 衝撃や振動を与えないでください。
- 分解しないでください。
- 電源を入れるときは、マルチベイにユニットを取り付けておいてください。
- チルトフットを立ててお使いのときは、パソコン本体に荷重をかけないでください。

■ 次の場所での使用および保管は避けてください ■

- 極端に温度変化が激しい場所
- 直射日光のあたる場所や発熱器具に近い場所
- 衝撃や振動の加わる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所

■ 持ち運ぶとき ■

- 電源を入れたままの状態を持ち運ばないでください。
- 本パソコン背面の拡張コネクタカバー(●▶ P.10)を開けたままの状態を持ち運ばないでください。

■ フラットポイントについて ■

フラットポイント(●▶P.4)は表面の結露、湿気等により誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

■ 内蔵マイクをお使いのとき ■

- カラオケソフトなど一部のソフトウェアをお使いのとき、ハウリング(キーンと音がること)が起きる場合があります。このようなときは、市販のヘッドホンやスピーカーをお使いください。
- スピーカーとマイクを同時にお使いのときは、音量によってはハウリングが起きる場合があります。音量を調節してください。
 - ▶「音量を調節する」(P.42)ただし、音量を小さくすると、添付のアプリケーション「電話機能」のスピーカーホン機能を使用したとき、内蔵のスピーカーとマイクでは十分な通話ができないことがあります。このような場合には、市販のヘッドホンとマイクをお使いください。

■ 液晶ディスプレイの特性について ■

次の状態は故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- 本パソコンで使用しているTFTカラー液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られています。画面に常時点灯、あるいは点灯しないドット(点)が存在する場合があります。
- 液晶ディスプレイはその特性上、温度変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

廃棄について

- 液晶ディスプレイ内のバックライト(蛍光管)の中には、水銀が含まれています。本パソコンの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。
- バッテリーを廃棄するときは、バッテリーがショートしないよう、バッテリー端子をテープ等で絶縁してください。また、廃棄については地方自治体の条例、または規則に従ってください。

ユニットを交換する

本パソコンご購入時に、内蔵CD-ROMドライブユニットが取り付けられているところをマルチベイといいます。マルチベイには、内蔵FDDユニットや別売のオプション機器のユニットを取り付けられます。

ここでは以下のことを説明します。

- **ユニット取り扱い上の注意** ●▶ P.22
- **マルチベイに取り付けられるユニット** ●▶ P.23
- **マルチベイのユニットを交換する** ●▶ P.25

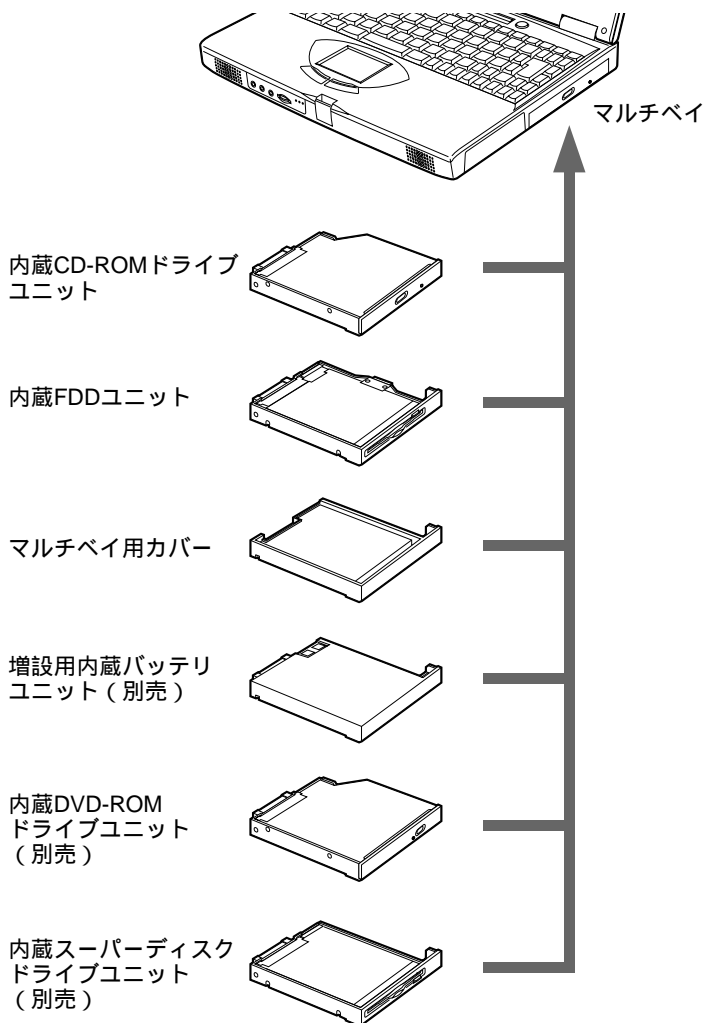
ユニット取り扱い上の注意

- 内蔵CD-ROMドライブユニット、内蔵DVD-ROMドライブユニット（別売）、内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）は、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットの破損や、データが壊れるおそれがあります。
- 内蔵FDDユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）の取り扱いかたによっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
- 次のような場所でのご使用、保管は避けてください。
 - 極端に温度変化が激しい場所
 - 衝撃や振動の加わる場所
 - 湿気やほこりの多い場所
 - 磁石や強い磁界を発生する装置の近く
- ユニット内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入ったときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

- 汚れは、やわらかい布でからぶきするか、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなどの揮発性のもののご使用は避けてください。
- 分解しないでください。

マルチベイに取り付けられるユニット

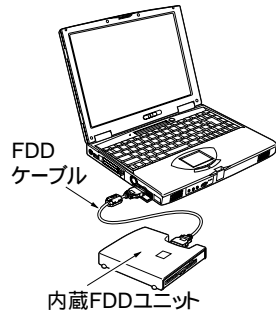
本パソコンご購入時は、内蔵CD-ROMドライブユニットが取り付けられています。



アドバイス

内蔵 FDD ユニットを使うとき

- 内蔵 FDD ユニットは、FDD ケーブルを使ってパソコン本体に接続できるので、他のユニットと同時に使えます。
 - ▶「内蔵 FDD ユニットを取り付ける」(P.27)
- 内蔵 FDD ユニットは、本パソコンで 1 台のみ使えます。



マルチベイのユニットを交換する

ここでは、マルチベイに内蔵されているユニットを取り外し、別のユニットを取り付ける方法を説明します。

警告

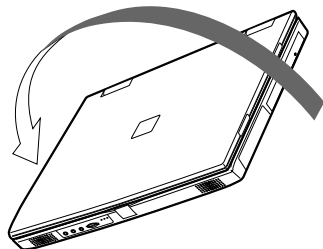


- ユニットの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。
- バッテリーは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付けや取り外しを行う場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは使用しないでください。感電や破裂の原因となります。

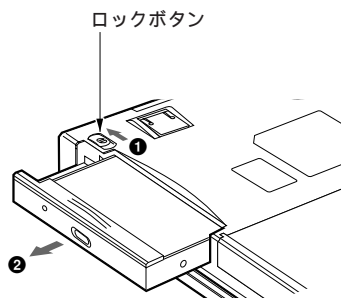
重要

電源を入れるときは、マルチベイにユニットを取り付けておいてください。本パソコンをお使いになるときは、必ずマルチベイにユニットを取り付けてください。何も取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

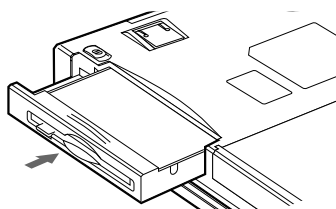
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
●▶「電源を切る」(P.56)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外します。
●▶「ACアダプタを取り外す」(P.60)
- 4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。



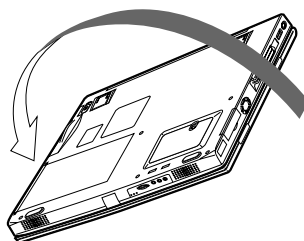
- 5** ユニットを取り外します。
ロックボタンをスライドし、取り付けられているユニットを外側にスライドさせます。



- 6** ユニットを奥にスライドして取り付けます。



- 7** パソコン本体を裏返します。



フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクはプログラムやデータを保存するためのものです。ここでは以下のことを説明します。

- 内蔵 FDD ユニットを取り付ける ●▶ P.27
- お使いになれるフロッピーディスク ●▶ P.31
- フロッピーディスク取り扱い上の注意 ●▶ P.32
- フロッピーディスクをセットする / 取り出す ●▶ P.33
- フロッピーディスクのデータを守るには ●▶ P.35

内蔵 FDD ユニットを取り付ける

⚠ 警告



内蔵 FDD ユニットの接続や取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。

本パソコンでは、次の2とおりの方法で内蔵 FDD ユニットを取り付けることができます。

- マルチベイに取り付ける
 - ▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)
- FDD ケーブルでパソコン本体に取り付ける
 - ▶「内蔵 FDD ユニットの外付けで接続する」

内蔵 FDD ユニットの外付けで接続する

⚠ 注意



ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび内蔵 FDD ユニットが故障する原因となることがあります。

内蔵 FDD ユニット取り扱い上の注意

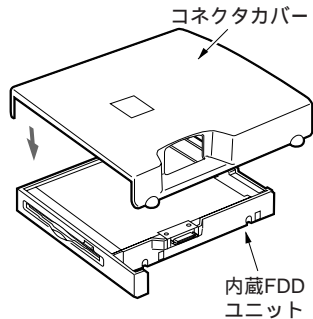
- 内蔵 FDD ユニットは、本パソコンで 1 台のみ使えます。
- 内蔵 FDD ユニットは、AC アダプタや CRT ディスプレイなど、磁界を発生する機器から離して使用してください。
- 内蔵 FDD ユニットを取り扱う前に、取り扱い上の注意をご覧ください。
●▶「ユニット取り扱い上の注意」(P.22)

1 パソコン本体の電源を切ります。

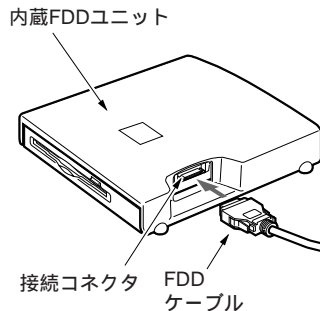
●▶「電源を切る」(P.56)

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。**3** AC アダプタを取り付けている場合は、AC アダプタを取り外します。

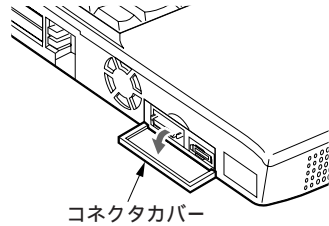
●▶「AC アダプタを取り外す」(P.60)

4 内蔵 FDD ユニットにコネクタカバーを取り付けます。**5** FDD ケーブルのコアが付いていないほうのコネクタを、内蔵 FDD ユニットの接続コネクタに接続します。

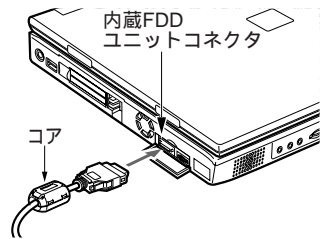
コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込んでください。



- 6 パソコン本体左側面のコネクタカバーを開きます。



- 7 FDD ケーブルのもう一方 (コアが付いているほう) のコネクタを、パソコン本体の内蔵 FDD ユニットコネクタに接続します。
コネクタの上下の向きを確認し奥までしっかり差し込んでください。



内蔵 FDD ユニットを取り外す

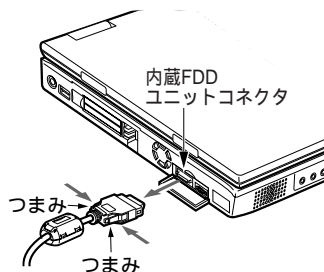
重要

フロッピーディスクを取り出してください

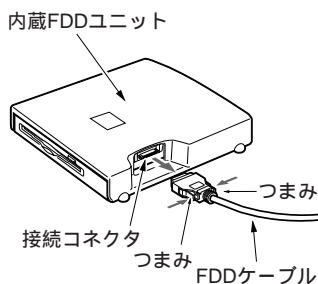
電源を切る前に、内蔵FDDユニットからフロッピーディスクを、必ず取り出しておいてください。そのまま取り外すと、データが壊れる場合があります。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
●▶「電源を切る」(P.56)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 AC アダプタを取り付けている場合は、AC アダプタを取り外します。
●▶「AC アダプタを取り外す」(P.60)

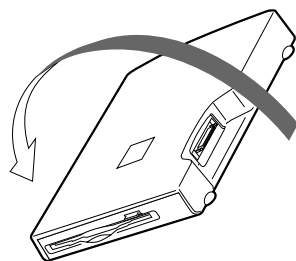
- 4** パソコン本体左側面の内蔵FDDユニットコネクタから、FDDケーブルを取り外します。
FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながらか、取り外してください。



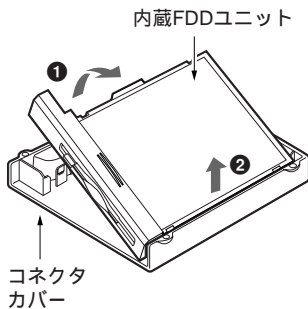
- 5** 内蔵FDDユニットの接続コネクタからFDDケーブルを取り外します。
FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながらか、取り外してください。



- 6** 内蔵FDDユニットを裏返します。



- 7** 内蔵FDDユニットを矢印の方向に持ち上げてコネクタカバーを取り外します。



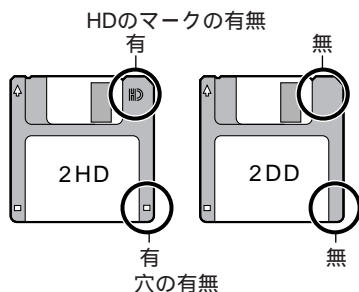
お使いになれるフロッピーディスク

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB(メガバイト:データの量を表す単位)、1.2MB、720KB(キロバイト:データの量を表す単位)の記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の種類のフロッピーディスクがお使いになれます。

- 2HD^{エイチディー} フロッピーディスク
記憶容量は、フォーマットにより異なります。1.44MBまたは1.2MBです。
- 2DD^{ディーディー} フロッピーディスク
記憶容量は、2HD(1.44MB)の半分の720KBです。

2種類のフロッピーディスクの外見上の違いは、下図のとおりです。



アドバイス

フロッピーディスクをフォーマットするときの注意

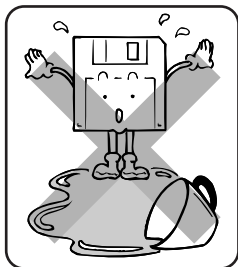
- 同じ記憶容量でも、フォーマットした機種やソフトウェアが違っていると、フロッピーディスクのデータを読み出せないことがあります。
- 他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクは、お使いになれないことがあります。
- 本パソコンでは、1.2MBのフロッピーディスクのデータの読み出しや書き込みはできますが、フロッピーディスクを1.2MBにフォーマットすることはできません。
- フロッピーディスクのフォーマット方法について
 - ▶ ①『かるがるパソコン入門』の「フロッピーディスクを使うには」

フォーマット済みのフロッピーディスクをお買い求めになるとき

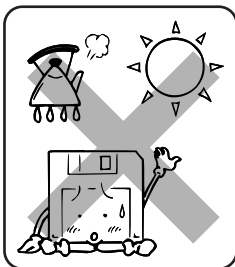
「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをお買い求めください。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

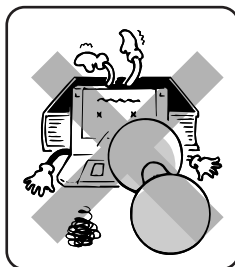
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。
データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



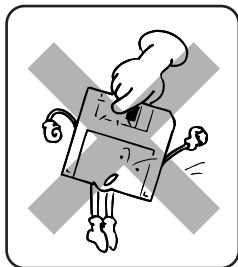
コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



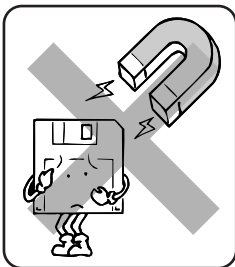
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



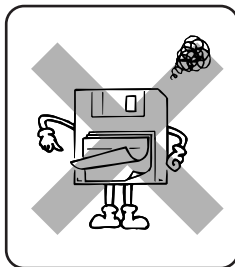
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開けて、中のディスク面に、絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す

⚠ 注意



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

セットする

1 内蔵FDDユニットが取り付けられていない場合は、内蔵FDDユニットを取り付けます。

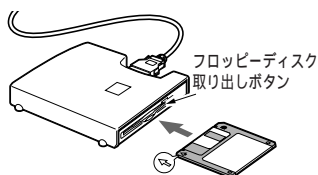
●▶「内蔵 FDD ユニットを取り付ける」(P.27)

2 パソコン本体の電源を入れます。


●▶「電源を入れる」(P.54)

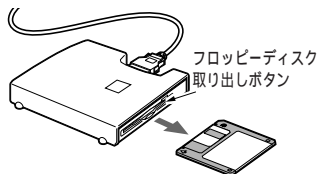
3 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込みます。

矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。




取り出す

- 1 状態表示LCDにが表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。フロッピーディスクが少し飛び出します。



重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

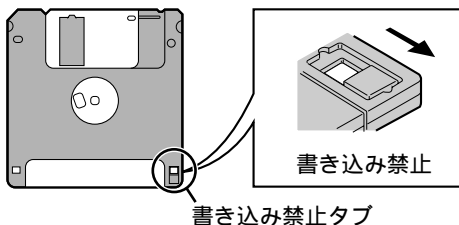
状態表示LCDにが表示されているときに、フロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

フロッピーディスクのデータを守るには

ここでは保存してあるデータを守るために、フロッピーディスクを書き込み禁止にする方法と、書き込み禁止を解除する方法を説明します。

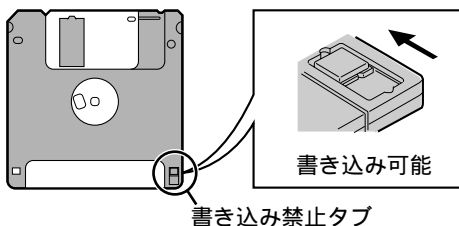
保存してあるデータの修正や削除をしたくないとき

フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。
書き込み禁止になります。



データを書き込みたいとき

フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。
書き込み可能になります。



CD-ROM を使う

CD-ROMは、パソコンで扱えるデータを保存したものです。データは読み出しのみが可能で、書き込みはできません。

ここでは以下のことを説明します。

- お使いになれる CD-ROM ●▶ P.36
- CD-ROM 取り扱い上の注意 ●▶ P.37
- CD-ROM をセットする / 取り出す ●▶ P.38

お使いになれる CD-ROM

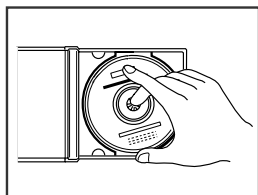
本パソコンでは、以下のマークがついた CD-ROM や音楽 CD がご利用になれます。



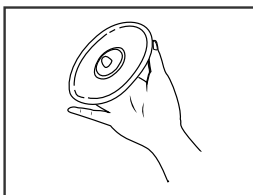
CD-ROM 取り扱い上の注意

1

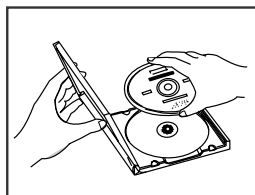
5 CD-ROM を使う



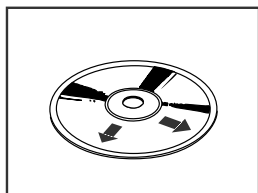
ケースからCD-ROMを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



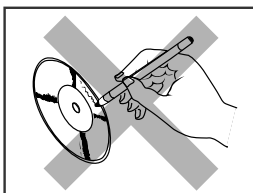
データ面（裏面）に触れないようにCD-ROMのふちを持つようにしてください。



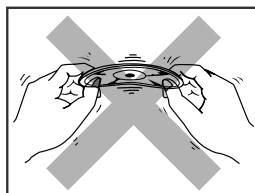
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



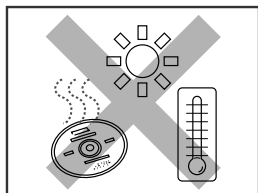
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



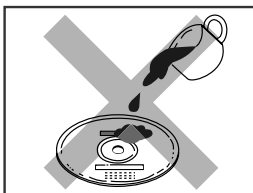
ラベルやシールを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけないでください。



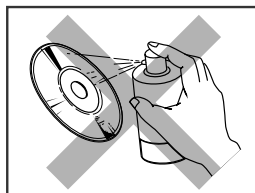
曲げたり、重いものをのせたりしないでください。



高温や低温になる場所を避けて保管してください。



水などの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどを使わないでください。

アドバイス

CD-ROM が結露したとき

表面に水滴がついて、CD-ROMドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かってキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。

CD-ROM をセットする / 取り出す

CD-ROM のセットや取り出しは、電源が入っているときに行えます。

△ 注意



CD-ROM をセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

セットする

重要

AC アダプタを取り付けてください

CD-ROM に頻繁にアクセスする場合は、AC アダプタを取り付けてください。

●▶「AC アダプタを取り付ける」(P.59)

CD-ROM をセットするときの注意

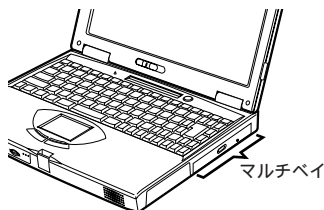
CD-ROM ドライブのトレイ中央の突起にCD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとめ込んでください。

きちんとめ込まないと、CD-ROM などの媒体がCD-ROM ドライブ内部で外れて、トレイやドライブの内部、およびCD-ROM を破損する原因となることがあります。

セットすると自動で始まるCD-ROM を使用しているときは、サスペンドしないでください
セットすると自動で始まるCD-ROM を使用しているときにサスペンド(一時停止)すると、レジューム時(サスペンドする前の状態に戻したとき)にCD-ROM が二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROM のアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROM をセットし直してください。

- 1 内蔵CD-ROM ドライブユニットが取り付けられていない場合は、マルチベイに内蔵CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。

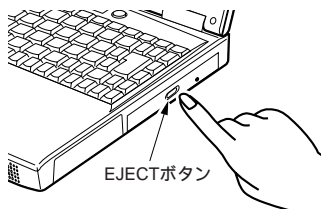
●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)



- 2 パソコン本体の電源を入れます。


●▶「電源を入れる」(P.54)

- 3 EJECT ボタンを押します。
トレーが少し飛び出します。



アドバイス

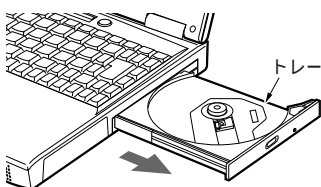
状態表示 LCD に  が点滅しているとき

Windows98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。

点滅は止めることもできます。

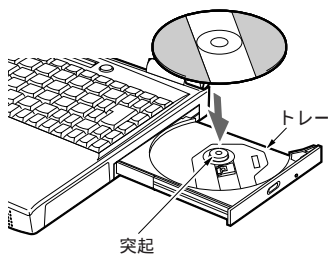
●▶「 CD-ROM ドライブアクセス表示」の点滅を止めるには」(P.14)

- 4 トレーを静かに引き出します。

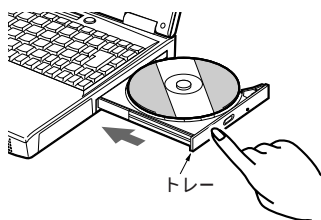


- 5 トレーの下部を手で支えながら、CD-ROM をセットします。

CD-ROM のレーベル面を上にして、トレー中央の突起に CD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD-ROM が取り出せなくなることがあります。



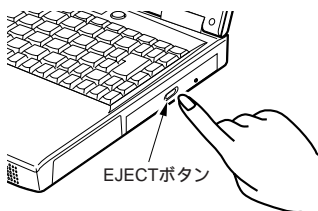
- 6 トレーを静かに押し込みます。
CD-ROM をセットしてから、本パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。



取り出す


1 CD-ROM を利用しているアプリケーションがあれば終了します。

2 EJECT ボタンを押します。
トレイが少し飛び出します。



アドバイス

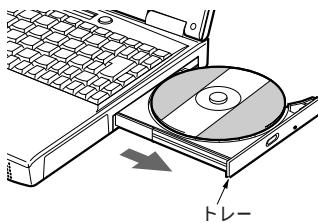
状態表示 LCD に  が点滅しているとき

Windows98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。

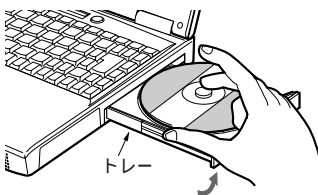
点滅は止めることもできます。

●▶「 (CD-ROM ドライブアクセス表示) の点滅を止めるには」(P.14)

3 トレーを静かに引き出します。





4 CD-ROM を取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、CD-ROM のふちを持ち上げてください。



5 トレーを静かに押し込みます。

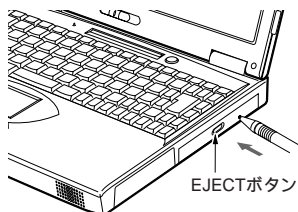
アドバイス

CD-ROM が取り出せなくなったとき

- 1 デスクトップの  (マイコンピユータ) をクリックします。
- 2 「マイコンピユータ」ウィンドウの  (E:) にマウスポインタを合わせます。
- 3 右ボタンをクリックします。
- 4 「取り出し」をクリックします。
トレーが少し飛び出します。
- 5 トレーを静かに引き出し、CD-ROM を取り出します。

上記の方法で取り出せないときは、次の方法で取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
●▶「電源を切る」(P.56)
- 2 EJECT ボタンの右側にある穴に、ボールペンの先などを差し込みます。
トレーが少し飛び出します。
- 3 トレーを静かに引き出し、CD-ROM を取り出します。



6

音量を調節する

音量を調節するには、パソコン本体の「音量ボリューム」で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法とがあります。

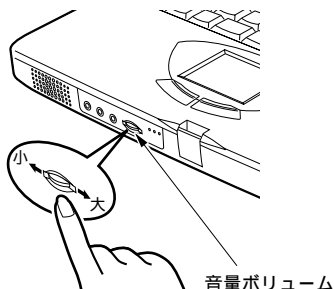
それぞれの音量調節は相互に関係しています。音量ボリュームでは、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり、小さくしたりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- 音量ボリュームで音量を調節する ●▶ P.42
- 音量つまみで音量を調節する ●▶ P.43

音量ボリュームで音量を調節する

- 1 音量ボリュームを回して適当な音量に調節します。



アドバイス

音量調節がうまくいかないとき

音量ボリュームで調節しても、音が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、音量つまみで調節します。

- ▶「音量つまみで音量を調節する」(P.43)

ハウリング(キーンと音がなること)が起きたとき

マイクをお使いのときに、音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングが起きる場合があります。音量を小さくしてください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください。

- ▶ ④『困ったときのQ&A』の「スピーカーから変な音が出る」

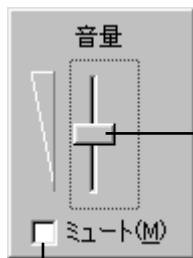
音量つまみで音量を調節する

- 1 タスクバーの  (音量) をクリックします。



(この画面は、機種により若干異なります)

- 2 音量つまみをドラッグして、適当な音量に設定します。



音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート

クリックして にすると音が出ません。この場合、音量つまみや音量ボリュームで調節しても音は出ません。もう1度クリックして にすると音が出ます。

- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。
音量を調節する画面が消えます。

アドバイス

スピーカーの確認

音量ボリューム、または音量つまみで音量を調節しても音が出ない場合は、スピーカーの状態を確認してください。**[Fn]**を押しながら**[F3]**を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。

🔊(音量)を表示したいとき

CD-ROMなどをお使いの最中に、タスクバーが表示されない場合は、**[Ctrl]**を押してください。タスクバーが表示されます。

さまざまな音量を設定したいとき

音のバランスや入力時の音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

- 「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示するには、次の2つの方法があります。
 - タスクバーの🔊をダブルクリックします。
 - 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」**」**「アクセサリ」**」**「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。
- 「Volume Control」ウィンドウでは、以下の音量設定ができます。
 - Volume Control : パソコン全体の音量
 - Wave : Wave ファイルとソフトウェア MIDI の音量
 - Phone In : モデムの音量
 - CD : 音楽 CD の音量
 - Synth : MIDI の音量
 - Line : ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
 - Mic : マイクイン・ジャックに接続したマイクと、内蔵マイクの音量

上記の項目が表示されていないときは、サウンドドライバをインストールしてください。

- ▶「サウンドドライバをインストールする」(P.241)

電話回線と接続する

インターネットやパソコン通信をするときは、本パソコンを電話回線に接続します。接続にはモジュラーケーブル（添付品）を使います。

ここでは以下のことを説明します。

- 電話回線と接続する前の確認 ●▶ P.45
- モジュラーケーブルを接続する ●▶ P.47

電話回線と接続する前の確認

重要

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意

- 内蔵モデムは一般加入電話（NTTの電話回線）用です。ビジネスホン、ホームテレホンなど、一般加入者回線とは異なる仕様の電話回線に接続すると、故障の原因となることがあります。
- デジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続しないでください。
内蔵モデムが故障する場合があります。
- アナログ構内交換網（アナログPBX）の回線に、直接接続して使用する場合には、通話回線の電気的条件がNTTの電話回線と同じでなければ正常に動作できません。
- 本パソコンの内蔵モデムは国内専用です。海外では使用できません。
●▶ 『FMV-BIBLO 内蔵モデム 取扱説明書』

ITU-T 標準規格 V.90 で通信するには

本パソコンのご購入時には、K56flex™という規格で通信するためのモデムドライバがインストールされています。ITU-T V.90で通信するには、モデムのドライバを更新する必要があります。

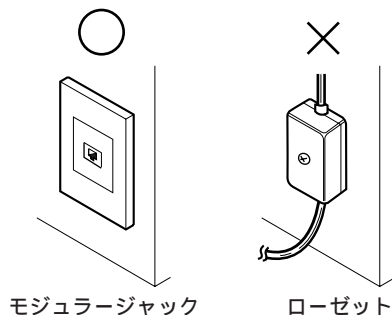
- ▶ 「モデムドライバをインストールする」（P.244）

電話回線の接続口の形状

一般的に電話回線の接続口には、「モジュージャック」と「ローゼット」と呼ばれる2種類があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュージャックの場合のみ接続できます。

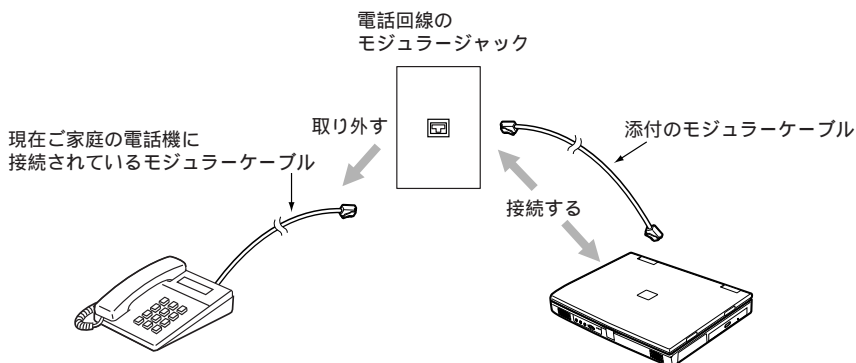
ローゼットなどモジュージャック以外の形状の場合は、NTTに工事を依頼する必要があります。詳しくはモデムのマニュアルをご覧ください。

●▶  『FMV-BIBLO 内蔵モデム取扱説明書』



電話回線の接続口が1つの場合

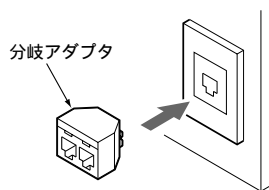
電話回線と本パソコンを接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外してください。



電話機のモジュラーケーブルを取り外している間は、電話が使えません。

アドバイス

電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないとき
市販の分岐アダプタを利用すると、本
パソコンと電話機の両方をモジュラー
ジャックに接続できます。ただし、パ
ソコンと電話機で同時に電話回線を使
うことはできません。



分岐アダプタの接続口

分岐アダプタの2つのモジュラージャックに、接続区別はありません。電
話機、または本パソコンをどちらのモジュラージャックに接続してもかま
いません。

分岐アダプタを使用してインターネットやパソコン通信をしているときの注意
通信中は電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはず
れると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。

モジュラーケーブルの長さが足りないとき

添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品
をお買い求めください。

モジュラーケーブルを接続する

⚠ 警告



感電 近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセ
ントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜い
てください。

そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災
の原因となります。

⚠ 注意



感電 モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れな
い
てください。

感電の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

●▶「電源を切る」(P.56)

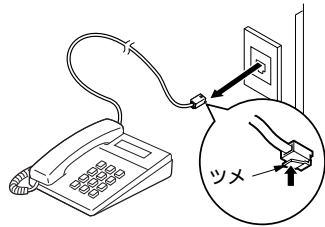
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 AC アダプタを取り付けている場合は、AC アダプタを取り外します。

●▶「AC アダプタを取り外す」(P.60)

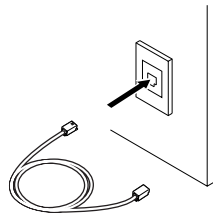
4 電話機につながっているモジュラーケーブルをモジュラージャックから抜きます。

ツメを押しながら引き抜いてください。

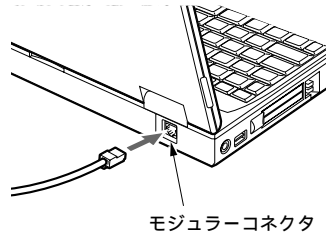


5 添付のモジュラーケーブルのプラグをモジュラージャックに差し込みます。

カチッと音がするまで差し込んで下さい。



- 6 モジュラーケーブルのもう片方のプラグを、モジュラーコネクタに差し込みます。
カチッと音がするまで差し込んで下さい。



アドバイス

インターネットをするには

- ▶ ③『はじめよう！インターネット』

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、フロッピーディスクドライブなど、各部によって違います。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

ここでは以下のことを説明します。

- パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ ●▶ P.50
- フロッピーディスクドライブのお手入れ ●▶ P.51

パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ

重要

お手入れ前の確認

感電やけがの原因になることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切ってください。
- ACアダプタを取り付けている場合は、取り外してください。
- プリンタなど、取り付けている機器の電源を切り、パソコンから取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りのときには、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは長い期間使用していると、ヘッド(データを読み書きする部分)が汚れてきます。ヘッドが汚れると、記憶したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを購入して、3カ月に1回はクリーニングを行ってください。フロッピーディスクドライブのお手入れは、パソコンの電源が入っている状態で行います。

▲ 注意



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れしないでください。
けがの原因となることがあります。

1

8

お
手
入
れ
の
し
か
た

■ 用意するもの ■


商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ: 03-3434-0147)

■ お手入れのしかた ■

- 1 内蔵FDDユニットが取り付けられていない場合は、内蔵FDDユニットを取り付けます。
●▶「内蔵 FDD ユニットを取り付ける」(P.27)
- 2 パソコン本体の電源を入れます。
●▶「電源を入れる」(P.54)
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 4 「C:¥WINDOWS >」のあとに c:¥fjuty¥clndsk 0 と入力し、
Enter を押します。
「clndsk」と「0」の間は、 を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。

- 5 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブに差し込み、**[Enter]**を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングが始まります。
クリーニングが終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 6 状態表示LCDにが表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 7 「C:¥WINDOWS >」のあとに **exit** と入力し、**[Enter]**を押します。
Windows98の画面に戻ります。

2

電源と節電機能

本章では、電源の入れかたと切りかた、ACアダプタやバッテリーでの使いかた、節電のしかたについて説明しています。

- 1. 電源を入れる / 電源を切る 54
- 2. AC アダプタで使う 59
- 3. バッテリーで使う 61
- 4. 節電する 73

1

電源を入れる / 電源を切る

ここでは以下のことを説明します。

- 電源を入れる ●▶ P.54
- 電源を切る ●▶ P.56

電源を入れる

重要

電源を入れるときの注意

- フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされているときは、取り出しておいてください。
●▶「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.33)
- 電源を切ったあと、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10秒ほど待ってから電源を入れてください。
- 電源が入っている状態で、持ち運んだり、衝撃を与えたりしないでください。
- 長時間お使いになるときや通信をするときなど、大量の電力を消費する作業を行うときは、必ずACアダプタを取り付けてください。

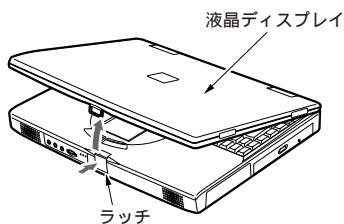
バッテリーで使うときの注意

以下の場合、バッテリーが充電されていないことがあります。バッテリー残量を確認し、必要に応じてバッテリーを充電してください。

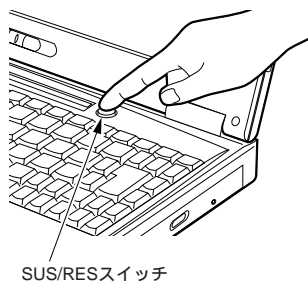
- 本パソコンをご購入のとき
- 約1ヵ月以上充電していないとき
- ▶「バッテリーの残量を確認する」(P.65)
- ▶「バッテリーを充電する」(P.62)

- 1** ACアダプタで使う場合は、ACアダプタを取り付けます。
●▶「ACアダプタを取り付ける」(P.59)

- 2** 液晶ディスプレイを開きます。
前面のラッチを押してロックを外し、
液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。



- 3** SUS/RESスイッチを押します。



状態表示LCDに①が表示されます。
しばらくすると、Windows98が起動します。



2

1 電源を入れる / 電源を切る

アドバイス

Windows98 が起動しないとき

電源を入れてもWindows98が起動しないときは、次の点を確認してください。

- AC アダプタを取り付けているとき
AC アダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。
●▶「AC アダプタを取り付ける」(P.59)
- バッテリーで使うとき
バッテリーの残量が十分にあるかを確認してください。
●▶「バッテリーの残量を確認する」(P.65)
- 画面にメッセージが表示されているとき
●▶「BIOS が表示するメッセージ一覧」(P.203)

以上の点を確認してもWindows98が起動しない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。FM インフォメーションサービスにご相談ください。

- ▶ ④『困ったときのQ&A』の「第3章 サポート情報」



電源を切る

重要

電源を切るときの注意

電源を切る前に、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してください。

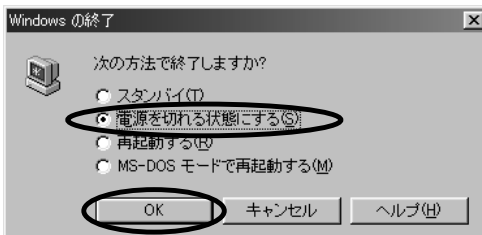
- ▶「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.33)
- ▶「CD-ROM をセットする / 取り出す」(P.38)

- 1 それまで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。

- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。



- 4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。



しばらくすると、状態表示 LCD の①が消え、電源が自動的に切れます。

アドバイス

フロッピーディスクがセットされているとき

フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていると、「フロッピーディスクが入っています。Windowsの終了を中止します。」というメッセージが表示されます。

その場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 3 から操作し直してください。

5 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外します。

●▶「ACアダプタを取り外す」(P.60)

アドバイス

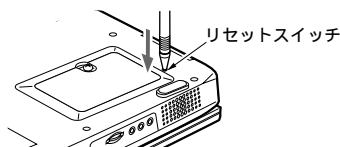
続けてバッテリーを充電するとき

電源を切ったあとにACアダプタを取り外す必要はありません。

電源が切れないとき

次のように操作してください。

- 1 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 2 ポールペンの先などで、パソコン本体下面のリセットスイッチを押します。
本パソコンが再起動します。



- 3 パソコン本体を裏返し、液晶ディスプレイを開きます。
- 4 「電源を切る」(●▶ P.56) の手順 2 から操作します。

上記の方法でも電源が切れないときは、次の方法で切ります。

- 1 SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けます。
状態表示 LCD の ① が消えると、電源が切れます。
- 2 状態表示 LCD の ① が点滅しているときは、もう一度 SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けます。
電源が切れます。

ACアダプタで使う

本パソコンを長時間使うとき、またはバッテリーを充電するときは、ACアダプタを取り付けます。パソコン本体を持ち運ぶときや、長期間本パソコンを使わないときは、ACアダプタを取り外します。

ここでは、以下のことを説明します。

- ACアダプタを取り付ける ●▶ P.59
- ACアダプタを取り外す ●▶ P.60

ACアダプタを取り付ける

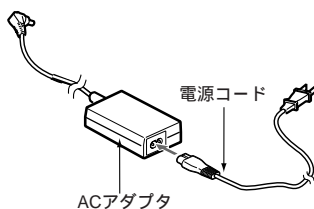
⚠ 警告



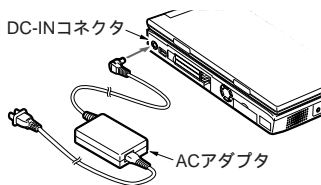
近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。

そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

1 電源コードを接続します。



2 ACアダプタをDC-INコネクタに接続します。



3 ACアダプタをコンセントに接続します。

AC アダプタを取り外す

重要

バッテリーは充電されていますか

本パソコンを使っている途中でACアダプタを取り外すときは、バッテリーが充電されているか確認してください。

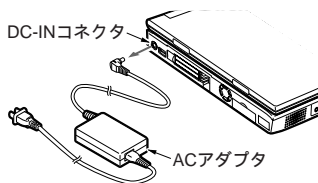
●▶「バッテリーの残量を確認する」(P.65)

次の場合は必ず AC アダプタを取り外してください

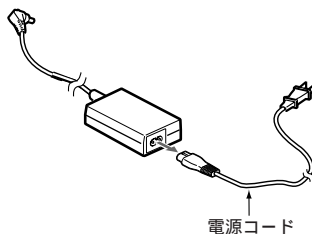
- オプション機器の取り付けや取り外しを行うとき
- 本パソコンを長期間使わないとき

1 ACアダプタをコンセントから抜きます。

2 ACアダプタをDC-INコネクタから取り外します。



3 電源コードを取り外します。



バッテリーで使う

ここでは以下のことを説明します。


- バッテリーを充電する ●▶ P.62
- バッテリーの充電時間 ●▶ P.64
- バッテリーの稼働時間 ●▶ P.64
- バッテリーの残量を確認する ●▶ P.65
- バッテリーの取り扱い上の注意 ●▶ P.69
- 内蔵バッテリーパックを交換する ●▶ P.70

重要

充電してください

本パソコンや増設用内蔵バッテリーユニット（別売）ご購入時、または1ヵ月以上充電していないときは、充電してからお使いください。




次の場合は必ず AC アダプタを取り付けてください

- パソコン通信やインターネットを利用するとき
- ハードディスク、CD-ROM、DVD-ROM、スーパーディスクに頻繁にアクセスするとき
- LAN カードを使用するとき
-  パソコンをふりだしにもどす本』の作業を行うとき

バッテリーを充電する

重要

途中で充電をやめないでください

バッテリーを充電するときは、バッテリー充電表示（状態表示LCDの→の→）が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。満充電になると→が消えます。バッテリー残量表示がになっていても、左端が点滅（）していたり、→が表示されているあいだは、満充電ではありません。

充電中の周囲の温度条件

充電は、周囲の温度が5～35の範囲で行ってください。周囲の温度が高すぎたり低すぎたりする場合は、得られる電池容量が低くなります。また、周囲の温度が高いとき（35以上）は、バッテリーの劣化の原因にもなります。

バッテリーを使った直後に充電するときの注意

本パソコンをバッテリーで使った直後は、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまで充電を開始しないことがあります。


バッテリーの残量について

バッテリーが約90%以上残っているときは、充電を開始しないことがあります。

●▶「バッテリーの残量を確認する」(P.65)

1 ACアダプタを取り付けます。



●▶「ACアダプタを取り付ける」(P.59)

ACアダプタを取り付けると充電が始まり、バッテリー充電表示（状態表示LCDの→の→）が表示されます。

状態表示LCDに何も表示されなかったり、バッテリー充電表示が表示されな
いときは、充電が完了しています。

2 バッテリー充電表示 (状態表示 LCD の の) が消えたことを確認します。

バッテリー充電表示は、充電が完了すると消えます。

バッテリー残量表示は、充電が完了すると点滅 () から点灯 () に変わります。

- ▶「バッテリーの残量を確認する」(P.65)
- ▶「バッテリーの充電時間」(P.64)

アドバイス

電源を切っているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示 LCD の表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリー充電表示を確認してください。

3 AC アダプタを取り外します。

- ▶「AC アダプタを取り外す」(P.60)

アドバイス

充電中もパソコンを使えます

バッテリーの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っていないときよりも長くなります。

- ▶「バッテリーの充電時間」(P.64)

増設用内蔵バッテリーユニット (別売) を充電するとき

増設用内蔵バッテリーユニットをマルチベイに取り付けて、パソコン本体に AC アダプタを取り付けると、充電が始まります。

- ▶「増設用内蔵バッテリーユニットを増設する」(P.92)

内蔵バッテリーパックと増設用内蔵バッテリーユニットの両方を取り付けているときは、並行して充電されます。

作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント (●▶P.4) に触れてください。フラットポイントに触れても元の状態に戻らないときは、SUS/RES スイッチ (●▶P.4) を押してください。

本パソコンは、バッテリーで使うときに節電するように、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

バッテリーの充電時間

充電時間は、電源の状態によって異なります。

新品で充電残量0%のバッテリーパックを満充電(100%充電されている状態)にする場合は、次の表のとおりです。

電源の状態	状態表示 LCD	パソコンの状態	充電に必要な時間
電源入	①が点灯	動作中	約 8 時間 (約 11 時間)
	①が点滅	サスペンド (一時停止) 状態	
電源切	①が消灯	終了	約 3 時間 (約 5.5 時間)

「充電に必要な時間」の()内は増設用内蔵バッテリーユニット(別売)を増設している場合の時間です。

サスペンドについて ●▶「サスペンド機能を使う」(P.74)

バッテリーの稼働時間

バッテリーの稼働時間は、バッテリーの状態や作業内容によって異なります。パソコン通信など、大量の電力を消費する作業を行うと、バッテリーの稼働時間は短くなります。

新品のバッテリーを満充電にした場合、稼働時間の目安は、以下のとおりです。

バッテリーパック(添付)のみ	約 1.5 時間
バッテリーパック(添付) + 増設用内蔵バッテリーユニット(別売)	約 3.5 時間

使用条件：オプション機器を取り外している状態で、Windows98の「電源の管理」やBIOSセットアップで節電の設定を有効にしているとき(ご購入時は有効)

増設用内蔵バッテリーユニットについて ●▶「増設用内蔵バッテリーユニットを増設する」(P.92)

バッテリーの稼働時間について

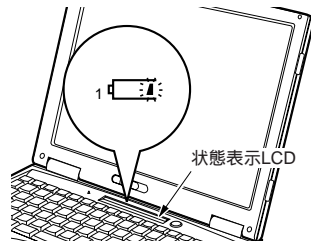
- 周囲の温度が低いときは、周囲の温度が高いときに比べて充放電の能力が低くなるため、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリーの稼働時間が短くなります。新しいバッテリーパックに交換してください。
 - ▶「内蔵バッテリーパックを交換する」(P.70)
 - ▶「増設用内蔵バッテリーユニットを増設する」(P.92)

バッテリーの残量を確認する

バッテリーの残量がなくなると、作業中のデータが保存できなくなることがあります。本パソコンをバッテリーで使っているときは、状態表示LCDでバッテリー残量を確認してください。

バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に状態表示LCDで確認できます。バッテリー残量表示は、充電をするタイミングの目安になります。

**バッテリー残量表示について**


状態表示LCDに表示されるバッテリー残量表示は、バッテリー(リチウムイオン電池)の特性上、使用環境(温度条件やバッテリーの充電回数など)により、実際のバッテリー残量と異なる表示をする場合があります。

アドバイス

バッテリーパック装着表示の左の数字について

バッテリーパック装着表示の左の数字（1または2）は、取り付けられているバッテリーの種類を示しています。

→  : パソコン本体の内蔵バッテリーパック


→  : マルチベイの増設用内蔵バッテリーユニット（別売）

バッテリー充電表示（状態表示LCDのの)について

バッテリーが充電中であることを示しています。充電が完了すると矢印は消えます。

 バッテリー残量が約 100 ~ 76%であることを示します。




 バッテリー残量が約 75 ~ 51%であることを示します。



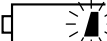
 バッテリー残量が約 50 ~ 26%であることを示します。



 バッテリー残量が約 25 ~ 13%であることを示します。
充電してください。




●▶「バッテリーを充電する」(P.62)

 バッテリー残量が約 12%以下であることを示します。
バッテリー残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。しばらくするとバッテリーの残量がなくなります。




この状態になったときは、すぐにサスペンド（一時停止）してください。

●▶「LOW バッテリー状態」(P.67)

 バッテリー切れ状態（充電残量 0%）であることを示します。
すぐに充電してください。

●▶「バッテリーを充電する」(P.62)

バッテリーの異常表示


バッテリーが正しく充電されないときは、 (バッテリー残量表示) が点滅します。バッテリーを取り付け直してください。

取り付け直しても表示される場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーに交換してください。

- ▶「内蔵バッテリーパックを交換する」(P.70)
- ▶「増設用内蔵バッテリーユニットを増設する」(P.92)

ロー

LOW バッテリー状態



バッテリーの残量が約12%以下の状態を「LOWバッテリー状態」といいます。この状態になると、状態表示LCDのバッテリー残量表示の右端が点滅()し、警告音が鳴ります。

このままにしておくと、バッテリーが切れて、作業中のデータが保存できなくなる場合があります。


LOWバッテリー状態になったときは、必ず以下の操作をしてください。

アドバイス

次の場合は警告音が聞こえません

- スピーカーをOFFにしているとき
 を押しながら  を押すたびに、スピーカーのONとOFFが切り替わられます。ピーと音がするときに、スピーカーがONです。
- 音量ボリュームを小さくしているとき

1 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると状態表示LCDに が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消え、サスペンドします。

- ▶「サスペンド機能を使う」(P.74)



2 ACアダプタを取り付けます。

●▶「ACアダプタを取り付ける」(P.59)

ACアダプタを取り付けると、充電が始まります。

3 SUS/RESスイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯になり、しばらくすると画面が表示され、パソコンがレジュームし(サスペンドする前の状態に戻り)ます。



重要

LOW バッテリー状態になったときの注意

- LOW バッテリー状態のまま放置すると、自動的にサスペンドします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスペンドしません。バッテリーの残量にご注意ください。
 - LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかにACアダプタを取り付けてください。
- ▶「ACアダプタを取り付ける」(P.59)

バッテリーの取り扱い上の注意

自然放電します

- バッテリーは、充電後お使いにならずに保管しても、約1ヵ月で自然放電してしまいます。バッテリーは使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間(約1ヵ月以上)本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーパックを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーパックの寿命が短くなります。

消耗品です

バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下します。バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

- ▶「内蔵バッテリーパックを交換する」(P.70)
- ▶「増設用内蔵バッテリーユニットを増設する」(P.92)

また、パソコンを長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度は、パソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。

2

3

バッテリーで使う

内蔵バッテリーパックを交換する

バッテリーの稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

新しいバッテリーは、以下のものをお買い求めください。

商品名 : Li-ion バッテリーパック FM-19

商品番号 : 0643760

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

⚠ 警告

感電



- 内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。
- 内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行うときは、誤って落下させるなどして、強い衝撃を与えないください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーパックはお使いにならないください。
感電や火災、破裂の原因となります。
- バッテリーは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付けや取り外しを行う場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

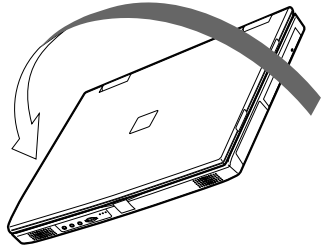
●▶「電源を切る」(P.56)

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

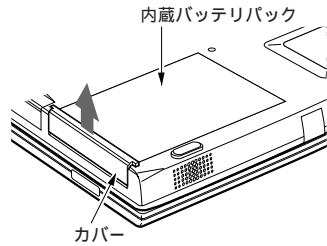
3 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外します。

●▶「ACアダプタを取り外す」(P.60)

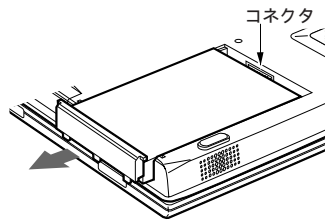
- 4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。



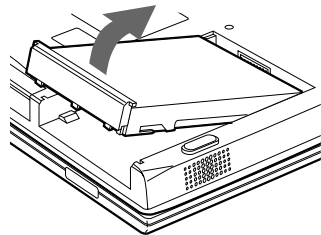
- 5 内蔵バッテリーパックのカバーを上へスライドします。



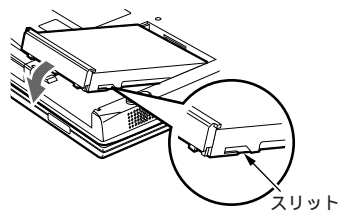
- 6 内蔵バッテリーパックを外側にスライドします。
内蔵バッテリーパックが、内蔵バッテリーパックスロットのコネクタから外れます。



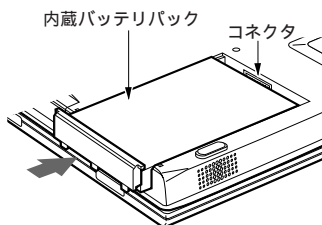
- 7 内蔵バッテリーパックを斜め上に持ち上げながら、取り外します。



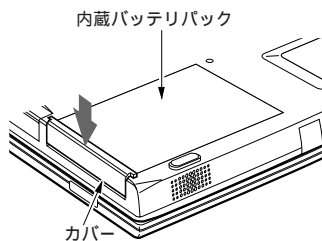
- 8 新しい内蔵バッテリーパックを内蔵バッテリーパックスロットに取り付けます。
パソコン本体の突起と内蔵バッテリーパックのスリットを合わせてください。



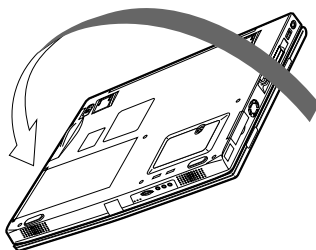
- 9** 内蔵バッテリーパックをスライドします。
内蔵バッテリーパックスロットのコネクタが、内蔵バッテリーパックとしっかり接続するようにスライドしてください。



- 10** 内蔵バッテリーパックのカバーを下にスライドします。



- 11** パソコン本体を裏返します。



節電する

パソコンを使っている途中でひと休みするときは、パソコンも休ませて節電しましょう。

本パソコンには、パソコンの動作を停止させて節電するための、「サスペンド機能」と「Save To Disk機能」があります。

ここでは以下のことを説明します。

- サスペンド機能と Save To Disk 機能 セーブ トゥ ディスク ●▶ P.73
- サスペンド機能を使う ●▶ P.74
- Save To Disk 機能を使う ●▶ P.78

セーブ トゥ ディスク サスペンド機能と Save To Disk 機能

サスペンド機能とは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させる機能です。

Save To Disk 機能とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコンの電源を切る機能です。

サスペンド機能と Save To Disk 機能の違いは以下のとおりです。

	サスペンド機能	Save To Disk機能
作業状態の保存場所	メモリ	ハードディスク
電源の状態	節電状態 (メモリの内容を維持するためだけの電力を消費する)	電源を切っている状態 (電力を消費しない)

重要

LANカードなどのPCカードをお使いのとき

LANカードを使ってネットワークに接続しているときなど、PCカードをセットしているときは、サスペンド機能や Save To Disk機能が使えないことがあります。PCカードをお使いのときに作業を中断する場合は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

サスペンド機能を使う

サスペンド機能を使うと、パソコンの動作を一時停止し、作業を中断できます。

中断した作業を再開すると、サスペンド機能を使う前の状態に戻ります。

重要

サスペンドが可能な時間が短くなるとき

新品のバッテリーを満充電にした状態で、約1日サスペンドできます。ただし、「PMSet98」で、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がに設定されている場合(ご購入時は)は、サスペンド可能な時間が短くなる場合があります。

●▶「節電の設定を変更する」(P.222)

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときは、サスペンドしないでください

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときにサスペンドすると、レジューム時にCD-ROMが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROMのアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROMをセットし直してください。

オプション機器を接続しているとき

ドライバのインストールが必要なオプション機器を接続しているときは、ドライバのインストールを終了してからサスペンド機能を使ってください。

作業を中断する（サスペンド機能）




サスペンドするには、SUS/RES スイッチ（●▶P.4）を使う方法や、液晶ディスプレイを閉じる方法などがあります。

重要

サスペンドについての注意

- ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PC カード利用中は、それらの作業を完了または中断してからサスペンドしてください。
- バッテリーで本パソコンを使っているとき、サスペンドが可能な時間は、新品のバッテリーを満充電にした状態で約1日です。サスペンドしているときにバッテリーが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。バッテリーでパソコンを使っているときのサスペンドには、十分注意してください。長い時間サスペンドするときは、ACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- Windows98 が起動するまでの間は、サスペンドしない場合があります。

SUS/RES スイッチを使う

- 1 状態表示LCDにやが表示されていないことを確認し、SUS/RES スイッチを押します。しばらくすると状態表示LCDにが点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。



重要

SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください



SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

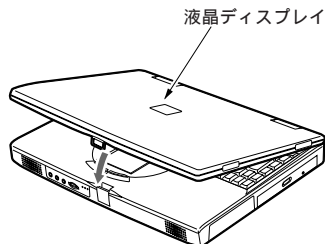
液晶ディスプレイを閉じる

重要

液晶ディスプレイを閉じてサスペンドするときの注意

Windows98 の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

- 1 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンドしないようにするには BIOS セットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスペンド」を「使用しない」に設定してください（ご購入時は「使用する」）。

●▶「BIOS セットアップの操作のしかた」（P.156）

サスペンドの別の操作方法

「スタート」ボタンから「Windows の終了」をクリックして表示される「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」をクリックしても、サスペンドできます。

中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

重要

レジュームするときの注意

サスペンドした直後にレジュームしないでください。レジュームするときには、10 秒ほど待ってください。

- 1 SUS/RES スイッチを押します。
状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。

**重要**

SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください

SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

アドバイス

液晶ディスプレイを閉じているとき

液晶ディスプレイを閉じてサスペンドしたとき、またはサスペンドしたあとで液晶ディスプレイを閉じた場合は、液晶ディスプレイを開くとレジュームします。

レジューム時の画面の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

レジューム後にキーボードが使用できないとき

BIOS セットアップの「セキュリティ」メニュー（●▶ P.181）で、「起動時のパスワード」と「レジューム時のパスワード」を「使用する」に設定していると、レジューム後はフラットポイント（マウス）と、パスワードを入力する以外のキーボード操作ができません（状態表示LCDの[A]、[↑]が一定時間順番に表示されます）。

この場合は、起動時のパスワードを入力し、[Enter]を押してください。キーボードとフラットポイント（マウス）が使用できるようになります。

Save To Disk 機能を使う




Save To Disk機能を使うと、作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断できます。中断しているあいだは、電源が切れているので、電力を消費しません。

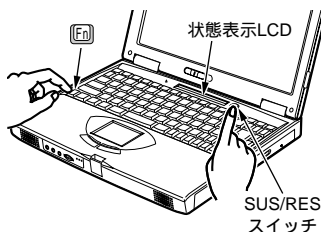
中断した作業を再開すると、中断する前の作業状態に戻ります。

重要

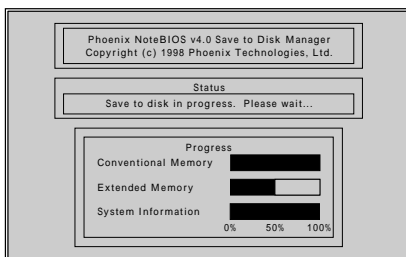
オプション機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うとき PCカードやプリンタなどの機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うと、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

作業を中断する (Save To Disk 機能)

- 1 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 2  を押しながら、SUS/RES スイッチを押します。



ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



アドバイス

SUS/RES スイッチを押すだけで Save To Disk 機能を使いたいとき BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定してください。

●▶「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.156)

Save To Disk 機能が働かないとき

Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。

●▶「Save To Disk 領域」(P.227)

本パソコンご購入時は、Save To Disk 領域が作成されています。

中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

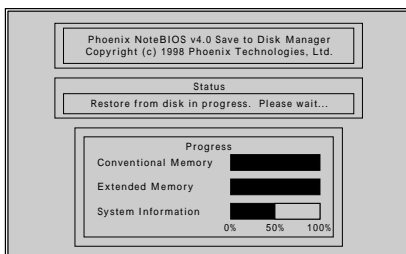
重要

レジュームするときの注意

Save To Disk 機能で作業を中断した直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒ほど待ってください。

1 SUS/RES スイッチを押します。

保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



アドバイス

レジューム時の画面表示の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

コラム

節電の設定

フラットポイント（マウス）や、キーボードの操作をしないまま一定時間過ぎると、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

本パソコンご購入時は、バッテリーで使っているときに節電機能が働くように設定されています。

Windows98の「電源の管理」で、節電の設定を変更できます。ACアダプタで使うときに節電したり、節電機能を使わないようにすることもできます。

なお、通常お使いになるうえでは、節電の設定を変更する必要はありません。

●▶「節電の設定を変更する」(P.222)

3

オプション機器を使うには

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、取り付けられるオプション機器の例を紹介し、取り付け方法や設定作業などについて説明しています。

1. オプション機器について 82
2. プリンタを接続する 87
3. 増設用内蔵バッテリーユニットを増設する 92
4. メモリを増やす 94
5. マウス/テンキーボードを接続する 102
6. PC カードをセットする 104
7. 携帯電話や PHS を接続する 120
8. CRT ディスプレイを接続する 125
9. 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける ... 140
10. 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける ... 143
11. その他のオプション機器 146

1

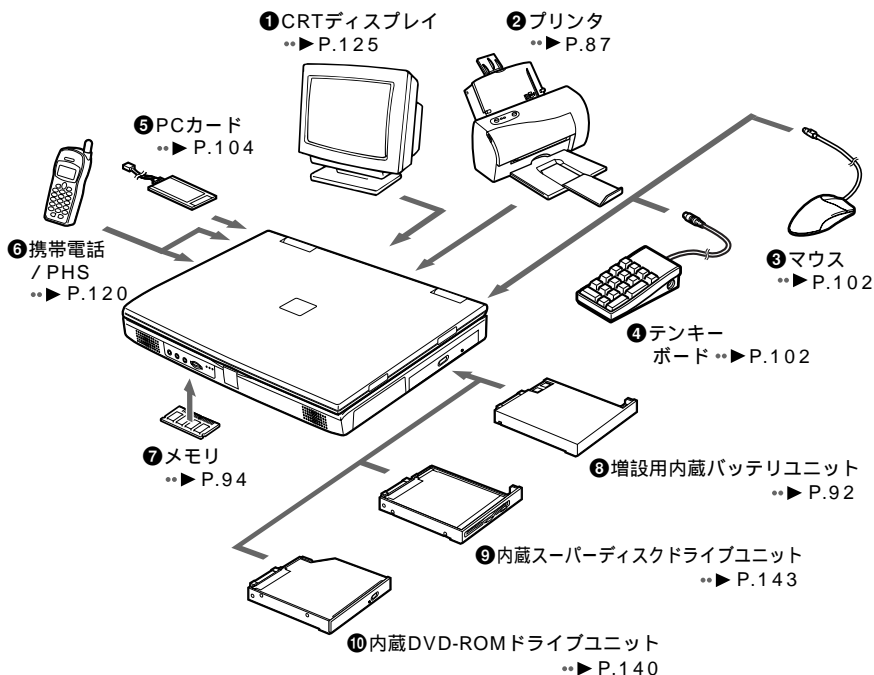
オプション機器について

ここでは以下のことを説明します。

- オプション機器の紹介 ●▶ P.82
- オプション機器を接続する前の確認 ●▶ P.84

オプション機器の紹介

本パソコンに取り付けられるオプション機器には、次のようなものがあります。接続のしかたなどについて詳しくは、各機器の参照先をご覧ください。



- ① シーアールティ- CRT ディスプレイ
液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。
- ② プリンタ
パソコンで作った文書や画像などを印刷できます。
- ③ マウス
マウスポインタの操作がより快適にできます。
- ④ テンキーボード
数字を効率よく入力できます。
- ⑤ ピーシー PC カード
パソコンにさまざまな機能を追加できます。
- ⑥ 携帯電話 / PHS
外出先など、電話回線が利用できない場所でも、インターネットやパソコン通信ができます。
- ⑦ メモリ
メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになり、パソコンの処理が快適になります。
- ⑧ 増設用内蔵バッテリーユニット
より長い時間バッテリーで使うことができます。
- ⑨ 内蔵スーパーディスクドライブユニット
フロッピーディスクと、より多くのデータを保存できるスーパーディスクを使えます。
- ⑩ ディーブイディロム 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット
DVD-ROM や CD-ROM の映像や音声を再生できます。

アドバイス

取り付けられるその他のオプション機器

- 外径 3.5mm のミニプラグを持つオーディオ機器
マイクやアンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンなどを、本体前面のジャックに接続できます。
- ^{スカジー} SCSI 規格対応の機器
SCSI 規格に対応した外付けハードディスクや ^{エムオー} MO (光磁気ディスク) ドライブなどを、本体左側面の PC カードスロットに SCSI カードをセットすることで接続できます。
- ^{アールエス} RS-232C 規格対応の機器
RS-232C 規格に対応した機器 (デジタルカメラなど) を、本体背面のシリアルコネクタに接続できます。
- ^{ユースビー} USB 規格対応の機器
USB 規格に対応した機器 (マウスやキーボードなど) を、本体左側面の USB コネクタに接続できます。

オプション機器を接続する前の確認

ここでは別売のオプション機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

^{ピーシー エーティー}

本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンには、さまざまな種類のものがあります。本パソコンは、「PC/AT 互換機」です。また、通称で「^{ドス} ^{ファイ} DOS/V パソコン」と呼ばれることもあります。

本書では、オプション機器の接続について、PC/AT 互換機の特徴に沿って説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。

ただし、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。本書をよくご覧になり、取り付けてください。

用語 ドライバ

パソコンに取り付ける機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、パソコンとオプション機器との間を仲介します。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、機器が理解できるように翻訳するのがドライバの役目です。

ドライバは、それぞれの機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどの機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

用語 インストール

ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にすることです。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。機器によっては、取り付けかたなどが異なる場合があります。本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するケーブルは、パソコンの規格に合わせた専用のものが用意されています。

本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されたものです。また、プリンタには「プリンタケーブル」というように、オプション機器によって、ケーブルの種類が決まっています。

形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

純正品をお使いください

オプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。純正品については、販売店などで配布している「価格表」でご確認ください。他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

取り付け / 取り外し時の注意

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、パソコン本体および取り付けられている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- PS/2規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。
- 電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。内蔵機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

2

プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- 必要なものを用意する ●▶ P.87
- プリンタを接続する ●▶ P.88

3

2
プリンタを接続する

必要なものを用意する

⚠ 警告

感電

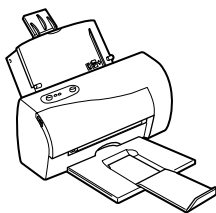


プリンタは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

プリンタによって、用意するものが異なります。プリンタのマニュアルもご覧ください。

● プリンタ



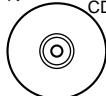
Windows98で動作可能なものを用意してください。

● プリンタのドライブ

フロッピーディスク

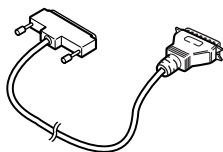


CD-ROM



プリンタによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類あるときは、「Windows98 用」、「PC/AT 互換機用」、「DOS/V 用」などと表示されたものをお使いください。

● プリンタケーブル



プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のものを用意してください。

● プリンタのマニュアル



プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CD-ROM で見るマニュアルもあります。

プリンタを接続する

⚠ 警告

感電



プリンタの接続や取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電、火災または故障の原因となります。

⚠ 注意

故障



ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

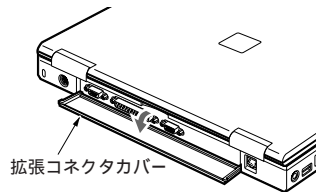
重要

プリンタの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

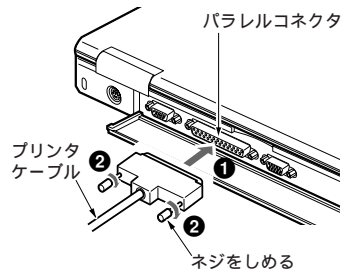
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
●▶「電源を切る」(P.56)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外します。
●▶「ACアダプタを取り外す」(P.60)
- 4 パソコン本体背面の拡張コネクタカバーを、矢印の方向に開きます。



- 5 パソコン本体背面の平行コネクタに、プリンタケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

- ① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- ② プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



- 6 プリンタに、プリンタケーブルを接続します。
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 7 プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

8 プリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。
ドライバのインストールでフロッピーディスクやCD-ROMを使うことがあります。

●▶「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.33)

●▶「CD-ROM をセットする / 取り出す」(P.38)

9 初めて接続したプリンタを使うには、ドライバのインストールという
設定作業を行います。

プリンタのマニュアルをご覧になり、必ずドライバのインストールを行って
ください。

プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まない場合

●▶ 次のアドバイス「プリンタドライバをインストールするときの注意」

アドバイス

プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに、「接続して電源を入れると自動的にドライバのイ
ンストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によっ
ては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まない
ことがあります。そのときは次のように操作してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わ
せ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタ」ウィンドウで「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。

「Windows98のCD-ROMを挿入してください」というメッセージが表示されたとき
「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで `c:\windows\options`
`¥cabs` と入力して「OK」をクリックしてください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

プリンタを取り外すとき

- パソコンとプリンタの電源を切り、ケーブルを取り外してください。
- もう一度同じプリンタを取り付けるときは、ドライバのインストールを
行う必要はありません。

印刷のしかたについて

印刷のしかたについては、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

FMLBPシリーズのプリンタを接続したとき

FMLBPシリーズのプリンタを接続したときに、プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われないことがあります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。操作パネルについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」をクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。プリンタ側のモードがESC/Pモードの場合は、「ESC/Pモード」をクリックします。プリンタ側のモードがFMモードの場合は、「FMモード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

- 本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。

XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年2月現在)

- プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

- 最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
- 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。

本パソコンを再起動するときプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

3

増設用内蔵バッテリーユニットを増設する

増設用内蔵バッテリーユニットを取り付けると、より長い時間バッテリーで本パソコンを使うことができます。

増設用内蔵バッテリーユニットは、FMVNBT16をお使いください。
ここでは以下のことを説明します。

- 必要なものを用意する ●▶ P.92
- 増設用内蔵バッテリーユニットを取り付ける ●▶ P.93

必要なものを用意する

⚠ 警告

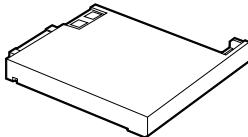
感電



増設用内蔵バッテリーユニットは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

- 増設用内蔵バッテリーユニット



増設用内蔵バッテリーユニット (FMVNBT16) は、マルチベイに取り付けることができます。

増設用内蔵バッテリーユニットを取り付ける

⚠ 警告

感電



増設用内蔵バッテリーユニットの取り付けや取り外しを行うときは、誤って落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーはお使いにならないでください。
感電や火災、破裂の原因となります。

アドバイス

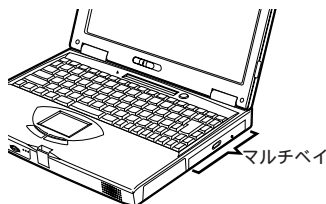
増設用内蔵バッテリーユニット取り扱い上の注意

増設用内蔵バッテリーユニットを取り扱う前に、取り扱い上の注意をご覧ください。

●▶「ユニット取り扱い上の注意」(P.22)

1 増設用内蔵バッテリーユニットをマルチベイに取り付けます。

●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)



アドバイス

増設用内蔵バッテリーユニットを取り外すとき

●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)

3

増設用内蔵バッテリーユニットを増設する

4

メモリを増やす

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

本パソコンご購入時のメモリ容量は64MBです。最大128MBまで増やすことができます。

ここでは以下のことを説明します。

- 必要なものを用意する ●▶ P.94
- メモリを取り付ける / 取り外す ●▶ P.95

用語 メモリ

記憶装置の総称です。ここでいうメモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。

必要なものを用意する

警告

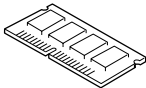
感電



メモリは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

- **メモリ** ラム
(拡張RAMモジュール)



FMVNM16SB、FMVNM64SC、FMVNM32SCのメモリのうち、1枚取り付けられます。

それぞれの数字はメモリの容量を示しています。

- **プラスのドライバー**



本パソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったものをお使いください。

メモリを取り付ける / 取り外す

⚠ 警告



感電 メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



誤飲 取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪くて飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



けが メモリの取り付けや取り外しをするときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また故障の原因となることがあります。



故障 メモリの取り付けや取り外しをするときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持ってください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

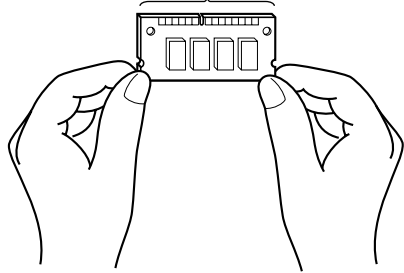
重要

メモリの取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。

取り付け / 取り外し時の注意

- メモリは静電気に対して非常に弱い部品でできています。そのため人間の体内にたまった静電気によって壊れる場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。
- メモリを取り扱うときは、右図のようにふちを持ってください。また、メモリの取り付けや取り外しをするときは、メモリの端子やパソコン本体内部の端子には絶対に触れないでください。
- メモリの取り付けや取り外しをするときに外したネジは、パソコン本体内部には絶対に落とさないでください。

この部分（端子）には手を触れないでください。



Save To Disk 機能で電源を切らないでください

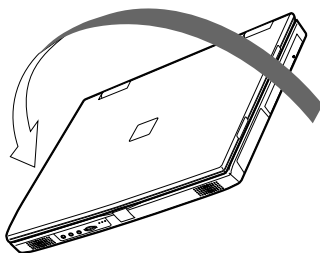
メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ず「電源を切る」の手順で電源を切ってください。Save To Disk 機能で電源を切ると、作業中のデータが失われるおそれがあります。

- ▶「電源を切る」(P.56)
- ▶「Save To Disk 機能を使う」(P.78)

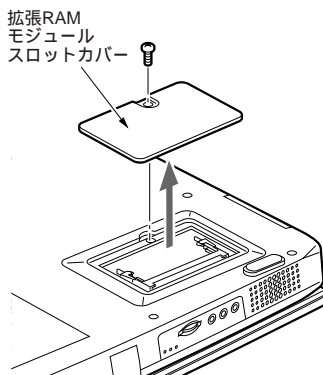
メモリを取り付ける

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
 - ▶「電源を切る」(P.56)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 AC アダプタを取り付けている場合は、AC アダプタを取り外します。
 - ▶「AC アダプタを取り外す」(P.60)

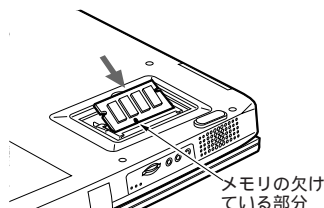
- 4** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。



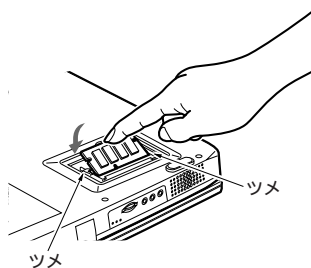
- 5** ネジを取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。



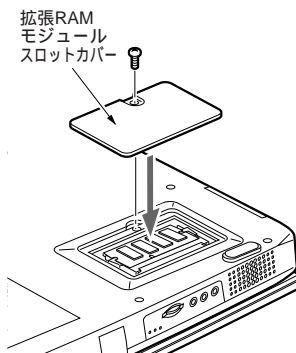
- 6** メモリを斜めに差し込みます。メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。



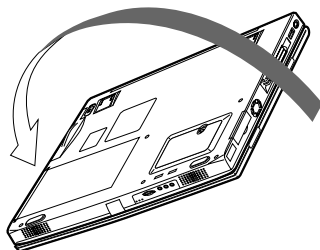
- 7** メモリをはめ込みます。メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。



- 8 手順 5 で取り外したネジで、拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。



- 9 パソコン本体を裏返します。



取り付けたメモリがパソコンで使える状態になっているかどうかを確認してください。

- ▶「取り付けたメモリが使える状態か確認する」(P.99)

重要

Windows98 が起動しないとき

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、何も表示されないことがあります。その場合は、はじめにSUS/RESスイッチを押してサスペンド(一時停止)させます。その状態でSUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れます。電源が切れたら、メモリを取り付け直してください。


- ▶「メモリを取り外す」(P.100)

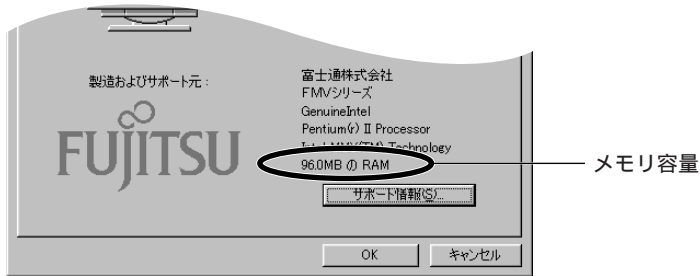
- ▶「メモリを取り付ける」(P.96)

アドバイス

取り付けたメモリが使える状態を確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
●▶「電源を入れる」(P.54)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。



画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
「コントロール パネル」ウィンドウに戻ります。

数値が増えていないとき

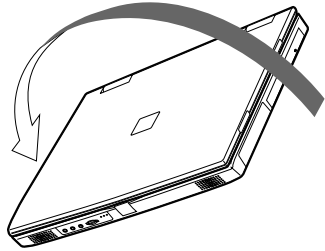
メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

- ▶「メモリを取り付ける」(P.96)

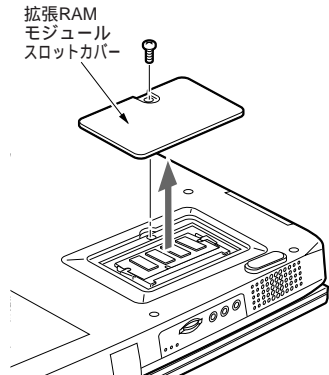
メモリを取り外す

増やしたメモリを大容量のメモリに交換するときは、メモリを取り外す必要があります。

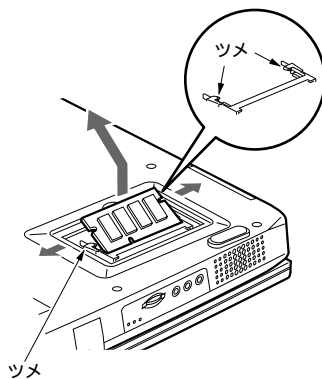
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
●▶「電源を切る」(P.56)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外します。
●▶「ACアダプタを取り外す」(P.60)
- 4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。



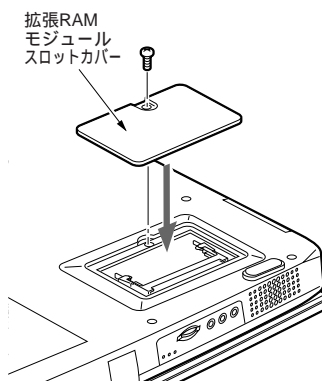
- 5 ネジを取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。



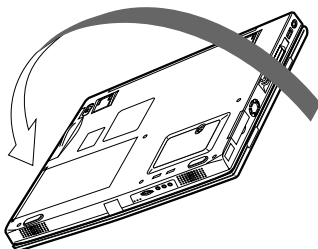
- 6** メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、メモリを取り外します。



- 7** 手順5で取り外したネジで、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り付けます。



- 8** パソコン本体を裏返します。



3

4
メモリを増やす

5

マウス / テンキーボードを接続する

マウスを接続すると、より快適にマウスポインタの操作をすることができます。

テンキーボードを接続して使うと、数字を効率よく入力できます。

ここではPS/2規格のマウスやテンキーボードの接続方法を説明します。

⚠ 警告

感電



マウス、テンキーボードは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

重要

接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。

ただし、PS/2規格のマウスは、セットアップ前に接続することができます。

マウスの接続についての注意

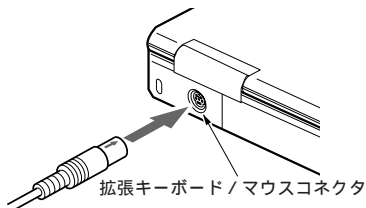
PS/2規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。

1 パソコン本体の電源を切ります。またはサスペンドします。

- ▶「電源を切る」(P.56)
- ▶「作業を中断する(サスペンド機能)」(P.75)

2 マウスまたはテンキーボードを、パソコン本体背面の拡張キーボード / マウスコネクタに接続します。

マウスまたはテンキーボードのコネクタに示されている矢印を上向きにし、奥までしっかりと差し込んでください。



アドバイス

マウスの練習

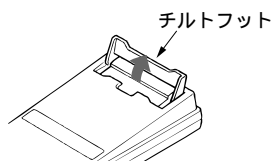
⑥『かるがるパソコン入門』で、実際の画面を使って、マウスの練習ができます。

その他のキーボードも接続できます

本パソコンの拡張キーボード/マウスコネクタには、101キーボード、OADGキーボード、JISキーボード、親指シフトキーボードも接続できます。ただし、親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムのOAK V5.0以降が必要です。

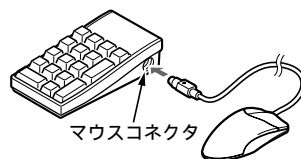
テンキーボードの傾きを調節できます

テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。






マウスとテンキーボードを両方使うには

本パソコンでテンキーボードとマウスの両方を同時に接続して使うときは、パソコン本体にテンキーボードを接続し、マウスはテンキーボードのマウスコネクタに接続してください。



テンキーボードで数字を入力できるとき

状態表示LCDにが表示されているときにテンキーボードで数字を入力できます(パソコン本体のテンキーは無効になります)。

状態表示LCDにが表示されていないときは、**(Shift)**を押しながら**(Num Lk)**を押すか、テンキーボードの**(Num Lock)**を押してください。状態表示LCDにが表示され、テンキーボードで数字を入力できるようになります。

6

ピーシー

PC カードをセットする

PC カードをセットすると、パソコンにさまざまな機能を追加できます。ここでは以下のことを説明します。

- PC カード取り扱い上の注意 ●▶ P.105
- 必要なものを用意する ●▶ P.106
- PC カードをセットする ●▶ P.107
- PC カードを取り出す ●▶ P.117

コラム

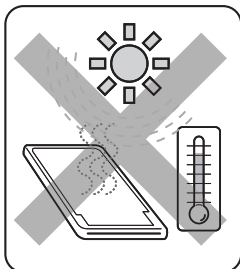
PC カードの種類

代表的な PC カードには、以下のようなものがあります。

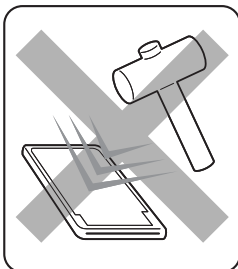
- SCSI スキャシー カード
SCSI 規格対応のハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。
- LAN ラン カード
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。
- デジタル携帯電話接続カード、PHS ピーエイチエス 接続カード
デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。

PC カード取り扱い上の注意

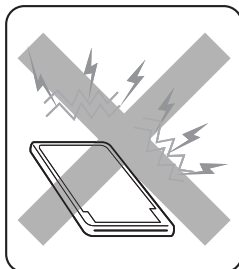
故障をふせぐため、PCカードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



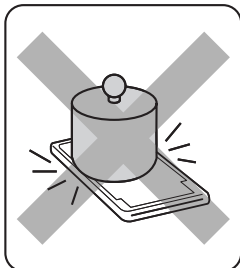
温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



強い衝撃を与えないでください。



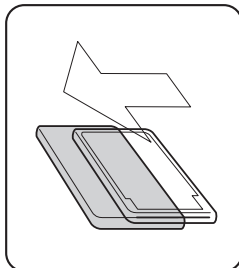
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

必要なものを用意する

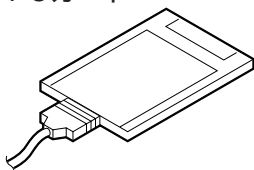
⚠ 警告

感電



PCカードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

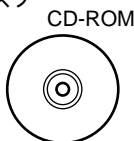
● PCカード



PCMCIA と JEIDA の規格に対応した TYPE 1 ~ TYPE 3 の PC カードが使えます。

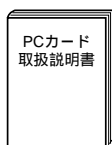
TYPE 1 と TYPE 2 のカードは、同時に 2 枚セットできます。TYPE 3 のカードは 1 枚のみセットできます（他の PC カードとの同時使用はできません）。

● PCカードのドライブ フロッピーディスク



PC カードによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。

● PCカードのマニュアル



PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

用語 ピーシーエムシーアイエー PCMCIA と ジェイダ JEIDA

PCMCIA は、米国の PC カード標準化を推進する団体 Personal Computer Memory Card International Association の略称です。

JEIDA は、日本電子工業振興会（Japan Electronic Industry Development Association）の略称です。PCMCIA と JEIDA は共同で PC カードの規格を制定しています。一般的には、これらの団体が制定した規格のことを「PCMCIA 準」、「JEIDA 準」 といいます。

コラム

PC カードの厚さ（タイプ TYPE）について

PC カードには、厚さによって TYPE 1 ~ TYPE 3 の 3 種類があります。TYPE 1 は 3.3mm、TYPE 2 は 5mm、TYPE 3 は 10.5mm の厚さです。

PC カードをセットする

⚠ 注意

けが PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。



けがの原因となることがあります。

重要

PCカードのセットは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前にセットすると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

通信関係のPCカードの同時使用について

通信関係のPCカード（LANカード、ISDNカード、モデム/FAXモデムカード、デジタル携帯電話接続カード、通信カードなど）の中には、2枚同時に使えないものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

PCカードをセットするときの注意

PCカードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。

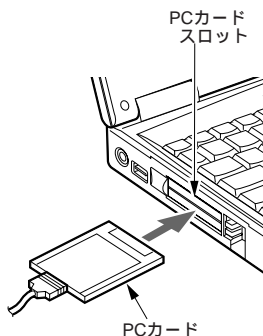
初めてセットするPCカードの場合

PCカードに、フロッピーディスクやCD-ROMなどでドライバが添付されている場合は、ドライバのインストールが必要です。PCカードをセットする前に、内蔵FDDユニットや内蔵CD-ROMドライブユニットを接続してください。

- ▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)
- ▶「内蔵FDDユニットを取り付ける」(P.27)

1 PCカードをPCカードスロットに セットします。

製品名のある面を上にして、PCカード
スロットへ差し込みます。



重要

PCカードスロットについて

- PCカードスロットは、上下2段になっています。下段がスロット1、上段がスロット2です。スロット1、スロット2のどちらにPCカードをセットしてもかまいません。ただし、ZVポート対応のPCカード、TYPE のPCカードはスロット1にセットしてください。
- 別売のOSによっては、PCカードスロットのスロット1、スロット2をそれぞれスロット0、スロット1と読み替える場合があります。

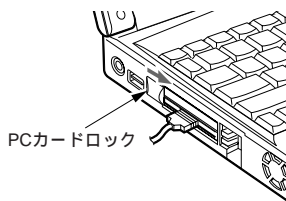
アドバイス

画面やメッセージが表示されたとき

初めてセットするPCカードの場合には、自動的にドライバをインストールする画面が表示されます。そのまま手順2まで操作してから、表示された画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

- ▶「ドライバのインストール」(P.109)

2 PCカードロックを手前にスライド してロックします。



PCカードのコネクタ部分についての注意

PCカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

初めてセットするPCカードの場合は、セットが終わったあと、ドライバのインストールという設定作業を行います。

●▶「ドライバのインストール」

ドライバのインストール

ドライバのインストールは、初めてセットしたPCカードを使うときに必要な設定作業です。

PCカードをセットしたとき、またはセット後に初めて電源を入れたときに表示される画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

●▶「インストール中に表示される画面」

ドライバのインストール方法はPCカードによって異なります。PCカードのマニュアルもご覧ください。

⚠ 注意

- フロッピーディスクをセットおよび取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れしないでください。
けがの原因となることがあります。
- CD-ROM をセットおよび取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れしないでください。
けがの原因となることがあります。

アドバイス

PCカードによっては情報の入力が必要です

PCカードによっては、お使いになるうえで必要な情報（たとえば、LANカードでは、コンピュータ名やワークグループなど）を入力する設定画面が表示される場合があります。あらかじめ設定する内容を確認しておいてください。設定内容について詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

「バージョンの競合」ウィンドウが表示されたとき

PCカードのドライバによっては、ドライバのインストール中に「バージョンの競合」ウィンドウが表示される場合があります。その場合は、新しいファイルを使用してください。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されたとき

PCカードによっては、ドライバのインストールが終了すると、「システム設定の変更」ウィンドウが表示されるものがあります。この場合は、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認し、「はい」をクリックして、本パソコンを再起動してください。

ドライバのインストールが終了したらPCカードが使えるようになっているかどうかを確認してください。

●▶「PCカードのドライバを確認する」(P.114)

インストール中に表示される画面

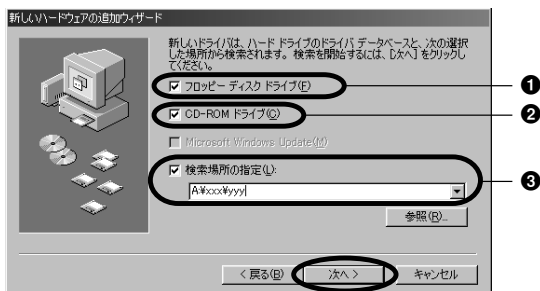
PCカードのドライバをインストール中に、表示される可能性のある画面について説明します。同じ画面が表示されたときの参考にしてください。

参考画面 1



「次へ」をクリックします。

■ 参考画面 2 ■



- フロッピーディスクやCD-ROMが、PCカードに添付されている場合は、ドライブにセットします。



フロッピーディスクの場合

①をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。



CD-ROM の場合

②をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

- ドライバの場所を指定するときは、③をクリックしてにし、「検索場所の指定」の下の欄にドライブ名とフォルダ名を入力して、「次へ」をクリックします。

ドライブ名は、フロッピーディスクのときはa:¥、CD-ROMのときはお客様がお使いのドライブ名（ご購入時はe:¥）を入力します。

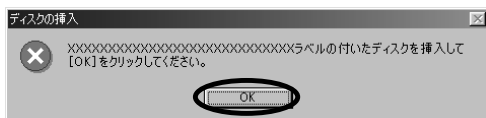
ドライブがフォルダの中に入っているときは、「¥」のあとにフォルダ名を入力します。フォルダ名は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

■ 参考画面 3 ■

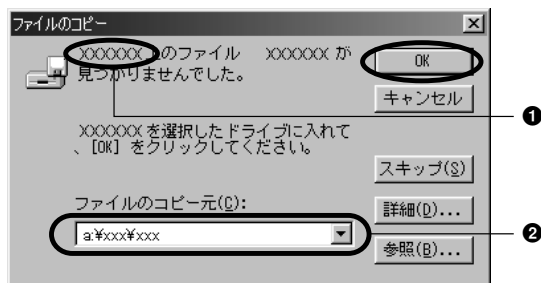


「次へ」をクリックします。

■ 参考画面 4 ■



「OK」をクリックします。



- ① に「Windows 98 CD-ROM」と表示されているときは、② に c:¥windows¥options¥cabs と入力します。
- ① にPCカードに添付されているディスク名が表示されているときは、ドライブにディスクがセットされていることを確認し、② にドライブ名とフォルダ名を入力します。

ドライブ名は、フロッピーディスクのときは a:¥、CD-ROM のときはお客様がお使いのドライブ名（ご購入時は e:¥）を入力します。

ドライバがフォルダの中に入っているときは、「¥」のあとにフォルダ名を入力します。フォルダ名は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

■ 参考画面 5 ■




「完了」をクリックします。

PC カードが使えるようになっているかどうかを確認してください。

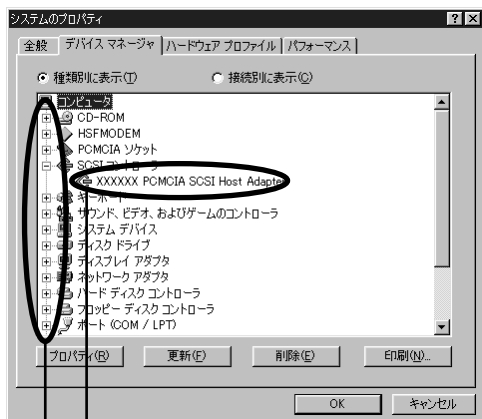
●▶「PC カードのドライバを確認する」(P.114)

PC カードのドライバを確認する

PC カードを使うためのドライバが正しくインストールされているかは、以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

4 お使いになる PC カードの名称が表示されているか確認します。



SCSIカードのドライバを確認する場合の画面例です。


種類の左の \oplus をクリックすると、お使いになるPCカードの名称が表示されます。

5 「OK」をクリックします。


アドバイス


PCカードの名称に「?」「×」「!」が表示されていたとき

正しくドライバがインストールされていません。以下の手順に従って、インストールし直してください。

- 1 お使いになるPCカードの名称をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「ドライバ」タブをクリックします。
- 3 「ドライバの更新」をクリックします。
- 4 画面の指示に従ってドライバをインストールします。
 - ▶「インストール中に表示される画面」(P.1111)ドライバがフロッピーディスクまたはCD-ROMに入っている場合は、「検索方法を選択してください。」というウィンドウで「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を  にし、「次へ」をクリックしてください。また、「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。」というウィンドウや、「デバイスの選択」ウィンドウでは、「ディスク使用」をクリックしてください。
このあとは、画面の指示に従ってください。

「その他のデバイス」が表示されていたとき

「デバイスマネージャ」タブに「その他のデバイス」があるときは、左の  をクリックして、お使いになるPCカードの名称が表示されているかどうかを確認してください。表示されていた場合は、以下の手順に従って、ドライバをインストールし直してください。

- 1 「?」が表示されているPCカードをクリックし、「削除」をクリックします。
- 2 「OK」をクリックします。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 画面の指示に従ってドライバをインストールします。
 - ▶「インストール中に表示される画面」(P.1111)ドライバがフロッピーディスクまたはCD-ROMに入っている場合は、「検索方法を選択してください。」というウィンドウで「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を  にし、「次へ」をクリックしてください。また、「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。」というウィンドウや、「デバイスの選択」ウィンドウでは、「ディスク使用」をクリックしてください。
このあとは、画面の指示に従ってください。

最新のドライバにインストールし直すとき

上記の「PCカードの名称に「?」「×」「!」が表示されていたとき」をご覧になり、ドライバをインストールし直してください。

PC カードを取り出す

重要

PC カード取り出し時の注意

- 必ず手順どおりに PC カードを取り出ししてください。手順どおりに行わないと、PC カードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- PC カードによっては、取り出すときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルをご覧ください。

△ 注意



PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。



使用した直後の PC カードは、高温になっているときがあります。PC カードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。

火傷の原因となります。

1 タスクバーの  (PC カード) をクリックします。

2 「××××××の中止」をクリックします。
××××××には、お使いの PC カードの名称が入ります。

重要

必ず「XXXXXX の中止」をクリックしてください

「XXXXXX の中止」をクリックせずに、PC カードを取り外すと、PC カードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

3 「OK」をクリックします。

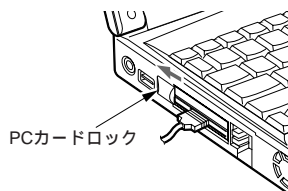


アドバイス

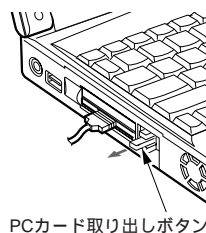
「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたとき「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切ってから手順4へ進んでください。

●▶「電源を切る」(P.56)

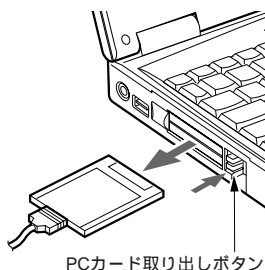
4 PCカードロックを奥にスライドさせて、ロックを外します。



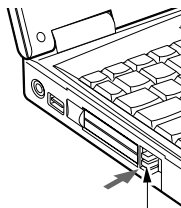
5 PCカード取り出しボタンを押します。PCカード取り出しボタンが飛び出します。



6 PCカードを取り出します。PCカード取り出しボタンを押し、飛び出したPCカードを引き抜きます。



7 PCカード取り出しボタンを押し込みます。



PCカード取り出しボタン

重要

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

7

ピーエイチエス

携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHSを接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話は、パソコン本体左側面のPDCコネクタに接続します。PDCコネクタに対応していない携帯電話やPHSは、接続用のPCカードを利用して接続してください。

ここでは、以下のことを説明します。

- PDC コネクタに接続する ●▶ P.120
- 接続用のPCカードで接続する ●▶ P.122

PDC コネクタに接続する

携帯電話を本パソコンのPDCコネクタに接続し、通信することができます。

必要なものを用意する

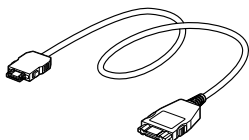
- 携帯電話



お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/>)にてご案内します。

- 携帯電話接続ケーブル

FMV-NCBL92をお使いください。



モデムドライバを更新してください

PDCコネクタを利用して通信するためのドライバは、本パソコンに添付の⑥「アプリケーションCD」に入っています。必ずモデムドライバを更新してください。

●▶「モデムドライバをインストールする」(P.244)

モデムドライバについて詳しくは、モデムのマニュアルをご覧ください。

●▶『FMV-BIBLO 内蔵モデム 取扱説明書』

携帯電話を接続する**△ 注意**

故障

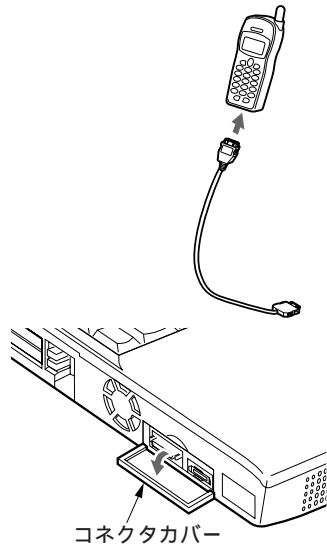
ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話が故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

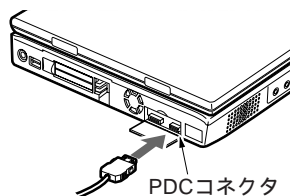
●▶「電源を切る」(P.56)

2 携帯電話接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話に接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。

3 パソコン本体左側面のコネクタカバーを開きます。

- 4 携帯電話接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン左側面のPDCコネクタに接続します。コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話で通信するための設定を行ってください。

- ▶ ④『困ったときのQ&A』の「PDCコネクタに携帯電話を接続して通信したい」

重要

携帯電話を取り外すとき

- 携帯電話接続ケーブルを取り外すときは、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- フロッピーディスクを外付けで使用しているときは、PDCケーブルは取り外せません。

PDCコネクタ経由で通信するときの注意

- 通信中には、サスペンド機能や Save To Disk 機能は使えません。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- PDCコネクタどうしでの対向接続はできません。
- AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバ (Fujitsu LB RWModem V.90 56K J) と仕様が異なります。

接続用の PC カードで接続する

必要なものを用意する

⚠ 警告

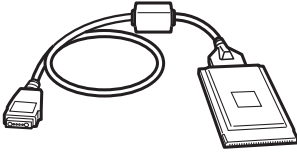


PC カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

- デジタル携帯電話またはPIAFS対応のPHS



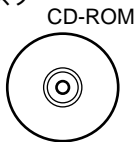
- 接続カード



本パソコンとデジタル携帯電話またはPHSを接続するためのPCカードです。

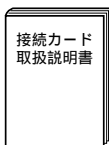
デジタル携帯電話には「デジタル携帯電話接続カード」を、PIAFS対応のPHSには「PHS接続カード」をお使いください。

- 接続カードのドライバ
フロッピーディスク



接続カードによっては、フロッピーディスクやCD-ROMで添付されています。

- 接続カードのマニュアル



接続カードによって設定方法が異なります。必ず接続カードのマニュアルもご覧ください。

用語 PIAFS

PIAFS (Personal Internet Access Forum Standard) の略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。PHSのデジタル通信回線(32kbps)を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末もPIAFSに対応している必要があります。

アドバイス

アナログ携帯電話や PIAFS に対応していない PHS を接続するとき
接続カードの代わりに、「モデムカード-2400」と「無線電話接続ケー
ブル」をお使いください。

携帯電話や PHS を接続する

△ 注意



けが PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入
れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

携帯電話や PHS の接続は、Windows98 のセットアップ終了後に行ってください
Windows98 のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常
に行われないおそれがあります。

初めて接続するとき

接続カードに、フロッピーディスクや CD-ROM などドライバが添付さ
れている場合は、ドライバのインストールが必要です。接続カードをセッ
トする前に、内蔵 FDD ユニットや内蔵 CD-ROM ドライブユニットを接続
してください。

- ▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)
- ▶「内蔵 FDD ユニットを取り付ける」(P.27)

- 1 接続カードに添付のケーブルで、携帯電話や PHS を接続します。
携帯電話または PHS、接続カードのマニュアルも、あわせてご覧ください。
- 2 接続カードを本パソコンの PC カードスロットにセットします。
●▶「PC カードをセットする」(P.104)

接続した携帯電話や PHS で通信を行うには、接続カードや通信ソフト
ウェアの再設定が必要です。設定方法については、接続カードのマニユ
アルをご覧ください。

CRT ディスプレイを接続する

CRTディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- **必要なものを用意する** ●▶ P.126
- **CRT ディスプレイを接続する** ●▶ P.127
- **ディスプレイの表示を切り替える** ●▶ P.129
表示するディスプレイを切り替える方法を説明しています。
- **CRT ディスプレイの解像度と発色数について** ●▶ P.134
CRTディスプレイの解像度と発色数を変更する方法などを説明しています。必要に応じてお読みください。

必要なものを用意する

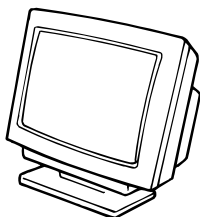
⚠ 警告

感電



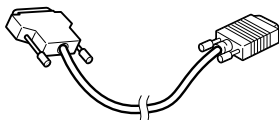
CRT ディスプレイは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

● CRTディスプレイ



「PC/AT 互換機」または「DOS/V パソコン」対応のものを用意してください。

● ディスプレイケーブル



CRT ディスプレイを接続するためのケーブルです。CRT ディスプレイの背面につながっていたり添付されています。添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC / AT 互換機用」または「DOS / V 用」と表示されたもので、CRT ディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。

● CRTディスプレイの マニュアル



CRT ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず CRT ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

CRT ディスプレイを接続する

⚠ 警告



CRTディスプレイを接続するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



ケーブル類は、間違えないように接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびCRTディスプレイが故障する原因となることがあります。

重要

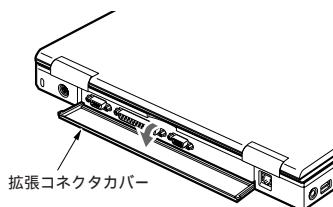
CRTディスプレイの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください
Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

CRTディスプレイのマニュアルもご覧ください

接続方法は、CRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルもあわせてご覧ください。

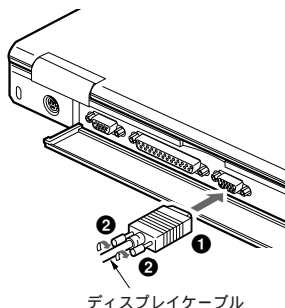
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
●▶「電源を切る」(P.56)
- 2 オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外します。
●▶「ACアダプタを取り外す」(P.60)

- 4** パソコン本体背面の拡張コネクタカバーを開きます。



- 5** パソコン本体背面の CRT コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは、正面から見ると台形になっています。

- ① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- ② ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



- 6** CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
CRT ディスプレイ背面にディスプレイケーブルがつながっている場合もあります。
接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

- 7** CRT ディスプレイに電源ケーブルを接続します。
CRT ディスプレイに電源ケーブルがつながっている場合もあります。CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

- 8** CRT ディスプレイの電源ケーブルを、コンセントに接続します。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

●▶「ディスプレイの表示を切り替える」(P.129)

ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続したCRTディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
- 接続したCRTディスプレイで表示する
- パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したCRTディスプレイで同時に表示する

1 ACアダプタを取り付けます。
●▶「ACアダプタを取り付ける」(P.59)


2 CRTディスプレイの電源を入れます。
CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

3 パソコン本体の電源を入れます。
●▶「電源を入れる」(P.54)

アドバイス

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたとき
CRTディスプレイのドライバをインストールしてください。
●▶「インストール中に表示される画面」(P.111)

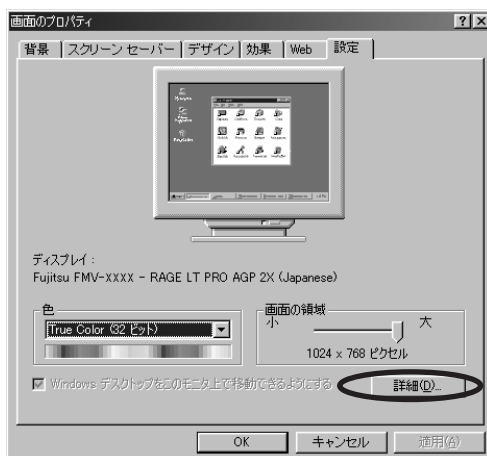
4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

5  (画面) をクリックします。

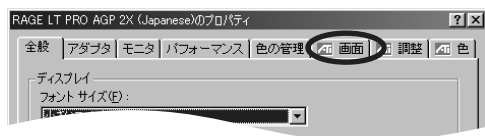
6 「設定」タブをクリックします。



7 「詳細」をクリックします。



8 「画面」タブをクリックします。



- 9 表示するディスプレイのをクリックしにします。

CRTディスプレイで表示するときは「モニタ」をにし、LCDパネルをにします。

液晶ディスプレイで表示するときは「LCDパネル」をにし、「モニタ」をにします。

液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時に表示するときは「モニタ」と「LCDパネル」の両方をにします。



- 10 「OK」をクリックします。

「表示デバイスを変更します。」というメッセージが表示されます。

- 11 「OK」をクリックします。

ディスプレイの表示が切り替わり、「表示デバイスが変更されました。」というメッセージが表示されます。

12 「はい」をクリックします。

アドバイス

「はい」をクリックしない

手順 12 で「はい」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。「Windows がディスプレイ設定を元に戻しました。」というメッセージで「OK」とクリックして、手順 7 からやり直してください。

13 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

重要

CRT ディスプレイ表示に切り替えたとき


CRT ディスプレイによってサポートする解像度や走査周波数が異なるため、何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。

- 何も表示されないとき

何も操作しないでお待ちください。10 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、**[Fn]** を押しながら **[F10]** を押して、表示先を切り替えてください。

- 正常に表示されないとき

CRT ディスプレイのマニュアルで、CRT ディスプレイがサポートする走査周波数を確認し、以下の方法で設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「アダプタ」の「リフレッシュレート」を CRT ディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。メッセージが表示された時は、「はい」または「OK」をクリックします。

アドバイス

キー操作で表示を切り替える

[Fn] を押しながら **[F10]** を押して、ディスプレイ表示を切り替えることもできます。キーを押すごとに、「CRTディスプレイ表示 液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示 液晶ディスプレイ表示 CRTディスプレイ表示...」の順で表示が切り替わります。ただし、CRTディスプレイで表示しているとき、解像度が1280 × 1024 ドット以上で設定されている場合は、**[Fn]** を押しながら **[F10]** を押しても表示を切り替えることはできません。

再起動後もCRTディスプレイに表示したいとき

「画面のプロパティ」ウィンドウでディスプレイ表示を切り替えても、Windows98を再起動すると、液晶ディスプレイに表示されることがあります。再起動後もCRTディスプレイに表示したいときには、キー操作で表示を切り替えるか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「画面設定」の「ディスプレイ」(●▶ P.177)で「CRTディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。

CRT ディスプレイの解像度と発色数について

CRT ディスプレイを接続すると、本パソコンの液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは、CRT ディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

CRT ディスプレイで表示できる解像度と発色数

ディスプレイの解像度と発色数は次の表のとおりです。以下の解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと CRTディスプレイで同時表示	CRTディスプレイで表示
640 × 480 ドット	256 色 1 High Color (16 ビット) 1 True Color (32 ビット) 1 2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
800 × 600 ドット	256 色 1 High Color (16 ビット) 1 True Color (32 ビット) 1 2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
1024 × 768 ドット	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) 2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
1280 × 1024 ドット 3	表示不可	256 色 High Color (16 ビット)
1600 × 1200 ドット	表示不可	256 色 High Color (16 ビット)

- 1 640 × 480 ドットまたは 800 × 600 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。
- 2 液晶ディスプレイの表示では、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、True Color（32 ビット）で表示されます。
- 3 CRT ディスプレイによっては、1280 × 1024 ドット以上の解像度を表示できないことがあります。

表示できる解像度について

表示できる解像度はお使いのCRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルでご確認ください。

アドバイス**液晶ディスプレイと液晶プロジェクタで同時に表示するとき**

1024 × 768 ドットの解像度が表示可能な液晶プロジェクタが必要となります。

High Color、True Colorの発色数

High Color (16ビット) は6万5千色、True Color (32ビット) は1677万色です。

CRTディスプレイの解像度と発色数を変更する

- 1** CRTディスプレイ表示に切り替えます。
●▶「ディスプレイの表示を切り替える」の手順 **1** ~ **12** (P.129)

- 2** 解像度を1024 × 768 ドット以下に設定する場合
●▶手順 **14** (P.139)
解像度を1280 × 1024 ドット以上に設定する場合
●▶手順 **3**
発色数を変更する場合
●▶手順 **14** (P.139)

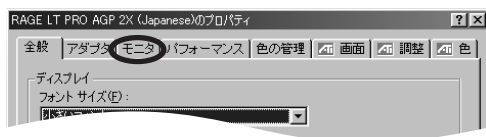
アドバイス**解像度を1280 × 1024 ドット以上に設定する場合**

解像度を1280 × 1024 ドット以上に設定したことがある場合、2回目を降は手順 **14**へ進んでください。ただし、ディスプレイドライバをインストールし直したあとは、手順 **3**へ進んでください。

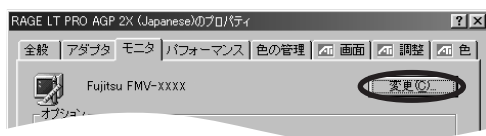
3 「詳細」をクリックします。



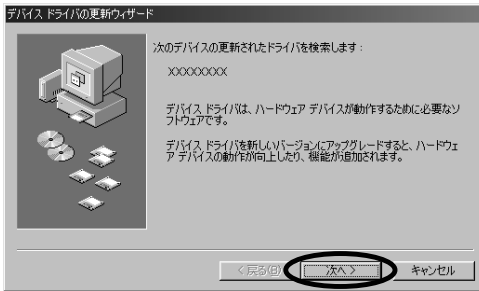
4 「モニタ」タブをクリックします。



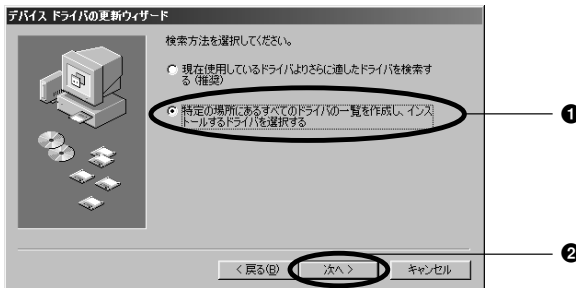
5 「変更」をクリックします。



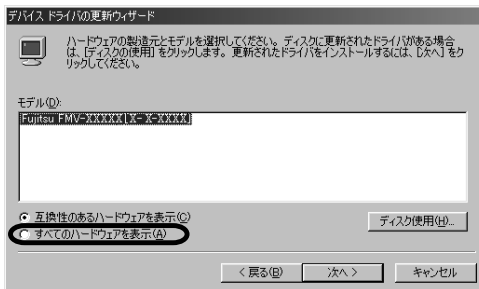
6 「次へ」をクリックします。



7 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を.....」をクリックして [+] にし、「次へ」をクリックします。



8 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして [+] にします。



- 9 お使いのCRT ディスプレイの製造元とモデルを選びます。
製造元とモデルについては、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

お使いのCRT ディスプレイに合うモデルがないとき

以下のように設定してください。

製造元：「(標準モニタの種類)」

モデル：「Super VGA 1600 × 1200」

(CRT ディスプレイが表示できる解像度を選んでください)

- 10 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。

- 11 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。

- 12 「完了」をクリックします。

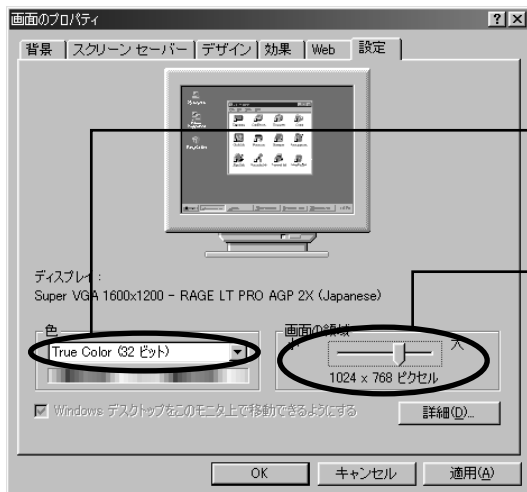
- 13 「閉じる」をクリックします。

アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

- 1 「OK」をクリックします。
「この設定を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 3 手順 14 (P.139) へ進みます。

14 発色数や解像度を変更します。



発色数の変更

▼ をクリックして
発色数を選びます。

解像度の変更

▾ をドラッグします。

15 「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。


16 「OK」または「はい」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。

画面の設定が変更されます。

アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックしてください。

解像度、発色数の設定により画面の調整が必要になることがあります

変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

9

ディブイデー ROM

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付けると、DVD-ROM や CD-ROM などの映像や音声を再生できます。

ここでは以下のことを説明します。

- **必要なものを用意する** ●▶ P.140
- **内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける** ●▶ P.142

用語 DVD

DVD は、映像や音声を記録したコンパクトディスクの総称です。レーザー光を利用して、CD-ROM と同じサイズのディスクに、大容量（片面一層 4.7GB）のデータを記録することができます。

必要なものを用意する

警告

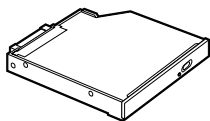
感電



内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

- **内蔵 DVD-ROM ドライブユニット**



内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (FMV-NDVD2) はマルチベイに取り付けることができます。

-
- DVD-ROM
再生用アプリケーション

内蔵 DVD-ROM ドライブユニット
に CD-ROM で添付されています。



-
- 内蔵 DVD-ROM ドライブ
ユニットの取扱説明書

必ず内蔵 DVD-ROM ドライブユ
ニットの取扱説明書もご覧くださ
い。



内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける

警告

感電



内蔵 DVD-ROM ドライブユニットの取り付けや取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

重要

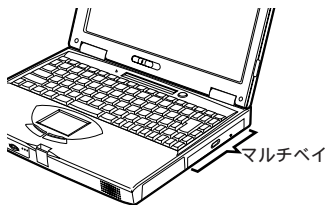
取り付けは、Windows 98 のセットアップ終了後に行ってください。Windows 98 のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

内蔵 DVD-ROM ドライブユニット取り扱い上の注意

- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り扱う前に、取り扱い上の注意をご覧ください。
 - ▶ 「ユニット取り扱い上の注意」(P.22)
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、Windows 98 以外の OS ではお使いになれません。

1 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットをマルチベイに取り付けます。

- ▶ 「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)



初めて取り付けたときは、アプリケーションのインストールを行います。
●▶ 『内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (FMV-NDVD2) 取扱説明書』

アドバイス

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り外すとき

- ▶ 「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)
- もう一度取り付けるときは、DVD-ROM 再生用アプリケーションを、インストールする必要はありません。

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付けると、フロッピーディスクと、より多くのデータを保存できるスーパーディスクを使えます。ここでは以下のことを説明します。

- 必要なものを用意する ●▶ P.143
- 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける ●▶ P.144

必要なものを用意する

⚠ 警告

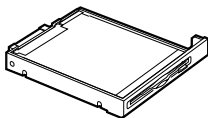
感電



内蔵スーパーディスクドライブユニットは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

- 内蔵スーパーディスクドライブユニット



内蔵スーパーディスクドライブユニット (FMV-NSD12) はマルチベイに取り付けることができます。

- 内蔵スーパーディスクドライブユニットの取扱説明書



必ず内蔵スーパーディスクドライブユニットの取扱説明書もご覧ください。

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける

ここでは内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける方法と、使うための設定方法について説明します。

⚠ 警告

感電



内蔵スーパーディスクドライブユニットの取り付けや取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

重要

取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けたら、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

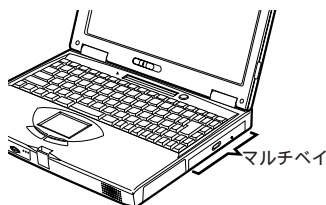
内蔵スーパーディスクドライブユニット取り扱い上の注意

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り扱う前に、取り扱い上の注意をご覧ください。

●▶「ユニット取り扱い上の注意」(P.22)


1 内蔵スーパーディスクドライブユニットをマルチベイに取り付けます。

●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)



内蔵スーパーディスクドライブユニットからは起動できません

内蔵スーパーディスクドライブユニットは B ドライブになります。内蔵スーパーディスクドライブユニットから起動したり、A ドライブにするときは、内蔵スーパーディスクドライブユニットのマニュアルをご覧ください。

- ▶  『内蔵スーパーディスクドライブユニット (FMV-NSD12) 取扱説明書』

アドバイス

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り外すとき

- ▶ 「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)

その他のオプション機器

ここでは本パソコンに接続できるその他のオプション機器の一例として「ハードディスク」と「MO（エムオー光磁気ディスク）ドライブ」をご紹介します。

- ハードディスク ●▶ P.146
- MO（光磁気ディスク）ドライブ ●▶ P.147

ハードディスク

本パソコンには、SCSI規格の外付けハードディスクを増設することができます。

外付けハードディスクを増設すると、より多くのデータを保存できるようになります。

外付けハードディスクを増設するには、次のものがが必要です。

外付けハードディスク

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。

終端抵抗（ターミネータ）は、外付けハードディスクに内蔵されている場合もあります。

外付けハードディスクとSCSIカードのマニュアル

外付けハードディスクやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。

マニュアルを用意してください。

用語 スカジ SCSI

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、ハードディスクの他に、スキャナやMO(光磁気ディスク)ドライブなどがあります。

アドバイス

ハードディスクを増設するには

SCSIカードを本パソコンにセットします。

●▶「PCカードをセットする」(P.104)

外付けハードディスクの接続や設定のしかたについては、ハードディスクとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

エムオー

MO(光磁気ディスク)ドライブ

MO(光磁気ディスク)ドライブとは、レーザーと磁気で光磁気ディスクにデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶媒体です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。MOドライブを使うには、次のものが必要です。

MO(光磁気ディスク)ドライブ

本パソコンには、SCSI規格の外付けのMOドライブを取り付けられます。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。

終端抵抗(ターミネータ)は、MOドライブに内蔵されている場合もあります。

MO(光磁気ディスク)

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをお買い求めください。

用語 スカジー SCSI

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、MO(光磁気ディスク)ドライブの他に、スキャナやハードディスクなどがあります。

アドバイス

MOドライブを使うには

SCSIカードを本パソコンにセットします。

●▶「PCカードをセットする」(P.104)

MOドライブの接続や設定のしかたについては、MOドライブとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

4

BIOS セットアップ

本章では、「バイオス BIOS セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更する方法について説明しています。本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、変更する必要はありません。必要な場合にのみご覧ください。本章には、ある程度パソコンについての知識を必要とする記述があります。

1. BIOS セットアップについて 150
2. BIOS セットアップの操作のしかた 156
3. ご購入時の設定に戻す 162
4. BIOS セットアップのメニュー詳細 164
5. BIOS のパスワード機能を使う 195
6. BIOS が表示するメッセージ一覧 203

BIOS セットアップについて

BIOS セットアップとは、パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンをご購入になったときは、すでに最適なハードウェア環境が設定されています。通常お使いになる範囲では、これらの設定を変更する必要はありません。

ここでは以下のことを説明します。

- BIOS セットアップとは ●▶ P.150
- メニューと設定項目一覧 ●▶ P.151

BIOS セットアップとは

BIOS とは、「Basic Input/Output System」の略で、ハードウェア環境の設定や OS の起動、基本的な入出力機能の制御などを行うためのプログラムです。

BIOS セットアップは、BIOS の機能についての各種の設定値を変更するためのプログラムです。BIOS セットアップの設定値を変更することによって、パソコン本体と周辺機器の機能や動作モードを、変更することができます。

通常は、以下の場合などに BIOS セットアップを利用します。

- 特定の人だけが本パソコンを使えるように、パスワード（暗証番号）を設定したいとき
- 起動時の自己診断テストで、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

BIOS セットアップの設定は、正確に行ってください

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定値に戻して、本パソコンを起動し直してください。

- ▶ 「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.156)
- ▶ 「ご購入時の設定に戻す」(P.162)

アドバイス

BIOS セットアップの設定値の保存先

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモラム) と呼ばれるメモリに記憶されます。CMOS RAM に記憶された内容は、パソコン本体の電源を切ったあとも、バックアップ用バッテリーによって保持されます。

起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

●▶「メッセージ一覧」の 23 (P.207)

用語 起動時の自己診断テスト (POST)

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test) といいます。

メニューと設定項目一覧

「メイン」メニュー：日時と、ドライブやメモリの機能などの設定を行うメニューです。

システム時刻	現在の時刻を設定する項目です。	P.165
システム日付	現在の年月日を設定する項目です。	P.165
フロッピーディスク A	フロッピーディスクドライブを使うかどうかを設定する項目です。	P.165
プライマリマスター	内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定する項目です。	P.165
セカンダリマスター	内蔵 CD-ROM ドライブユニットなどのマルチベイに取り付けた IDE 規格の機器のタイプと動作モードを設定する項目です。	P.166
システムメモリ	検出されたシステムメモリの容量を表示する項目です。	P.168
拡張メモリ	検出された拡張メモリの容量を表示する項目です。	P.168
メモリキャッシュ	2 次キャッシュの動作を設定する項目です。	P.169
言語 (Language)	BIOS が画面表示に使用する言語を設定する項目です。	P.169

「詳細」メニュー： パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行うメニューです。

プラグアンドプレイ対応OS	使用しているOSが、プラグアンドプレイに対応しているかどうかを設定する項目です。	P.170
セキュリティ付き セットアップ設定	OSのプラグアンドプレイ機能によって、システム設定が変更されないように設定する項目です。	P.171
周辺機器設定	シリアルポートやパラレルポート、ディスクコントローラなどに関する設定を行う項目です。	P.171
キーボード/マウス設定	キーボードやマウスに関する設定を行う項目です。	P.175
画面設定	表示装置（ディスプレイ）に関する設定を行う項目です。	P.177
PCI設定	PCIデバイスに関する設定を行う項目です。	P.178
DMI イベントログ設定	DMI イベントログ機能に関する設定を行う項目です。	P.179
チップセット詳細設定	AGP ビデオデバイスに関する設定を行う項目です。	P.180

「セキュリティ」メニュー：本パソコンを不正使用から保護するための設定を行うメニューです。

管理者用パスワード	管理者（本パソコンをご購入になった方など）用のパスワードの設定状態を表示する項目です。	P.181
ユーザー用パスワード	ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態を表示する項目です。	P.181
管理者用パスワード設定	管理者用パスワードを設定する項目です。	P.181
ユーザー用パスワード設定	ユーザー用パスワードを設定する項目です。	P.181
フロッピーディスクアクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセスを制限するかどうかを設定する項目です。	P.182
起動時のパスワード	本パソコンの起動時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定する項目です。	P.182
レジューム時のパスワード	レジューム（サスペンドする前の状態に戻す）時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定する項目です。	P.182
ハードディスク起動セクタ	ハードディスクの起動セクタへのデータの書き込みを禁止するかどうかを設定する項目です。	P.183
ハードディスクセキュリティ	下記の項目を設定します。	P.183
プライマリマスター	内蔵のハードディスクドライブを他のパソコンで使用できないように設定する項目です。	P.183
セカンダリマスター	（本パソコンでは使用しない項目です）	-

「省電力」メニュー： BIOSの省電力機能に関する設定を行うメニューです。

省電力モード	省電力モードの段階を設定する項目です。	P.184
ハードディスク省電力	ハードディスクのモーターを止めるまでの時間を設定する項目です。	P.185
ディスプレイ省電力	ディスプレイの表示を消すまでの時間を設定する項目です。	P.185
アイドルモード	アイドルモードに移行するかどうかを設定する項目です。	P.185
スタンバイタイマー	スタンバイモードに移行するまでの時間を設定する項目です。	P.186
サスペンドタイマー	サスペンドに移行するまでの時間を設定する項目です。	P.186
サスペンド動作	サスペンド時に、サスペンドに移行するか Save To Disk 機能で電源を切るかを設定する項目です。	P.187
自動 Save To Disk	サスペンドしてから 1 時間後に、自動的に Save To Disk 機能で電源を切るかどうかを設定する項目です。	P.187
モデム着信によるレジューム	サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームするかどうかを設定する項目です。	P.188
時刻によるレジューム	サスペンド中に、設定した時刻（レジューム時刻）になったとき、レジュームするかどうかを設定する項目です。	P.188
レジューム時刻	「時刻によるレジューム」の時刻を設定する項目です。	P.188
詳細設定	省電力機能の詳細項目を設定する項目です。	P.189

「起動」メニュー： 本パソコンの起動時の動作について設定するメニューです。

クイック起動	起動時の自己診断テスト (POST) を簡略化して、起動時間を短縮するかどうかを設定する項目です。	P.191
起動時の自己診断画面	起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定する項目です。	P.191
起動デバイスの優先順位	起動用のデバイスを検索する順番を設定する項目です。	P.192

「情報」メニュー： BIOS やパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

BIOS 版数	BIOS のバージョン番号が表示されます。	P.193
BIOS 日付	BIOS の日付が表示されます。	P.193
BIOS 領域	BIOS 領域のアドレスが表示されます。	P.193
CPU タイプ	CPU のタイプが表示されます。	P.193
CPU 速度	CPU のクロック速度が表示されます。	P.193
L1 キャッシュ	1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。	P.193
L2 キャッシュ	2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。	P.193
全メモリ容量	搭載されているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。	P.193
標準メモリ	本パソコンに標準で内蔵されているメモリ (RAM) の容量が表示されます。	P.193
増設メモリ	増設したメモリの容量が表示されます。	P.194
資産番号	(本パソコンでは「未定義」と表示されます)	-

「終了」メニュー： 変更した設定値を保存したり、BIOS セットアップを終了するときに関するメニューです。

変更を保存して終了する	設定した内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了するときを選択する項目です。	P.194
変更を保存せずに終了する	設定した内容を取り消して、変更前の設定のままで BIOS セットアップを終了するときを選択する項目です。	P.194
標準設定値を読み込む	すべての設定値を、ご購入時の状態 (標準設定値) に戻すときに選択する項目です。	P.194
変更前の値を読み込む	すべての設定値に、CMOS RAM から変更前の値を読み込んで、変更を取り消すときに選択する項目です。	P.194
変更を保存する	設定した内容を CMOS RAM に保存するときを選択する項目です。	P.194

2

BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップの設定を変更するには、BIOS セットアップを起動して、設定値を変更し、設定内容を CMOS RAM に保存して終了します。

ここでは以下のことを説明します。




- BIOS セットアップを起動する ●▶ P.156
- 設定を変更する ●▶ P.158
- 変更内容を取り消す ●▶ P.159
- BIOS セットアップを終了する ●▶ P.160

重要

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。フラットポイントやマウスは使えません。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、起動することができます。

- 1 それまで行っていた作業を終了します。
必要に応じて、作業中のデータを保存してください。
- 2 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。

5 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC>キーを押すと自己診断画面、<F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。」と表示されている間に、**[F2]**を押します。

BIOSセットアップが起動し、BIOSセットアップの「メイン」メニューが表示されます。

The screenshot shows the Phoenix BIOS Setup Utility Main menu. The title bar reads "PhoenixBIOSセットアップユーティリティ". The menu has tabs for "メイン", "詳細", "セキュリティ", "省電力", "起動", "情報", and "終了". The "メイン" tab is selected, showing a list of system settings. Annotations include:

- メニューバー**: Points to the menu tabs, stating "メニューの名称が表示されます。"
- 項目ヘルプフィールド**: Points to the right-hand pane, stating "カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。"
- カーソル**: Points to the cursor on the "システム時刻" item, stating "設定する項目に合わせます。"
- 設定フィールド**: Points to the "システム時刻" value "[1999/XX/XX]", stating "各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。"
- キー一覧**: Points to the bottom key legend, stating "設定時に使うキーの一覧です。"

The key legend at the bottom includes: F1 ヘルプ, Esc 終了, 項目選択, メニュー選択, -/Space 値の変更, Enter サブメニュー選択, F9 標準設定, F10 保存して終了.

アドバイス

Windows98の画面が表示されたとき

Windows98の起動が完了するのを待って、もう一度手順2からやり直してください。

起動時の自己診断画面を表示するには

手順5で、**[F2]**の代わりに**[Esc]**を押します。

自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されるので、そのまま起動を続けたい場合には**[Esc]**を押してください。

「起動時のメニュー」という画面が表示されているとき

この画面は、起動時の自己診断テスト中に**[Esc]**を押すと、表示されます。

[Esc]を数回押して「<BIOSセットアップを起動>」を選択し、**[Enter]**を押すと、BIOSセットアップを起動できます。

続いて、「設定を変更する」(●▶ P.158)をご覧ください。

設定を変更する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードを使って行います。
ここでは、一般的な操作方法を説明します。

1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。

2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

アドバイス

項目名に「**▶**」が付いているとき

この項目にはサブメニューがあります。項目名にカーソルを移動して **[Enter]** を押すと、サブメニューの画面が表示されます。
元のメニュー画面に戻るには **[Esc]** を押します。

3 または **[F4]** を押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更するときは、手順 **1 ~ 3** を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。
●▶「BIOS セットアップを終了する」(P.160)

アドバイス

設定内容を、変更前の値に戻すには

●▶「変更内容を取消する」(P.159)

設定内容を、ご購入時の設定値に戻すには

●▶「ご購入時の設定に戻す」(P.162)

設定時に使用するキー一覧

[F1]

「一般ヘルプ」画面が表示され、BIOS セットアップの操作で使用するキーについての説明を見ることができます。次のページを見るときは **[Pg Dn]** を、前のページに戻るときは **[Pg Up]** を押します。「一般ヘルプ」画面を閉じるには **[Enter]** を押します。




設定する項目にカーソルを移動します。



メニューを切り替えます。



「」が付いている項目で押すと、サブメニューが表示されるか、その項目の処理が行われます。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。



設定値を変更します。



すべての設定値を、本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定）に戻します。



設定した内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。




「終了」メニューを表示します。

サブメニューが表示されているときは、1つ前のメニュー画面に戻ります。

変更内容を取り消す


設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。




1 を押します。


「終了」メニューが表示されます。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、を2～3回押してください。

2 またはを押して「変更前の値を読み込む」を選択し、を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更前の値を読み込みますか？	
[]	[いいえ]

3 または で「はい」を選択し、**[Enter]**を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

アドバイス

すべての変更を取り消して BIOS セットアップを終了するには
設定した内容を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

- 1 **[Esc]**を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニューを表示しているときは、**[Esc]**を2～3回押してください。
- 2 または を押して「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]**を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
設定値を変更しているときは、次のメッセージが表示されます。

セットアップ警告	
設定が変更されています！ 変更した内容を保存して終了しますか？	
[はい]	[いいえ]

- 3 または で「いいえ」を選択し、**[Enter]**を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]**を押します。

「終了」メニューが表示されます。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]**を2～3回押してください。

- 2 または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押し
ます。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
[はい] [いいえ]

- 3 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押し
ます。
すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起
動します。

アドバイス

BIOS セットアップを終了せずに設定を保存するには

いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押し
ます。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存しますか？
[はい] [いいえ]

- 2 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押し
ます。

設定を変更しないで終了するには

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。

- ▶「変更内容を取り消す」(P.159)

3

ご購入時の設定に戻す

設定内容をご購入時の状態に戻すには、「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
●▶「BIOS セットアップを起動する」(P.156)

- 2 **[Esc]** を押します。
「終了」メニューが表示されます。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

- 3 または を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
標準設定値を読み込みますか？
<input type="checkbox"/> [はい] <input type="checkbox"/> [いいえ]

- 4 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

- 5 または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押し
ます。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
[はい] [いいえ]

アドバイス

保存後に設定操作を続けたいとき

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押
します。
.....

- 6 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押し
ます。
読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

4

BIOS セットアップのメニュー詳細

ここで使用しているマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : サブ項目名
- : 設定する値

ここでは以下のことを説明します。

- **メインメニュー** ●▶ P.164
- **セキュリティメニュー** ●▶ P.181
- **起動メニュー** ●▶ P.191
- **終了メニュー** ●▶ P.194
- **詳細メニュー** ●▶ P.170
- **省電力メニュー** ●▶ P.184
- **情報メニュー** ●▶ P.193

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
メイン	詳細 セキュリティ 省電力 起動 情報 終了
システム時刻:	[12:34:56]
システム日付:	[1999/XX/XX]
フロッピーディスクA:	[1.44/1.2 MB 3.5"]
▶ プライマリマスター	[XXXXXXXXXXXXXX]
▶ セカンダリマスター	[XXXXXX]
システムメモリ:	640 KB
拡張メモリ:	XX MB
▶ メモリキャッシュ	
言語 (Language):	[日本語 (JP)]
	項目ヘルプ
	現在の時刻を設定します。 <Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーで項目を選択します。
F1 ヘルプ	項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了	メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

システム時刻

現在の時刻を、時：分：秒（24時間制）で設定します。
変更する項目にカーソルを移動し、数値を入力します。

システム日付

現在の日付を、年／月／日で設定します。

フロッピーディスク A（標準設定値：1.44/1.2 MB 3.5"）

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 1.44/1.2 MB 3.5"

本パソコンで使用しているフロッピーディスクドライブです。

アドバイス

内蔵スーパーディスクドライブユニットから起動したり、Aドライブするには「フロッピーディスク A」を「使用しない」に設定してください。

また、「フロッピーコントローラ」(P.174)も「使用しない」に設定してください。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

設定項目について詳しくは、次の「セカンダリマスター」をご覧ください。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ			
メイン			
プライマリマスター [XXXXXXXXXXXX]	項目ヘルプ		
タイプ:	[自動]	接続されたATA/ATAPIデバイスのタイプを選択します。	
シリンダ数:	[XXXX]		
ヘッド数:	[XX]		
セクタ数:	[XX]		
最大容量:	XXXX MB		
マルチセクタ転送:	[16セクタ]	[自動]を選択すると、起動時にデバイスのタイプを自動的に認識します。 [ユーザー設定]を選択すると、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数の各項目を設定することができません。[CD-ROM]、[取外し可能ATAPI]は、それぞれCD-ROMドライブ、取外し可能なATAPIデバイスを設定します。	
LBAモード制御:	[使用する]		
転送モード:	[高速PIO 4 / DMA有効]		
Ultra DMAモード:	[モード2]		
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定
Ese 終了	メニュー選択	Enter ▶サブメニュー選択	F10 保存して終了

セカンダリマスター

内蔵 CD-ROM ドライブユニットなどのマルチベイに取り付けた IDE 規格の機器のタイプと動作モードを設定します。

アドバイス

標準設定値を読み込んだとき

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(●▶ P.194)を実行した直後は、「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

タイプ (標準設定値: 自動)

接続されているドライブのタイプを選択します。通常は「自動」を選択してください。

- 自動
本パソコンの起動時に、接続されているドライブのタイプを自動的に認識します。
内蔵ハードディスクが認識された場合には、検出された「シリンダ数」「ヘッド数」「セクタ数」が表示されます。
- なし
内蔵ハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどを使わないときの設定です。「なし」を選択すると、以下の項目はすべて表示されません。
- CD-ROM
内蔵 CD-ROM ドライブユニットと、内蔵 DVD-ROM ドライブユニットの動作モードを変更するときに選びます。
- 取外し可能 ATAPI
内蔵スーパーディスクドライブユニット (別売) の動作モードを変更するときに選びます。
- ユーザー設定
「ユーザー設定」を選択すると、以下の各項目を設定することができます。
「シリンダ数」「ヘッド数」「セクタ数」は、内蔵ハードディスクドライブの場合にのみ設定できます。

シリンダ数

「タイプ」で「自動」を選んだときは、内蔵ハードディスクのシリンダ数が表示されます。

「ユーザー設定」を選んだ場合には、シリンダ数を設定することができます。

- 0 ~ 65535

ヘッド数

「タイプ」で「自動」を選んだときは、内蔵ハードディスクのヘッド数が表示されます。

「ユーザー設定」を選んだ場合には、ヘッド数を設定することができます。

- 1 ~ 16

セクタ数

「タイプ」で「自動」を選んだときは、内蔵ハードディスクのセクタ数が表示されます。

「ユーザー設定」を選んだ場合には、セクタ数を設定することができます。

- 0 ~ 63

重要

シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するとき

必ず正確に設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

最大容量

ハードディスクドライブが接続されていて、「タイプ」で「自動」か「ユーザー設定」を選択している場合に、「シリンダ数」「ヘッド数」「セクタ数」から計算された最大容量が表示されます。

マルチセクタ転送

複数セクタのデータを一括して転送する場合(マルチセクタ転送)の、転送ブロックのセクタ数を設定します。設定できる最大値は、認識されたハードディスクの容量によって変わります。

「タイプ」で「自動」を選んだときは設定できません。

- 使用しない

1セクタずつ転送します。

- 2セクタ ~ 16セクタ、MAX 32 ~ MAX 128

設定する値を選択します。数値が大きくなるほど転送速度は上がりますが、効果が現れるセクタ数はハードディスクのキャッシュ容量によって異なります。

LBAモード制御

LBA(論理ブロックアドレッシング)モードを使うかどうかを設定します。

「タイプ」で「自動」を選んだときは設定できません。

- 使用しない

LBAモードを使用しません。

- 使用する

LBAモードを使用します。ハードディスク上のデータを指定するとき、シリンダ番号、ヘッド番号、セクタ番号の代わりに、論理ブロックアドレスが使用されます。

転送モード

ドライブとパソコン本体との間でデータを転送するときの、転送モードを選択します。

「タイプ」で「自動」を選んだときは設定できません。自動的に最適なモードが選択されます。

- 標準

PIO Mode 0 に設定します。

- 高速 PIO 1 ~ 高速 PIO 4

設定するモードを選択します。数字が大きくなるほど転送速度が上がります。

- 高速 PIO 3 / DMA 有効、高速 PIO 4 / DMA 有効

設定するモードを選択します。ドライブが対応しているときは、マルチワード DMA モードが有効になります。

Ultra DMA モード

ドライブとパソコン本体との間でデータを転送するときの、Ultra DMA モードを選択します。

「タイプ」で「自動」を選んだときは設定できません。自動的に最適なモードが選択されます。

- 使用しない

Ultra DMA モードを使用しません。

- モード 0 ~ モード 2

設定するモードを選択します。ドライブが対応していないと正しく動作しません。

システムメモリ

本パソコンの起動時に検出された、システムメモリの容量が表示されます。

拡張メモリ

本パソコンの起動時に検出された、拡張メモリの容量が表示されます。

メモリキャッシュ

2次キャッシュメモリの動作について設定します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
メイン	
メモリキャッシュ	項目ヘルプ
L2キャッシュ: [使用する]	L2キャッシュを使用するかどうかを設定します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

L2 キャッシュ（標準設定値：使用する）

2次キャッシュを使用するかどうかを設定します。通常は、「使用する」を選択してください。

- 使用しない
- 使用する

言語（Language）

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

- English（US）
- 日本語（JP）

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
プラグアンドプレイ対応OS: [[はい]] セキュリティ付きセットアップ設定: [[いいえ]]		項目ヘルプ				
▶ 周辺機器設定 ▶ キーボード/マウス設定 ▶ 画面設定 ▶ PCI設定 ▶ DMIイベントログ設定 ▶ チップセット詳細設定		プラグアンドプレイに対応したOSを使用している場合は、[[はい]]を選択します。				
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space	値の変更	F9	標準設定	
Esc 終了	メニュー選択	Enter	▶サブメニュー選択	F10	保存して終了	

アドバイス

周辺機器設定を行うとき

I/Oポートアドレス、割り込み番号（IRQ）DMAチャンネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。

ご購入時の設定値は、リソースの一覧で確認できます。

同じ設定値を割り当てると、項目名の左に*が表示されます。*が表示されたときは、別の設定値を割り当ててください。

ご購入時の設定値は、リソースの一覧で確認できます。

●▶「リソース一覧」(P.214)

現在の設定値は、「コンピュータのプロパティ」ウィンドウで確認できます。

●▶「現在のリソースを確認するには」(P.215)

プラグアンドプレイ対応OS（標準設定値：はい）

Windows98など、プラグアンドプレイに対応したOSを使用しているかどうかを設定します。

- いいえ

使用しているOSが、プラグアンドプレイに対応していない場合に選択します。

- はい

使用しているOSが、プラグアンドプレイに対応している場合に選択します。

セキュリティ付きセットアップ設定（標準設定値：いいえ）

OSのプラグアンドプレイ機能によって、BIOSのシステム設定が変更されないように保護するかどうかを設定します。

- いいえ
システム設定を保護しません。
- はい
システム設定を保護します。

周辺機器設定

シリアルポートやパラレルポート、ディスクコントローラなどに関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
詳細		
周辺機器設定		項目ヘルプ
シリアルポートA:	[使用する]	シリアルポートAを使用するかどうかを設定します。 [使用しない] シリアルポートAを無効にします。 [使用する] 設定した値に従って、シリアルポートAを有効にします。 [自動] プラグアンドプレイ対応OSの設定に応じて、BIOSまたはOSが自動的に設定します。
I/Oベースアドレス:	[3F8]	
割り込み番号:	[IRQ 4]	
シリアルポートB:	[使用する]	
モード:	[FIR]	
I/Oベースアドレス:	[2E8]	
割り込み番号:	[IRQ 3]	
I/Oベースアドレス:	[118]	
DMAチャネル:	[DMA 3]	
パラレルポート:	[使用する]	
モード:	[双方向]	
I/Oベースアドレス:	[378]	
割り込み番号:	[IRQ 7]	
フロッピーコントローラ:	[使用する]	
内蔵IDEコントローラ:	[両方使用する]	
F1 ヘルプ	項目選択 -/Space 値の変更	F9 標準設定
Esc 終了	メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了	

シリアルポート A（標準設定値：使用する）

シリアルポート A を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
シリアルポート A を無効にします。
- 使用する
下記の「I/Oベースアドレス」などの設定に従って、シリアルポート A を有効にします。
- 自動
プラグアンドプレイ対応 OS の設定に応じて、自動的にシリアルポート A の設定をします。

I/O ベースアドレス（標準設定値：3F8）

シリアルポート A の I/O ポートアドレスを設定します。

- 3F8、2F8、3E8、2E8
設定する値（ベースアドレス）を選択します。

割り込み番号（標準設定値：IRQ 4）

シリアルポート A の割り込み番号を設定します。

- IRQ 3、IRQ 4、IRQ 10、IRQ 11
設定する値を選択します。

シリアルポート B (標準設定値 : 使用する)

シリアルポート B (赤外線通信ポート) を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
シリアルポート B を無効にします。
- 使用する
下記の「モード」などの設定に従って、シリアルポート B を有効にします。
- 自動
プラグアンドプレイ対応 OS の設定に応じて、自動的にシリアルポート B の設定をします。

モード (標準設定値 : FIR)

シリアルポート B (赤外線通信ポート) のモードを設定します。

- IrDA
標準モードで使用するときに設定します。
- FIR
高速モード (Fast IR) で使用するときに設定します。
高速モード用の「I/O ベースアドレス」と「DMA チャンネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 2E8)

シリアルポート B の I/O ポートアドレスを設定します。

- 3F8、2F8、3E8、2E8
設定する値 (ベースアドレス) を選択します。

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 3)

シリアルポート B の割り込み番号を設定します。

- IRQ 3、IRQ 4、IRQ 10、IRQ 11
設定する値を選択します。

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 118)

高速モード用の I/O ポートアドレスを設定します。

シリアルポート B の「モード」で「FIR」を選択したときにのみ表示されます。

- 100、108、110、118
設定する値 (ベースアドレス) を選択します。

DMA チャンネル (標準設定値 : DMA 3)

高速モード用の DMA チャンネルを設定します。

シリアルポート B の「モード」で「FIR」を選択したときにのみ表示されます。

- DMA 1、DMA 3
設定する値を選択します。

パラレルポート（標準設定値：使用する）

パラレルポートを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
パラレルポートを無効にします。
- 使用する
下記の「モード」などの設定に従って、パラレルポートを有効にします。
- 自動
プラグアンドプレイ対応 OS の設定に応じて、自動的にパラレルポートの設定をします。

モード（標準設定値：双方向）

パラレルポートのモードを設定します。

- 出力のみ
出力モードに設定します。
- 双方向
入出力モードに設定します。
- ECP
ECP モードに設定します。

アドバイス

「ECP」の設定について

ECP モードは、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECP モード用の「DMA チャンネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス（標準設定値：378）

パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

- 378、278、3BC
設定する値（ベースアドレス）を選択します。

割り込み番号（標準設定値：IRQ 7）

パラレルポートの割り込み番号を設定します。

- IRQ 5、IRQ 7
設定する値を選択します。

DMA チャンネル (標準設定値 : DMA 1)

ECP モード用の DMA チャンネルを設定します。

パラレルポートの「モード」で「ECP」を選択したときのみ表示されます。

- DMA 1、DMA 3
設定する値を選択します。

アドバイス

ECP モード用 DMA チャンネルの設定上の注意

通常は「DMA 1」に設定してください。DMA 3 は、標準設定値ではシリアルポート B (赤外線通信ポート) の FIR 用に割り当てられています。

フロッピーコントローラ (標準設定値 : 使用する)

フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
フロッピーディスクコントローラを無効にします。
- 使用する
フロッピーディスクコントローラを有効にします。

アドバイス

内蔵スーパーディスクドライブユニットから起動したり、A ドライブするには「フロッピーコントローラ」を「使用しない」に設定してください。

また、「フロッピーディスク A」(●▶ P.165) も「使用しない」に設定してください。

内蔵 IDE コントローラ (標準設定値 : 両方使用する)

内蔵 IDE コントローラを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
内蔵 IDE コントローラを無効にします。
- プライマリのみ使用
プライマリ (内蔵ハードディスク用) のみ有効にします。
- セカンダリのみ使用
セカンダリ (CD-ROM ドライブなどのマルチベイに取り付けた機器用) のみ有効にします。
- 両方使用する
プライマリとセカンダリの両方を有効にします。

キーボード / マウス設定

キーボードやマウスに関する設定を行います。


PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
詳細		
キーボード / マウス設定		項目ヘルプ
Numlock:	[自動]	起動したときに、テンキーモードになるかどうかを設定します。
ホットプラグ:	[使用する]	
内蔵ポインティングデバイス:	[自動]	
F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定 Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了		

Numlock (標準設定値: 自動)


本パソコンが起動したときに、テンキーモードにするかどうかを設定します。

- 自動

内蔵キーボードはテンキーモードになっていません。

外部キーボードが接続されている場合には、外部キーボードのみテンキーモードになります。このとき、状態表示LCDにはが表示されます。

- オン

内蔵キーボード、外部キーボードのいずれも、テンキーモードになっています。このとき、状態表示LCDにはが表示されます。

- オフ

内蔵キーボード、外部キーボードのいずれも、テンキーモードになっていません。

ホットプラグ (標準設定値: 使用する)

ホットプラグ機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない

ホットプラグ機能を無効にします。

- 使用する

ホットプラグ機能を有効にします。

本パソコンの動作中に、キーボードやマウスを接続して使えます。

アドバイス

接続したキーボードやマウスが使えないとき

接続したキーボードやマウスがホットプラグに対応していない場合があります。本パソコンの動作中に接続したキーボードやマウスが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンの電源を切るか、サスペンドしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- 「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合
- 拡張キーボード / マウスコネクタに、入力装置（バーコードリーダ：FMV-BCR101、バーコードタッチリーダ：FMV-BCR201、磁気カードリーダ：FMV-MCR101 など）を接続している場合
また、この場合は「省電力モード」(●▶ P.184)も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス（標準設定値：自動）

PS/2規格のマウスを接続したときの、フラットポイントの動作を設定します。

- 自動

マウスを接続しているときは、自動的にフラットポイントは使用できなくなります。

- 常に使用する

マウスの有無に関らず、フラットポイントは常に使用できます。

アドバイス

Microsoft 社製 IntelliMouse™ の利用について

Microsoft 社製 IntelliMouse™ は、「自動」の設定でのみお使いになれます。

画面設定

表示装置（ディスプレイ）に関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
画面設定	項目ヘルプ
ディスプレイ: [液晶ディスプレイ] 全体表示: [使用しない]	表示装置を選択します。 [液晶ディスプレイ] 本パソコンの液晶ディスプレイで表示します。 [CRTディスプレイ] 外部CRTディスプレイで表示します。 [同時表示] 液晶ディスプレイと外部CRTディスプレイで、同時に表示します。
F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定 Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了	

ディスプレイ（標準設定値：液晶ディスプレイ）

表示装置を選択します。

- 液晶ディスプレイ
本パソコンの液晶ディスプレイで表示します。
- CRT ディスプレイ
CRT ディスプレイで表示します。
- 同時表示
液晶ディスプレイとCRT ディスプレイで、同時に表示します。

全体表示（標準設定値：使用しない）

本パソコンの液晶ディスプレイで、解像度が800 × 600 ドット以下の画面を表示するときに、画面補正を行って画面全体で表示するかどうかを設定します。

- 使用しない
補正を行わずに、画面の中央に表示します。
- 使用する
補正を行って、画面全体で表示します。

PCI 設定

PCI デバイスに関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
PCI設定	項目ヘルプ
▶ 割り込み番号の予約	特定の割り込み番号を、内蔵のPCIやISAデバイスで使用しないように予約します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号をPCカードに割り当てたいとき、その割り込み番号が内蔵デバイスに使用されないように、予約するかどうかを設定します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
割り込み番号の予約	項目ヘルプ
IRQ 3: [予約しない] IRQ 4: [予約しない] IRQ 5: [予約しない] IRQ 7: [予約しない] IRQ 9: [予約しない] IRQ 10: [予約しない] IRQ 11: [予約しない]	この割り込み番号を、内蔵のPCIやISAデバイスで使用しないように予約するかどうかを設定します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

IRQ 3 ~ IRQ 11 (標準設定値: 予約しない)

それぞれの割り込み番号が内蔵デバイスに使用されないように、予約しておくかどうかを設定します。

- 予約しない

その割り込み番号は、内蔵デバイスへの割り当てにも使用されます。

- 予約する

その割り込み番号は、内蔵デバイスへは割り当てられません。特定の割り込み番号を必要とするPCカード用に空けておくことができません。

DMI イベントログ設定

DMI イベントログ機能に関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
詳細		
DMIイベントログ設定		項目ヘルプ
イベントログ領域の状態:	保存可能	再起動時にイベントログの内容をクリアしたいときに設定します。
イベントログ内容の状態:	有効	
イベントログのクリア	[クリアしない]	[クリアする]に設定すると、再起動時にイベントログの内容がクリアされ、再び[クリアしない]の設定に戻ります。
イベントログ:	[保存する]	
システムブートイベント:	[保存しない]	
F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定 Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了		

イベントログ領域の状態

イベントログを保存できるかどうかが表示されます。

イベントログ内容の状態

イベントログの内容が有効かどうかが表示されます。

イベントログのクリア（標準設定値：クリアしない）

保存されているイベントログの内容をクリアしたいときに設定します。

- クリアしない
- クリアする

再起動時にイベントログがクリアされます。再起動後、設定値は自動的に「クリアしない」に戻ります。

イベントログ（標準設定値：保存する）

イベントログを保存するかどうかを設定します。

- 保存しない
- 保存する

システムブートイベント（標準設定値：保存しない）

システム起動イベントを、イベントログに保存するかどうかを設定します。「イベントログ」を「保存しない」に設定しているときは、この項目は表示されません。

- 保存しない
- 保存する

チップセット詳細設定

AGP ビデオデバイス機能に関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
チップセット詳細設定	項目ヘルプ
AGPデータ転送タイプ: [高速 (2x)]	AGPビデオデバイスが使用するデータ転送タイプを設定します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

AGP データ転送タイプ (標準設定値: 高速 (2x))

AGP ビデオデバイスが使用するデータ転送のタイプを設定します。

- 標準 (1x)
- 高速 (2x)

DVD ソフトを再生する場合は、「高速 (2x)」に設定してください。

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

●▶「BIOSのパスワード機能を使う」(P.195)

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
		管理者用パスワード: ユーザー用パスワード:	未設定 未設定	項目ヘルプ		
		管理者用パスワード設定 ユーザー用パスワード設定	[Enter] [Enter]	[Enter]キーを押すと、 管理者用パスワードを設定 できます。		
		フロッピーディスクアクセス: 起動時のパスワード: レジューム時のパスワード:	[常に可能] [使用しない] [使用しない]	設定すると、BIOSセット アップへのアクセス時に パスワードの入力を要求 されます。		
		ハードディスク起動セクタ:	[通常動作]			
		ハードディスクセキュリティ プライマリマスター: セカンダリマスター:	[使用しない] [使用しない]			
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space	値の変更	F9	標準設定	
Esc 終了	メニュー選択	Enter	▶サブメニュー選択	F10	保存して終了	

管理者用パスワード

管理者(本パソコンをご購入になった方など)用のパスワードの設定状態が表示されます。

ユーザー用パスワード

ユーザー(ご家族など、管理者以外の利用者)用のパスワードの設定状態が表示されます。

管理者用パスワード設定

[Enter]を押すと、管理者用パスワードを設定できます。

●▶「パスワード機能を設定する」(P.197)

設定すると、BIOS セットアップの起動時にパスワードの入力が要求されます。

ユーザー用パスワード設定

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

[Enter]を押すと、ユーザー用パスワードを設定できます。

●▶「パスワード機能を設定する」(P.197)

設定すると、BIOS セットアップの起動時にパスワードの入力が要求され、次の項目の設定ができなくなります。

- 管理者用パスワード設定
- フロッピーディスクアクセス
- ハードディスク起動セクタ
- ハードディスクセキュリティ

フロッピーディスクアクセス（標準設定値：常に可能）

「管理者用パスワード」が設定されている場合에만設定できます。

フロッピーディスクドライブへのアクセスを制限するかどうかを設定します。

- 常に可能

通常どおり、フロッピーディスクドライブを使うことができます。

- 管理者のみ可能

「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されているときは、管理者以外のアクセスが禁止されます。「使用しない」に設定されているときは、すべてのアクセスが禁止され、フロッピーディスクドライブが使えなくなります。

重要

フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

- BIOSを経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスするOS（WindowsNT4.0など）では、正しく動作しません。
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）へのアクセスは制限できません。

起動時のパスワード（標準設定値：使用しない）

「管理者用パスワード」が設定されている場合에만設定できます。

本パソコンの起動時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

- 使用しない

起動時に、パスワードの入力は要求されません。

- 使用する

起動時に、パスワードの入力が要求されます。管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力しないと、本パソコンを起動できません。

レジューム時のパスワード（標準設定値：使用しない）

「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合에만設定できます。

レジューム（サスペンドする前の状態に戻す）時に、パスワードの入力が必要かどうかを設定します。

Windows98の「電源の管理」でも設定できます。

- ▶「電源の管理」で設定を変更する」（P.226）

- 使用しない



レジューム時に、パスワードの入力は必要ありません。

- 使用する

レジューム時に、パスワードの入力が必要になります。管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力しないと、フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません（この状態でも、USB規格のマウスやキーボード、シリアルマウスは通常どおり操作できます）。

重要

レジューム時のパスワード入力について

レジューム時は、パスワード入力を要求する画面は表示されません。フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができなくなっているときは、状態表示LCDにとが交互に点滅します。

キーボードとフラットポイント(マウス)を使用できるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードをキーボードから入力し、**[Enter]**を押してください。

MouseWare (●▶ P.246) をインストールしているとき

「レジューム時のパスワード」は、必ず「使用しない」に設定してください。

4

ハードディスク起動セクタ(標準設定値:通常動作)

ハードディスクの起動セクタをウイルスから保護するため、起動セクタへのデータ書き込みを禁止するかどうかを設定します。

- 通常動作
起動セクタへの書き込みを禁止しません。
- 書き込み禁止
起動セクタへの書き込みを禁止します。

重要

ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- OSをインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS(WindowsNT4.0など)では、正しく動作しません。

ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブでのみ利用できます。

以下の各項目は、「管理者用パスワード」が設定されている場合に設定できます。

プライマリマスター(標準設定値:使用しない)

内蔵のハードディスクドライブを、他のパソコンで使用できないようにするかどうかを設定します。

- 使用しない
パスワードロック機能を使用しません。
- 使用する
パスワードロック機能を使用します。内蔵のハードディスクドライブを取り外して他のパソコンに取り付けたとき、そのパソコンにも本パソコンと同じ管理者用パスワードを設定しないと、データの読み出しができなくなります。

セカンダリマスター（標準設定値：使用しない）
本パソコンでは設定できません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。
省電力機能は、「PMSet98」やWindows98の「電源の管理」でも設定できます。

●▶「節電の設定を変更する」(P.222)

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
			項目ヘルプ			
省電力モード:	[ユーザー設定]	省電力モードの段階を設定します。				
ハードディスク省電力:	[使用しない]	[使用しない]				
ディスプレイ省電力:	[使用しない]	[使用しない]				
アイドルモード:	[使用する]	[使用する]				
スタンバイタイマー:	[4分]	[4分]				
サスペンドタイマー:	[15分]	[15分]				
サスペンド動作:	[サスペンド]	[使用しない]				
自動Save To Disk:	[使用しない]	[使用しない]				
モデム着信によるレジューム:	[使用しない]	[ユーザー設定]				
時刻によるレジューム:	[使用しない]	各項目を個別に設定します。				
レジューム時刻:	[00:00:00]	[省電力優先]				
▶ 詳細設定		電力消費を最小限に抑えます。				
		[性能優先]				
		システムの性能を損わない範囲で電力消費を抑えます。				
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定			
Esc 終了	メニュー選択	Enter	▶サブメニュー選択		F10 保存して終了	

省電力モード（標準設定値：ユーザー設定）

省電力モードの段階を設定します。

- 使用しない
省電力機能を使用しません。
- ユーザー設定
以下の「ハードディスク省電力」から「サスペンドタイマー」までの項目を、設定できます。
- 省電力優先
アプリケーションなどが使える範囲で、電力消費を最小限に抑えます。
- 性能優先
システムの性能を損わない範囲で、電力消費を抑えます。

アドバイス

Windows98をお使いのとき

項目によっては無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

ハードディスク省電力（標準設定値：使用しない）

一定時間ハードディスクへのアクセスがない場合に、ハードディスクドライブのモーターを止めるまでの時間を設定します。

Windows98の「電源の管理」で、ハードディスクの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

- 使用しない

ハードディスクドライブのモーターは常に回転しています。

- 30秒、1分～20分

ハードディスクドライブのモーターを止めるまでの時間を選択します。

ディスプレイ省電力（標準設定値：使用しない）

一定時間キーボードやフラットポイントからの入力がない場合に、ディスプレイの表示を消すまでの時間を設定します。

Windows98の「電源の管理」で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

- 使用しない

ディスプレイは常に表示されています。

- 2分～20分

ディスプレイの表示を消すまでの時間を選択します。

重要

別売のシリアルマウスをお使いのとき

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」(●▶ P.190) を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

アイドルモード（標準設定値：使用する）

キーボードやフラットポイントからの入力やデータの入出力がない場合に、アイドルモード（CPUのクロック速度を遅くした状態）に移行するかどうかを設定します。

- 使用しない

アイドルモードに移行しません。

- 使用する

アイドルモードに移行します。

スタンバイタイマー（標準設定値：4分）

一定時間キーボードやフラットポイントからの入力やデータの入出力がない場合に、スタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。

スタンバイモードは、Windows98の「システムスタンバイ」とは異なります。スタンバイモードになると、ディスプレイの表示が消え、ハードディスクのモーターが止まります。

- 使用しない

スタンバイモードに移行しません。

- 1分～16分

スタンバイモードに移行するまでの時間を選択します。

ただし、Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。

サスペンドタイマー（標準設定値：15分）

一定時間キーボードやフラットポイントからの入力やデータの入出力がない場合に、サスペンドするまでの時間を設定します。

Windows98が起動しているときは、「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定に従ってサスペンドします。

- 使用しない

サスペンドしません。

- 5分～60分

サスペンドするまでの時間を選択します。

ただし、Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。

アドバイス

「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定しているとき

サスペンドするときに、自動的にSave To Disk機能が働いて、本パソコンの電源が切れます。

サスペンド動作（標準設定値：サスペンド）

サスペンド時に、サスペンド機能で一時停止するかSave To Disk機能で電源を切るかを設定します。

- サスペンド
メモリ内容を保持したまま、CPUや内蔵デバイスの電源を切ります。
- Save To Disk
メモリ内容をハードディスクのSave To Disk領域に保存し、すべての電源を切ります。

アドバイス

「Save To Disk」に設定してもサスペンドすることがあります

次の場合には、Save To Disk機能が働かず、サスペンドします。

- Save To Disk領域が作成されていないとき
- 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がになっているとき
- LOWバッテリー状態で自動的にサスペンドするとき

自動 Save To Disk（標準設定値：使用しない）

サスペンドしてから1時間後に、自動的にSave To Disk機能で電源を切るかどうかを設定します。

- 使用しない
自動 Save To Disk 機能は動きません。
- 1時間後に移行する
1時間後に、自動的に Save To Disk 機能が働いて、電源が切れます。

モデム着信によるレジューム（標準設定値：使用しない）

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）かどうかを設定します。

「PMSet98」が起動しているときに有効です。「PMSet98」が起動していないときは、Windows98 が自動的に設定し、本設定は無効です。

- ▶「PMSet98」で設定を変更する」（P.222）
 - 使用しない
 モデムの着信時にレジュームしません。
 - 使用する
 モデムの着信によって、自動的にレジュームします。

アドバイス

モデム着信によるレジューム機能についての注意

- PDC コネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- 本パソコンがレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでには、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、モデムのマニュアルをご覧ください。
- 「使用する」に設定すると、サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が増加します。この場合には、ACアダプタを接続してください。

時刻によるレジューム（標準設定値：使用しない）

サスペンド中に「レジューム時刻」で設定した時刻になったとき、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）かどうかを設定します。

Windows98 で「タスクスケジュール」を設定しているときは、Windows98 と BIOS セットアップの両方とも有効になります。

- 使用しない
 レジュームしません。
- 使用する
 設定した時刻になると、自動的にレジュームします。

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）時刻を時：分：秒（24時間制）で設定します。設定する項目にカーソルを移動して、数値を入力します。

詳細設定

省電力機能の詳細項目を設定できます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
省電力		
詳細設定		項目ヘルプ
SUS/RESスイッチ:	[使用する]	SUS/RESスイッチを使用 するかどうかを設定しま す。
カバークローズ サスペンド:	[使用する]	
カバーオープン レジューム:	[使用する]	
APMのCPUアイドル動作:	[低電力]	
シリアルマウス:	[使用しない]	
F1 ヘルプ	項目選択 -/Space 値の変更	F9 標準設定
Esc 終了	メニュー選択 Enter	▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

SUS/RES スイッチ（標準設定値：使用する）

SUS/RES スイッチを押したとき、サスペンドするかどうかを設定します。

- 使用しない
SUS/RES スイッチではサスペンドしません。
- 使用する
サスペンドします。

カバークローズ サスペンド（標準設定値：使用する）

液晶ディスプレイを閉じたとき、カバークローズスイッチでサスペンドするかどうかを設定します。

- 使用しない
カバークローズスイッチでは、サスペンドしません。
- 使用する
サスペンドします。

重要

カバークローズサスペンドについての注意

- ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PC カード使用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- Windows 98 の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム (標準設定値: 使用する)

サスペンド中に液晶ディスプレイを開いたとき、サスペンドから復帰するかどうかを設定します。

- 使用しない
液晶ディスプレイを開いても、レジュームしません。
- 使用する
レジュームします。

APM の CPU アイドル動作 (標準設定値: 低電力)

OS の省電力機能 (APM ドライバ) から「CPU アイドル」が通知されたときの、CPU の動作を設定します。

ただし、Windows98 の動作中は、「標準」の動作になります。

- 標準
CPU の動作は停止しますが、CPU へのクロック供給は行います。
- 低電力
CPU の動作を停止し、CPU へのクロック供給も行いません。

アドバイス

「低電力」に設定して動作が不安定になったとき

「低電力」に設定すると、動作環境によっては本パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合には「標準」に設定してください。

シリアルマウス (標準設定値: 使用しない)

別売のシリアルマウス(シリアルコネクタに接続するマウス)を使用しているとき、マウスの操作によってディスプレイが省電力モードから復帰するかどうかを設定します。

- 使用しない
シリアルマウスの操作では復帰しません。
- 使用する
シリアルマウスの操作で復帰します。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
				項目ヘルプ		
クイック起動: [使用する] 起動時の自己診断画面: [表示しない]				起動時の自己診断テストを簡略化するかどうかを設定します。 [使用する]に設定すると、起動時間が短縮されます。		
▶ 起動デバイスの優先順位						
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 メニュー選択	-/Space 値の変更 Enter ▶サブメニュー選択	F9 標準設定 F10 保存して終了			

クイック起動（標準設定値：使用する）

起動時の自己診断テスト（POST）を簡略化して、起動時間を短縮するかどうかを設定します。

- 使用しない
起動時の自己診断テストを簡略化しません。
- 使用する
常に起動時の自己診断テストを簡略化して、起動時間を短縮します。
- 自動
起動時の自己診断テストを簡略化するかどうかを自動的に判断し、起動時間を短縮します。

起動時の自己診断画面（標準設定値：表示しない）

起動時の自己診断テストの途中経過や診断結果を、画面に表示するかどうかを設定します。

- 表示しない
自己診断テスト中は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されます。
- 表示する
自己診断テストの画面が表示されます。

起動デバイスの優先順位

(標準設定値:「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」「ATAPI CD-ROM ドライブ」の順番)

起動用のデバイスを検索する順番を設定します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
起動	
起動デバイスの優先順位	項目ヘルプ
1. [フロッピーディスクドライブ] 2. [ハードディスクドライブ] 3. [ATAPI CD-ROMドライブ]	< >または< >キーを押して、順位を変更するデバイスを選択します。 <Space>キーを押すと選択したデバイスがリストの上側に移動し、<->キーを押すとリストの下側に移動します。
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 -/Space 値の変更 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

または で優先順位を変更したいデバイスを選択し、順位を上げたいときは

、順位を下げたいときは を押します。

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- ATAPI CD-ROM ドライブ

アドバイス

優先順位を一時的に変更したいとき

起動時の自己診断テスト中に を押すと、「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを または で選択し、 を押してください。

「<BIOSセットアップを起動>」を選択すると、BIOSセットアップを起動することもできます。

起動時のメニュー
1. フロッピーディスクドライブ 2. ハードディスクドライブ 3. ATAPI CD-ROMドライブ
<BIOSセットアップを起動>

「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」の項目は、起動可能なATAPIドライブがセットされている場合のみ表示されます。

情報メニュー

「情報」メニューは、BIOS やパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
						項目ヘルプ
BIOS版数:	1.XX					
BIOS日付:	1999/XX/XX					
BIOS領域:	E800h - FFFFh					
CPUタイプ:	Intel(R) Celeron(TM) processor					
CPU速度:	XXX MHz					
L1キャッシュ:	32 KB					
L2キャッシュ:	128 KB					
全メモリ容量:	64 MB					
標準メモリ:	64 MB SDRAM					
増設メモリ:	未使用					
資産番号:	未定義					
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space	値の変更	F9	標準設定	
Esc 終了	メニュー選択	Enter	▶サブメニュー選択	F10	保存して終了	

BIOS 版数

BIOS のバージョン番号が表示されます。

BIOS 日付

BIOS の日付が表示されます。

BIOS 領域

BIOS 領域のアドレスが表示されます。

CPU タイプ

CPU のタイプが表示されます。

CPU 速度

CPU のクロック速度が表示されます。

L1 キャッシュ

1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

L2 キャッシュ

2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵されているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

増設メモリ

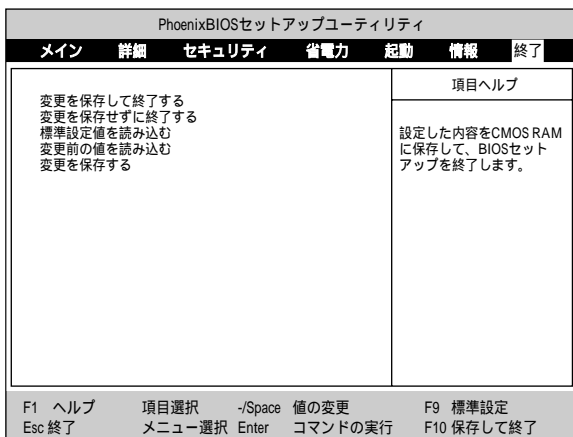
拡張RAM モジュールスロットに増設したメモリの容量が表示されます。
メモリを増設していないときは、「未使用」と表示されます。

資産番号

本パソコンでは「未定義」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。



変更を保存して終了する

変更した設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了するときを選択します。

変更を保存せずに終了する

変更した設定内容を保存しないで、変更前の設定のままで BIOS セットアップを終了するときを選択します。

標準設定値を読み込む

すべての設定項目の値を、ご購入時の設定（標準設定値）に戻すときを選択します。

変更前の値を読み込む

すべての設定項目に変更前の値を読み込んで、変更を取り消すときを選択します。

変更を保存する

変更した設定内容をいったん保存して、設定を続けるときを選択します。

BIOS のパスワード機能を使う

BIOSのパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- パスワード機能について ●▶ P.195
- パスワード機能を設定する ●▶ P.197
- パスワードを入力する ●▶ P.199
- パスワードを変更/削除する ●▶ P.200

パスワード機能について

設定できるパスワードの種類

BIOSでは、次の2つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。

パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。

ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。

「管理者用パスワード」を設定したときのみ設定できます。

パスワードで制限 / 保護できる機能

BIOS セットアップの起動

「管理者用パスワード」を設定すると自動的に働きます。

設定してあるパスワードを入力しないと、BIOS セットアップが起動できないように制限されます。また、「ユーザー用パスワード」を入力してBIOS セットアップを起動したときは、設定できる項目が制限されます。

起動時のパスワード

設定してあるパスワードを入力しないとOSを起動できないように制限されます。また、下記の「フロッピーディスクアクセス」では、起動時に入力したパスワードによって制限機能が変わります。

レジューム時のパスワード

本パソコンがサスペンドから復帰するとき、起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力しないと、キーボードとフラットポイント(マウス)が使えないように制限されます。

この機能は、「起動時のパスワード」を設定しているときにのみ利用できます。

フロッピーディスクアクセス

「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定しているときは、フロッピーディスクが使えないようになります。

「起動時のパスワード」を「使用する」に設定しているときは、ユーザー用パスワードを入力して起動したときにフロッピーディスクが使えないように制限されます。

ただし、内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)へのアクセスは制限できません。

ハードディスクセキュリティ

接続してあるハードディスクを取り外して他のパソコンに取り付けたときに、データを読み出すことができないように保護されます。「起動時のパスワード」と併用することにより、パソコン本体を盗まれた場合でも、保存してあるデータの読み出しが困難になります。

本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブの場合にのみ利用できます。

アドバイス

Windows98 のパスワード機能について

Windows98 のパスワード機能は、BIOS のパスワード機能とは異なります。

Windows98 のパスワード機能だけでは、ハードディスクデータの読み出しからデータを保護することはできません。

パスワード機能を設定する

パスワードを設定する

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
●▶「BIOS セットアップを起動する」(P.156)
- 2 を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3 または でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、**[Enter]** を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

- 4 設定したいパスワード（半角英数字、7文字まで）を入力します。
英字の大文字、小文字の区別はありません。
入力した文字は、表示されません。

アドバイス

設定を中止するには
[Esc] を押してください。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

5 **[Enter]**を押します。

カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

6 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。

正しく入力してください。

7 **[Enter]**を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。

8 **[Enter]**を押します。

これでパスワードが設定されました。

各パスワード機能の設定

各パスワード機能の設定は、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで行います。操作のしかたは、通常の設定項目と同じです。

●▶「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.156)

以下に、各機能の設定項目を示します。

BIOS セットアップの起動

管理者用パスワードを設定すると、自動的に設定されます。

起動時のパスワード

「起動時のパスワード」(●▶P.182)を、「使用する」に設定します。

レジューム時のパスワード

「起動時のパスワード」(●▶P.182)と「レジューム時のパスワード」(●▶P.182)の両方を、「使用する」に設定します。

フロッピーディスクアクセス

「フロッピーディスクアクセス」(●▶P.182)を、「管理者のみ可能」に設定します。

ハードディスクセキュリティ

「プライマリマスター」(●▶P.183)を、「使用する」に設定します。

パスワードを入力する

パスワード機能を設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき
- サスペンドから復帰するとき

BIOS セットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

アドバイス

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなります。この場合は、リセットスイッチを押して本パソコンを再起動し、正しいパスワードを入力してください。



- ▶ アドバイス「電源が切れないとき」(P.58)

「ユーザー用パスワード」でBIOS セットアップを起動すると

設定できる項目が制限されます。

- ▶ 「ユーザー用パスワード設定」(P.181)

レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示LCDにとが交互に点滅します。この状態では、フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

アドバイス

誤ったパスワードを入力したとき

正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント（マウス）は使えません。

Windows98 で設定するには

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の左をにしても、サスペンドから復帰するときのパスワードを設定できます。この場合は、BIOS で設定したパスワードではなく、Windows98 のパスワードを入力してください。

MouseWare (●▶ P.246) をインストールしているとき

レジューム後に、本パソコンが動かなくなったり、動作が不安定になることがあります。この場合には、本パソコンを再起動したあと、「レジューム時のパスワード」を「使用しない」に設定してください。

パスワードを変更 / 削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
●▶「BIOS セットアップを起動する」(P.156)
- 2 を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

- 3 □または□でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、**[Enter]**を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

- 4 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]**を押します。
カーソルが、「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄に移動します。

アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント（マウス）が一切反応しなくなります。この場合は、リセットスイッチを押して本パソコンを再起動し、BIOS セットアップを起動し直してください。

●▶ アドバイス「電源が切れないとき」(P.58)

なお、BIOS セットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

- 5 新しく設定したいパスワード（半角英数字、7文字まで）を入力し、**[Enter]**を押します。
英字の大文字、小文字の区別はありません。
カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何か書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

- 6 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]**を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。

- 7 **[Enter]**を押します。

これで新しいパスワードが設定されました。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」(●▶ P.200) の手順5と6で、何も入力せずに**[Enter]**を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

本パソコンは、電源を入れたときや再起動したときなどに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

ここでは以下のことを説明します。

- **メッセージ一覧** ●▶ P.203
- **メッセージが表示されたときは** ●▶ P.210

メッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- ❶ <ESC> キーを押すと自己診断画面、<F2> キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されず。このメッセージが表示されている間に[F2]を押すと、BIOSセットアップが起動します。

また、[Esc]を押すと起動時の自己診断画面が表示され、さらに自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動するドライブを□または□で選択して、[Enter]を押してください。「<BIOSセットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

起動時のメニュー	
1 .	フロッピーディスクドライブ
2 .	ハードディスクドライブ
3 .	ATAPI CD-ROMドライブ
<BIOSセットアップを起動>	

「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」の項目は、起動可能な ATAPI ドライブがセットされている場合にのみ表示されます。

- ② <F2> キーを押すと、BIOS セットアップを起動します。
起動時の自己診断画面の下に表示され、このメッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。
- ③ BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- ④ 0640K システムメモリ テスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑤ nnnnM 拡張メモリ テスト完了。
拡張メモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑥ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑦ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ⑧ ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ⑨ マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

アドバイス


正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]** を押します。

起動時に常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

エラーメッセージ

- ⑩ Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、**[Enter]** などを押してください。

- ⑪ Non-System disk or disk error
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ⑫ Operating system not found
OSが見つからなかったことを示しています。
BIOSセットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかを確認してください。
- ⑬ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
●▶「メモリを取り外す」(P.100)
メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑭ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
●▶「メモリを増やす」(P.94)
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑮ メモリキャッシュのエラーです。- キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- 17 キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 18 フロッピーディスク A のエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示していません。
フロッピーディスクドライブが正しく取り付けられているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 19 ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 20 システムタイマーのエラーです。
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 21 リアルタイムクロックのエラーです。
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 22 システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
F2 を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- 23 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまったり、またはBIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は[F1]を押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は[F2]を押してください。
- 24 <F1> キーを押すと継続、<F2> キーを押すとセットアップを起動します。
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。[F1]を押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、[F2]を押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
- 25 日付と時刻の設定を確認してください。
日付と時刻の設定値が不正です。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- 26 パスワードで保護されています。: ハードディスク n
取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」(●▶P.181) を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- 27 ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
●▶「Save To Disk 領域」(P.227)
- 28 ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
●▶「Save To Disk 領域」(P.227)

- ②9 ハードディスクが検出されませんでした。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ③0 不明な Save To Disk エラーが発生しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ③1 ハードディスクからの読み取りに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ③2 ハードディスクへの書き込みに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ③3 ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
●▶「Save To Disk 領域」(P.227)
- ③4 Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
< F1 > キーを押すと、このまま起動します。

- 35 Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

< F1 > キーを押すと、このまま起動します。

アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、「メッセージが表示されたときは」(●▶ P.210) をご覧になり、手順に従って確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

メッセージが表示されたときは

メッセージが表示された場合は、「メッセージ一覧」(●▶ P.203)をご覧ください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からない場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOSセットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOSセットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOSセットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。

●▶「ご購入時の設定に戻す」(P.162)

2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

3 取り外したオプション機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号 (IRQ) を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

5

仕様一覧

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧	212
---------------	-----

1

仕様一覧

- 本体仕様 ●▶ P.212
- リソース一覧 ●▶ P.214
- コネクタのピン配列と信号名 ●▶ P.216
- 表示できる解像度と発色数 ●▶ P.218
- CRT ディスプレイの走査周波数 ●▶ P.219

本体仕様

製品名称	FMV-BIBLO NRIX 30L	FMV-BIBLO NRIX 26X
CPU	モバイルIntel®Celeron™ プロセッサ 300MHz	モバイルIntel®Celeron™ プロセッサ 266MHz
キャッシュメモリ	32KB (CPU 内蔵) / 2次キャッシュ 128KB (CPU 内蔵)	
PCI チップセット	Intel 440BX AGPset	
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)	
システム RAM	標準 64MB/ 最大 128MB (SDRAM) (拡張 RAM モジュール 16/32/64MB、スロット×1)	
VRAM	4MB (SGRAM)	
内蔵 CD-ROM ドライブ 1	最大 24 倍速 (平均 17 倍速) / マルチセッション、 CD エクストラ対応	
フロッピーディスク ドライブ	3.5 インチ (2HD : 1.44MB/1.2MB、2DD : 720KB)	
内蔵ハードディスク ドライブ	6.4GB	
表示方式 2	TFT カラー液晶ディスプレイ (14.1 型) 1024 × 768 ドット 最大 1677 万色 3	TFT カラー液晶ディスプレイ (13.3 型) 1024 × 768 ドット 最大 1677 万色 3
音源機能	PCIバス接続サウンドチップ (16ビットステレオ PCM、 FMエミュレーション音源) 64Voice Wave table 機能内蔵	
キーボード	一体型 OADG 配列準拠 92 キー (MS キー付き)	
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント	
PC カード	TYPE / ×2 または TYPE ×1 スロット (CardBus/ZV ポート対応 4)	
DATA/FAX モデム 5	ITU-T V.90/DATA K56flex™/FAX 14.4Kbps	

製品名称		FMV-BIBLO NRⅨ 30L	FMV-BIBLO NRⅨ 26X
外部 インター フェイス	外部CRT	アナログRGB Mini D-SUB 15ピン	
	パラレル	D-SUB 25ピン (ECP対応)	
	シリアル	RS-232C D-SUB 9ピン (16550A互換)	
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプミニ DIN6ピン	
	USB 6	USB用コネクタ 4ピン	
	外付けFDD 7	専用26ピン	
	赤外線通信ポート	IrDA1.1 準拠 (最大4Mbps)	
	ライン入力	3.5mmステレオミニジャック × 1	
	ヘッドホン出力	3.5mmステレオミニジャック × 1	
	マイク入力	3.5mmモノラルミニジャック × 1	
FAXモデム	モジュラージャック (RJ-11) × 1		
PDC	専用コネクタ 9ピン		
電源供給方式		ACアダプタまたはLi-ionバッテリー (バッテリーパック × 1、増設用内蔵バッテリーユニット (別売) × 1 8)	
バッテリー		Li-ion10.8V、2400mAh/5000mAh (バッテリーパック + 増設用内蔵バッテリーユニット (別売))	
バッテリー 稼動時間 9	バッテリーパック (添付)	約1.5時間	
	バッテリーパック (添付) + バッテリーユニット (別売)	約3時間	
バッテリー 充電時間	バッテリーパック (添付)	サスペンド時または電源を切っているとき : 3時間 パソコン動作時 : 8時間	
	バッテリーパック (添付) + バッテリーユニット (別売)	サスペンド時または電源を切っているとき : 5.5時間 パソコン動作時 : 11時間	
消費電力		約54W以下 (AC運用時)	
省エネ法に基づく表示		エネルギー消費効率 約6.0W (AC運用時の待機時消費電力) 10	
外形寸法		308 × 258 × 34.8mm (突起部含まず)	
重量		約2.45kg	約2.39kg
サポートOS		Windows98 およびWindowsNT4.0	

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- 1 内蔵CD-ROMドライブユニット、内蔵FDDユニット、増設用内蔵バッテリーユニット (別売)、内蔵DVD-ROMドライブユニット (別売)、内蔵スーパーディスクドライブユニット (別売) は排他内蔵です。
- 2 ・本パソコンで使用しているTFTカラー液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは点灯しないドットが存在する場合があります。
・液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。
これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 3 ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color(32ビット)で表示されます。
- 4 ZVポートはスロット1(下段側)のみ対応しています。

- 5
 - ・ K56flex™ は、米ルーセントテクノロジー社等が提唱する通信規格です。56000bps は K56flex™ および ITU-T 標準規格 V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。K56flex™ および ITU-T 標準規格 V.90 による 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
 - ・ ナンバーディスプレイ機能は、添付のアプリケーション「電話機能」でのみお使いになれます。
 - ・ MS-DOS モードおよび Windows 98 の MS-DOS プロンプトではお使いになりません。
- 6 すべての USB 対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- 7 内蔵 FDD ユニットの、FDD コネクタ、またはマルチベイのいずれか片方のドライブが使用可能です。
- 8 増設用内蔵バッテリーユニットはオプション機器です。
- 9 本体のみ、省電力制御あり、フル充電の場合（稼動時間は使用条件により異なります）
- 10 サスペンドモード（充電なし）

リソース一覧

本パソコンの割り込み番号 (IRQ)、DMA チャンネルをどのハードウェアが使っているかの一覧です。

本パソコンご購入時の割り込み番号 (IRQ)、DMA チャンネルは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

割り込み番号 (IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマー
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート (COM4)
4	通信ポート (COM1)
5	空き
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システム CMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller / 内蔵モデム (COM2) / USB ホストコントローラ / サウンド / ディスプレイ
10	空き
11	空き
12	ポインティングデバイス
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ
15	IDE コントローラ


DMA チャンネル

DMA	使用状況
0	空き
1	サウンド
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	空き

アドバイス

現在のリソースを確認するには

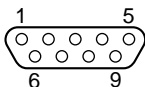
オプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。
リソースの値の一覧が表示されます。

コネクタのピン配列と信号名

■ シリアルコネクタ ■

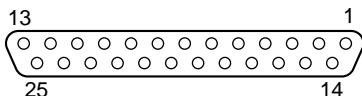
(D-SUB9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ パラレルコネクタ ■

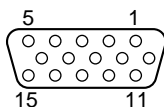
(D-SUB25 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	STROBE	出力	ストロープ
2	DATA 0	入出力	データ0
3	DATA 1	入出力	データ1
4	DATA 2	入出力	データ2
5	DATA 3	入出力	データ3
6	DATA 4	入出力	データ4
7	DATA 5	入出力	データ5
8	DATA 6	入出力	データ6
9	DATA 7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18	GND	-	グラウンド
19	GND	-	グラウンド
20	GND	-	グラウンド
21	GND	-	グラウンド
22	GND	-	グラウンド
23	GND	-	グラウンド
24	GND	-	グラウンド
25	GND	-	グラウンド

■ CRT コネクタ ■

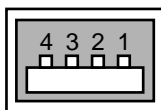
(ミニ D-SUB15 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グランド
6	GND	-	グランド
7	GND	-	グランド
8	GND	-	グランド
9	+ 5V	-	電源 1
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

1 : MAX 300mA

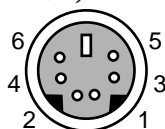
■ USB コネクタ ■



ピン信号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グランド

■ 拡張キーボード/マウスコネクタ ■

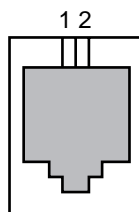
(ミニ DIN6 ピン)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	データ
2	MDATA	入出力	データ
3	GND	-	グランド
4	+ 5V	-	電源
5	KCLK	入出力	クロック
6	MCLK	入出力	クロック

■ モジュラーコネクタ (モデム) ■

(RJ-11)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。以下の解像度と発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数
640 × 480 ドット 1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) 2
800 × 600 ドット 1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) 2
1024 × 768 ドット	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) 2

- 1 640 × 480 ドットまたは800 × 600 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。
- 2 ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color (32 ビット) で表示されます。

アドバイス

ご購入時の解像度と発色数

解像度 : 1024 × 768 ドット

発色数 : True Color (32 ビット)

High Color、True Color の発色数

High Color (16 ビット) は 6 万 5 千色、True Color (32 ビット) は 1677 万色です。

CRT ディスプレイの走査周波数

CRT 表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数が選択できます。

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31 31-43	60 60-85
800 × 600	37-53	60-85
1024 × 768	48-68	60-85
1280 × 1024	64-91	60-85
1600 × 1200	75	60

同時表示の場合

解像度や発色数に関係なく一定です。


水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
48.5	60.0

重要

CRT ディスプレイ表示に切り替えて正常に表示されないとき

お使いになるCRTディスプレイによっては、CRTディスプレイ表示に切り替えた際に正常に表示されない場合があります。これは、CRTディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるためです。

正常に表示するには、CRTディスプレイのマニュアルで、CRTディスプレイがサポートする走査周波数を確認し、以下の方法で設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「アダプタ」タブをクリックし、「リフレッシュレート」をCRTディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。
メッセージが表示された時は、「はい」または「OK」をクリックします。



付録

- 1. 節電の設定を変更する 222
- 2. Save To Disk 領域 227
- 3. ドライバのインストール 232
- 4. その他の技術情報 249

1

節電の設定を変更する

本パソコンは、電源やパソコンの状況に合わせて適切に節電されるように設定されています。

ここでは、以下のことを説明します。

- **ご購入時の節電の設定** ●▶ P.222
- **「PMSet98」で設定を変更する** ●▶ P.222
- **「電源の管理」で設定を変更する** ●▶ P.226

ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリーで使うときに節電されるように設定されています。



節電の設定は、通常お使いになる上では、変更する必要はありません。変更する場合は、「PMSet98」またはWindows98の「電源の管理」を使います。

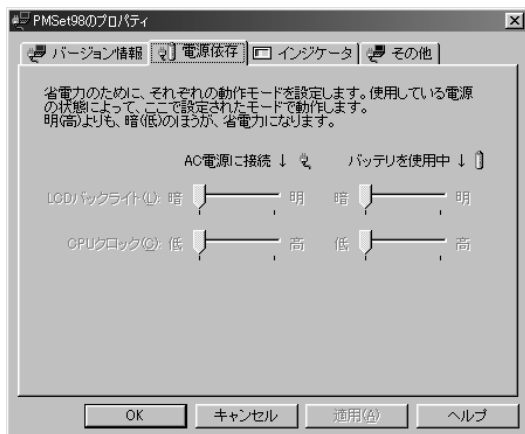
ピーエムセット

「PMSet98」で設定を変更する

「PMSet98」には、現在の設定内容が表示される「PMSet98のプロパティ」ウィンドウと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 タスクバーのまたはをダブルクリックします。
「PMSet98のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



アドバイス



タスクバーにまたはが表示されていないとき

「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「PMSet98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。

が点滅しているとき

バッテリーの充電中は、タスクバーのが点滅しています。

「PMSet98」を終了するには

「PMSet98」は、Windows98を起動するたびに起動します。「PMSet98」を使用しないときは、タスクバーのまたはを右クリックし、「終了」をクリックします。

終了すると、「その他」タブの設定は無効になります。


インジケータを表示する

インジケータには、バッテリー残量や電源の状態が表示されます。

- 1 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示します。
 - ▶ 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する


2 「インジケータ」タブをクリックします。

3 「インジケータを表示する」をクリックして を にします。

4 「表示位置」の右の  をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。

アドバイス

表示位置について

- インジケータと他のウィンドウが重なったときは、インジケータが常に前面に表示されます。
- インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
- 「自由位置[ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- 「種類」の右の  をクリックすると、インジケータの種類を選べます。

5 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

 : ACアダプタ接続時

 : バッテリーで使用時

アドバイス

電源の状態が表示されないとき

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックして を にします。

設定を変更する

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする(サスペンドする前に戻す)かどうかを設定します。

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックして を にし、「OK」をクリックします。

アドバイス

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

BIOS セットアップの「省電力」メニューの「モデム着信によるレジューム」(●▶ P.188) でも設定を変更できます。

「PMSet98」で設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

レジュームするように設定しているとき

- PDCコネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- Save To Disk 機能を使っているときは、レジュームしません。
●▶「Save To Disk 機能を使う」(P.78)
- BIOSセットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」(●▶ P.187)などを「Save To Disk」に設定していても、サスペンドになります。
- サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が大きくなります。ACアダプタを接続してお使いになることをお勧めします。


「電源依存」タブの項目について

本パソコンでは設定できません。

「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定します。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

節電機能が働くまでの時間の設定は、「電源設定」タブで変更します。
バッテリーの残量が少なくなったときにWindows98が出す警告の設定は、「アラーム」タブで変更します。
変更のしかたや設定項目については、Windows98 のヘルプをご覧ください。

アドバイス

Windows98 のヘルプで関連する項目を探すには

「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックすると、「Windows のヘルプ」ウィンドウが表示されます。「キーワード」タブで、「電源」などの検索語を入力して表示される一覧から、該当する項目をダブルクリックします。

サスペンドするまでの時間を変更するには


「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で、時間を変更してください。

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

節電方法をさらに細かく設定したいときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの項目も設定してください。

- ▶「省電力メニュー」(P.184)

バッテリーの残量が12%以下になったとき

バッテリーの残量が約12%以下の状態を、「LOW バッテリー状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリー残量表示(状態表示 LCD の ) が点滅し、警告音が鳴ります。

- ▶「LOW バッテリー状態」(P.67)

2

Save To Disk 領域

ここでは以下のことを説明します。

- Save To Disk 領域について ●▶ P.227
- Save To Disk 領域の容量 ●▶ P.227
- Save To Disk 領域を変更する ●▶ P.228

Save To Disk 領域について

Save To Disk 機能では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ Save To Disk 機能用の保存場所が確保されています。この Save To Disk 機能用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなったときは、Save To Disk 機能が使えなくなります。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + 5MB (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量 (増設時)	ビデオメモリ容量・その他
約 133MB	基本 64MB + 増設 64MB = 128MB	約 5MB

64MB の拡張 RAM モジュールを取り付けた場合

アドバイス

「ファイル形式」と「区画設定」

Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、あらかじめ、Save To Disk 領域が「区画設定」で設定されています。


ファイル形式で使うときの注意


「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。

Save To Disk 領域に必要な容量

Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

Save To Disk 領域を変更する

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使用します。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は  「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に入っています。

また、Windows98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。フロッピーディスクドライブに  「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を入れて本パソコンを起動し、起動後に表示される「Windows 98 リカバリメニュー」で、**③**を押してお使いください。

使用方法 : PHDISK { オプション }

└── /CREATE /PARTITION
(または /CREATE /FILE)
/INFO
/DELETE /PARTITION
(または /DELETE /FILE)
/REFORMAT /PARTITION

それぞれのオプションは、先頭の1文字だけでも有効です。たとえば、/CREATEと/Cは同じです。

/の前は、を1回押してください。

また、PHDISKをオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

作成 : /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)
Save To Disk領域がまだ作成されていない場合に使います。
/CREATE /FILEと指定すると、Save To Disk領域をファイル形式で作成します。
/CREATE /PARTITIONと指定すると、Save To Disk領域を区画設定で作成します。
Save To Disk領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。

区画設定でSave To Disk領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

アドバイス

Save To Disk領域を作成するとき

Save To Disk領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。

区画としてSave To Disk領域を作成するとき

- 区画としてSave To Disk領域を作成するときは、FDISKユーティリティでMS-DOS領域を作成する前に行ってください。
- 「区画設定」でSave To Disk領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。

Save To Disk領域を作成したあとは再起動してください

Save To Disk領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。再起動せずにSave To Disk機能を使うと、正しく動作しない場合があります。

削除 : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)
すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。
/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。
/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。
Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。

再フォーマット : /REFORMAT /PARTITION
区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。
このオプションは、Save To Disk 機能を使っていて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

アドバイス

区画として作成した Save To Disk 領域を増やすとき

区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。

作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

表示例：

- 区画設定で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報:

開始セクタ:XXXXXX (ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X)

全容量:XXXXXX バイト

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

- ファイル形式で作成した場合


Save To Disk 領域詳細情報:

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C:¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読取専用です。

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

ドライバのインストール

ゲームなどをインストールすると、本パソコンに合わないドライバが自動的にインストールされてしまい、本パソコンが正しく動作しなくなることがあります。また、「アプリケーションCD」に入っているドライバをインストールすると、本パソコンの機能を拡張できることがあります。

ここでは、以下のことを説明します。

- インストールのときに気を付けること ●▶ P.232
- ディスプレイドライバをインストールする ●▶ P.233
- サウンドドライバをインストールする ●▶ P.241
- モデムドライバをインストールする ●▶ P.244
- Logitech MouseWare をインストールする ●▶ P.246


インストールのときに気を付けること

アプリケーションやウィンドウの終了


「Windows98へようこそ」画面など、開いているウィンドウや、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。「VirusScan」や「AUV」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、何度もパソコンが再起動するので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

「バージョンの競合」ウィンドウ

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーションCD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

ディスプレイドライバをインストールする

画面が正しく表示されないときは、ディスプレイドライバをインストールします。ディスプレイドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

●▶「インストールのときに気を付けること」(P.232)

アドバイス

内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください

●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)

Windows98が起動しないときは、SafeモードでWindows98を起動してください。

●▶「Safe モードで Windows98 を起動する」

Windows98 のセットアップ直後など、Windows98 が起動しているときは、ディスプレイドライバをインストールします。

●▶「ディスプレイドライバのインストール」(P.237)

セーフ

Safe モードで Windows 98 を起動する

- 1 キーボードの **[Ctrl]** の位置を確認します。
- 2 パソコン本体の電源を入れます。
●▶「電源を入れる」(P.54)
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示されたら、**[Ctrl]** を押し続けます。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。

アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないとき

[Ctrl] を押すタイミングが合わなかったことが考えられます。本パソコンを再起動して、手順 3 からやり直してください。

- 4 を押して、「3. Safe mode」を反転表示させ、**[Enter]**を押します。
Safe モードで Windows98 が起動し、Safe モードの説明が表示されます。

アドバイス

セーフ Safe モードとは


Windows98を必要最低限の状態ですべて起動する方法です。ディスプレイなどの設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。


Windows98 が起動してしまったとき

手順4の操作を行わないまま30秒経過すると、自動的にWindows98が起動してしまうことがあります。その場合は、本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

エラーメッセージについて

Windows98が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。

- 5 「デスクトップ」ウィンドウの「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 7  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 8 「設定」タブをクリックします。
- 9 「詳細」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。

- 12** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、にします。
- 13** 「次へ」をクリックします。
- 14** 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。
- 15** 「製造元」に「(標準ディスプレイ)」を、「モデル」に「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」を選び、「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 17 へ進んでください。
- 16** 「はい」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 17** 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 18** 「完了」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 19** 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 20** 「閉じる」をクリックします。
「続行しますか？」というメッセージが表示されます。
- 21** 「はい」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

- 22 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

重要

メッセージが表示されたとき

再起動後に「ディスプレイ設定に問題があります。」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「色」を「16色」に設定します。そのあと「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

ハードウェアウィザードが始まるメッセージが表示されたとき

ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、「OKをクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

アドバイス

「AUV」ウィンドウが表示されたとき

ディスプレイドライバをインストールしている途中で、「.....表示色が16色や256色のままでは、正しく表示されません。」というウィンドウが表示されたときは、「終了する」をクリックしてください。

「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには

再起動後に「コントロールパネル」ウィンドウを表示すると、左端に説明が表示されないことがあります。

このときは、「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューをクリックし、「Web ページ」をクリックして☑(チェックマーク)を付けてください。説明が表示されるようになります。

ディスプレイドライバのインストール

⚠ 注意






CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。



アドバイス

「AUV」ウィンドウが表示されたとき

ディスプレイドライバをインストールしている途中で、「.....表示色が16色や256色のままでは、正しく表示されません。」というウィンドウが表示されたときは、「終了する」をクリックしてください。

- 1  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
▶▶ 「セットする」(P.38)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックします。
- 5 「詳細」をクリックします。
- 6 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
「アダプタ」タブが表示されていないときは、「OK」をクリックし、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしてください。「アダプタ」タブが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。

- 8 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、にします。
- 9 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。
- 10 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、e:¥ati¥driverと入力し、「OK」をクリックします。(CD-ROMドライブがEのとき)
- 12 「RAGE LT PRO AGP (2X)(Japanese)[11-17-1998]」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順14へ進んでください。
- 13 「はい」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 14 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 15 「完了」をクリックします。
- 16 「RAGE LT PRO AGP (2X)(Japanese)のプロパティ」ウィンドウで「モニタ」タブをクリックします。
- 17 「ラップトップディスプレイパネル1024×768」と表示されているか、確認します。
表示されているときは、手順26へ進んでください。
- 18 「変更」をクリックします。

- 19 「次へ」をクリックします。
- 20 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。
- 21 「すべてのハードウェアを表示」をクリックし、にします。
- 22 「製造元」に「標準モニタの種類」を、「モデル」に「ラップトップディスプレイパネル (1024 × 768)」を選び、「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 24 へ進んでください。
- 23 「はい」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 24 「次へ」をクリックします。
- 25 「完了」をクリックします。
- 26 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

アドバイス

.....




「続行しますか？」というメッセージが表示されたとき

「はい」をクリックしてください。


「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

- 1 「OK」をクリックします。
「この設定を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 - 2 「はい」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
 - 3 手順 27 へ進みます。
-

- 27 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

- 28** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
再起動しない場合は、「スタート」メニューから、「Windows の終了」を実行し、本パソコンを再起動してください。
本パソコンの再起動後に「ATI デスクトップのヘルプ」ウィンドウが表示されたときは、右上の  (閉じるボタン) をクリックしてください。
- 29**  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
●▶ 「取り出す」(P.40)
- 30** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 31** 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 32** 「ディスプレイアダプタ」の「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」に「！」が表示されているときは、「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「！」が表示されないときは、手順 **34** へ進んでください。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 33** 「OK」をクリックします。
- 34** 「閉じる」または「OK」をクリックします。
- 35** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 36** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。


お使いの状況に合わせて、画面の解像度と発色数を変更してください。

●▶  『困ったときの Q&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」

ご購入時は、解像度が 1024 × 768 ドット、発色数は True Color(32 ビット) です。

サウンドドライバをインストールする

ゲームなどをインストールして音が正しく出なくなったときは、サウンドドライバをインストールします。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーション CD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

●▶「インストールのときに気を付けること」(P.232)

注意








けが CD-ROMをセットおよび取り出すときは、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



アドバイス

内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください

●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)


- 1 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
●▶「セットする」(P.38)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
- 3 名前の右の欄に `e:\es1978s\setup.exe` と入力し、「OK」をクリックします。(e:には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)
「Welcome」ウィンドウが表示されます。
- 4 「Next」をクリックします。
「ESS Maestro2E」ウィンドウが表示されます。

- 5 「Upgrade Drivers」をクリックしてにし、「Next」をクリックします。
- 6 「No, I will restart my computer later.」をクリックしてにし、「Finish」をクリックします。
- 7 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 8 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。
しばらくすると電源が切れます。
- 9 10 秒ほど待ってから、SUS/RES スイッチを押します。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 10 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 11 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。
- 12 「検索場所の指定」をクリックしてをにし、その下の欄にe:¥es1978s と入力して、「次へ」をクリックします。(e:には、お客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください)
「検索場所の指定」以外の項目にがあるときは、クリックしてをにします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示され
ます。
- 13 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
コピーが終わると「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 14 「完了」をクリックします。
- 15 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
●▶「取り出す」(P.40)

- 16 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。
「Volume Control」ウィンドウが表示されます。
- 17 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 18 「音量の調整」の一覧で「再生」がになっていることを確認し、「表示するコントロール」の一覧で「PC Spkr」と「Zoom Video」をクリックしてをにします。
になっている場合は、クリックする必要はありません。
- 19 「OK」をクリックします。
- 20 「Volume Control」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。


モデムドライバをインストールする

ITU-T 標準規格 V.90 で通信したいときや、PDC コネクタに携帯電話を接続して通信したいときは、添付のモデムドライバをインストールします。

モデムドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

●▶「インストールのときに気を付けること」(P.232)


注意




けが  CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などをいれないでください。
けがの原因となることがあります。

アドバイス

.....
内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください



●▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)
.....

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (アプリケーションの追加と削除)をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」(古いドライバ)をクリックし、「追加と削除」をクリックします。
「Confirm File Deletion」ウィンドウが表示されます。
- 4 「はい」をクリックします。
「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」が削除されます。
- 5 「OK」をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 7 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動したあと、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 8 「次へ」をクリックします。
- 9 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」をクリックして
にし、「次へ」をクリックします。
「新しいドライバは、ハードドライブの.....」というウィンドウが表示されます。
- 10  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
●▶「セットする」(P.38)
- 11 「検索場所の指定」をクリックしてをにし、その下の欄に e:¥modempdc
と入力して、「次へ」をクリックします。(e:には、お客様がお使いの CD-ROM
ドライブ名を入力してください)
「検索場所の指定」以外の項目にがあるときは、クリックしてをにします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されま
す。
- 12 「次へ」をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 13 「完了」をクリックします。
「新しいハードウェア」ウィンドウが表示され、ドライバがインストールされます。
- 14  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
●▶「取り出す」(P.40)

正しくインストールされているか確認してください

次の手順で確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「モデム」の左の  をクリックします。
- 4 「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」と「Fujitsu SOFT PDC」が表示されていることを確認します。

このあと、次の設定を行ってください。

- 5 「接続」をクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」をクリックして を にします。
- 6 「OK」をクリックします。

アドバイス**PDC コネクタ用のドライバもインストールされます**


インストールが完了すると、次の2つのドライバがインストールされます。

- Fujitsu LB RWModem V.90 56K J
電話回線をモジュラーコネクタに接続して通信するためのドライバです。
●▶「電話回線と接続する」(P.45)
- Fujitsu SOFT PDC
携帯電話を PDC コネクタに接続して通信するためのドライバです。
●▶「PDC コネクタに接続する」(P.120)

ただし、2つのドライバを同時に動作させることはできません。

Logitech MouseWare をインストールする

「Logitech MouseWare」をインストールすると、フラットポイントの機能を拡張することができます。

「Logitech MouseWare」のインストールは、 「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

- ▶「インストールのときに気を付けること」(P.232)

⚠ 注意



けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

制限事項


「Logitech MouseWare」をインストールすると、以下の場合に正しく動作しないことがあります。



- BIOS セットアップの「詳細」メニューの「キーボード / マウス設定」で、「内蔵ポインティングデバイス」(●▶ P.176)を「自動」に設定しているとき(ご購入時は「自動」)
- BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで、「レジューム時のパスワード」(●▶ P.182)を「使用する」に設定しているとき(必ず「使用しない」に設定してください)
- PS/2 規格以外のマウスを接続しているとき

アドバイス

内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください

- ▶「マルチベイのユニットを交換する」(P.25)

- 1  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
●▶「セットする」(P.38)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
- 3 「名前」の右の欄に `e:¥pointlog¥setup.exe` と入力し、「OK」をクリックします。(e:には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「高速セットアップ」をクリックします。
インストールが始まります。
インストールが終了すると、「インストールが完了しました」というウィンドウが表示されます。

- 5 「すぐにWindowsを再起動する。」がになっていることを確認し、「完了」をクリックします。
本パソコンが再起動すると、「新規デバイス」ウィンドウが表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
「デバイス設定ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「クリックおよび選択に使用するボタン」というウィンドウで「次へ」をクリックします。
- 9 「中央ボタンの機能を選択」というウィンドウで「次へ」をクリックします。
中央ボタンとは、本パソコンではフラットポイントの左ボタンと右ボタンをいっしょに押すことです。
- 10 「簡単なダブルクリック」というウィンドウで「次へ」をクリックします。
- 11 「以下のようにデバイスが設定されます。」というウィンドウで「完了」をクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 12 「OK」をクリックします。
- 13  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
●▶「取り出す」(P.40)

アドバイス

設定を変更するには

フラットポイントのボタンの機能を変更するときは、「マウスのプロパティ」ウィンドウで行ってください。


その他の技術情報

- 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意 ●▶ P.249


赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意

本パソコンの赤外線通信ポートを使って、パソコン間でデータをやり取りすることができます。これを赤外線通信といいます。

本パソコンには、赤外線通信のアプリケーションとして、^{インテリシンク}「Intellisync」が用意されています。赤外線通信をお使いになる前に以下の注意事項をご覧になり、設定を行ってください。なお、「Intellisync」を使った通信について詳しくは、「Intellisync」のマニュアルをご覧ください。


- ▶  『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド』

制限事項

- Windows98を終了させるときは、必ず「Intellisync」を先に終了させてください。
- データの通信中に、赤外線通信ポートをふさいだりして、通信エラーが発生した場合は、「Intellisync」をいったん終了させてから、再度行ってください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
- 「Intellisync」のシンク機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しません。
- 赤外線通信の相手先には、「TranXit3.0」の4Mbpsモードはお使いになれません。以下のいずれかの方法でお使いください。
 - 「TranXit3.0」の設定で、115Kbpsを指定してお使いください。
 - 4Mbpsモードをお使いになる場合は、 「アプリケーションCD」より相手先のコンピュータに「Intellisync」をインストールして、「Intellisync」同士でお使いください。

アドバイス

インストールのしかた

- ▶  『お使いになるうえでの注意事項』の「Intellisyncについて」

赤外線通信をするときの注意

- 赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタやCRTディスプレイを近づけないでください。
ノイズによる誤動作の原因となります。
- 互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能な状態にし、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。
- 距離は、20～50cmの範囲内でのご使用をお勧めします。特にバッテリー運用時は、互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- データの転送中にお互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗することがあります。
- 次のようなときは、うまく通信ができない場合があります。
 - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていないとき
 - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎたり、間に遮断物があるとき
 - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作しているとき
 - 直射日光や蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっているとき


転送速度について

本パソコンは、「Intellisync」を搭載しており、最大4Mbpsの速度で通信できます。転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- 115Kbpsのパソコンと通信する場合
自動的に115Kbpsモードで接続されます。
- 4Mbpsのパソコンと通信する場合
自動的に4Mbpsモードで接続されます。

Windows 98の赤外線機能を使用しているとき

Windows 98に標準添付されている赤外線デバイスを実行していると、「Intellisync」が正常に動作しないことがあります。その場合、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (赤外線モニタ) をクリックします。
「赤外線モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「オプション」タブをクリックします。

4 「赤外線通信を使用可能にする」をクリックしてをにします。

5 「OK」をクリックします。

Intellisync の設定を確認する

BIOS セットアップでの設定

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。うまく通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「周辺機器設定」で、「シリアルポート B」の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

- シリアルポート B : 使用する
 - モード : FIR
 - I/O ベースアドレス : 2E8
 - 割り込み番号 : IRQ 3
 - I/O ベースアドレス : 118
 - DMA チャンネル : DMA 3
- ▶「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.156)

アドバイス

コンピュータ名について

あらかじめインストールされている「Intellisync」は、「コンピュータ名」に「OEMCOMPUTER」が登録されています。通信相手の「コンピュータ名」が同じ名前になっていると通信できません。その場合は異なる名前になるように設定を変更してください。変更は「Intellisync」の「接続設定マネージャ」の「識別」タブの「コンピュータ名」で行います。

ZAURUS との通信について

「Intellisync」では、ZAURUS との通信はサポートされていません。

索引

記号

- 2DD フロッピーディスク 31
- 2HD フロッピーディスク 31

A

- AC アダプタ 59
 - を取り付ける 59
 - を取り外す 60
- AC アダプタ表示 13
- Alt キー 18
- Application キー 18

B

- Back Space キー 17
- BIOS セットアップ 150
 - 起動する 156
 - ご購入時の設定に戻す 162
 - 終了する 160
 - 設定時に使用するキー一覧 158
 - 設定を変更する 158
 - 操作のしかた 156
 - パスワード機能 195

C

- Caps Lock 英数キー 17
- Caps Lock 表示 15
- CD-ROM 36
 - が取り出せなくなったとき 41
 - 注意事項 37
 - をセットする 38
 - を取り出す 40
- CD-ROM ドライブアクセス表示 14
 - の点滅を止めるには 14

- CRT コネクタ 11, 217
- CRT ディスプレイ 125
 - 解像度と発色数 134
 - 解像度を変更する 135
 - 発色数を変更する 135
 - 表示を切り替える 129
 - を接続する 127
- Ctrl キー 18

D

- DC-IN コネクタ 8
- Delete キー 17
- DMA チャンネル 215
- DOS/V 84
- DVD 140
- DVD-ROM ドライブ 140

E

- EJECT ボタン 9
- End キー 18
- Enter キー 17
- Esc キー 16

F

- Fn キー 18

H

- High Color 135, 218
- Home キー 17

I

- Insert キー 16
- Intellisync 249
- IRQ 214

J

- JEIDA 106

L

- LAN カード 104
- LOW バッテリー状態 67

M

MO ドライブ 147

N

Num Lk キー 16

Num Lock 表示 15

P

Page Down キー 18

Page Up キー 17

PC/AT 互換機 84

PCMCIA 106

PC カード 104

- 注意事項 105

- をセットする 107

- を取り出す 117

PC カードアクセス表示 15

PC カードスロット 7

PC カード取り出しボタン 7

PC カードロック 7

PDC コネクタ 7, 120

- に接続する 120

PHS 120

- を接続する 120

PHS 接続カード 104

PIAFS 123

PMSet98 222

POST 151

Print Screen キー 17

R

RAM 94

S

Safe モード 233

Save To Disk 機能 73, 78

Save To Disk 領域 227

Scroll Lock 表示 15

SCSI 147, 148

SCSI カード 104

Shift キー 17

SUS/RES スイッチ 4

SUS/RES 表示 13

T

True Color 135, 218

TYPE 106

U

USB 8

USB コネクタ 8, 217

W

Windows キー 18

Z

ZV ポート 7

ア

アナログ携帯電話 124

イ

インストール 85

- サウンドドライバ 241

- ディスプレイドライバ 233

- フラットポイントのドライバ 246

- モデムドライバ 244

エ

液晶ディスプレイ 3

- 解像度と発色数 218

- 注意事項 21

- 廃棄 21

エラーメッセージ 204

オ

お手入れ 50

オプション機器 82

音量

- を設定する 44

- を調節する 42

音量つまみ	43
音量ボリューム	5, 42

カ

カーソルキー	18
解像度	
- CRTディスプレイ	134
- 液晶ディスプレイ	218
解像度を変更する	
- CRTディスプレイ	135
拡張 RAM モジュール	94
拡張キーボードコネクタ	10, 217
拡張コネクタカバー	11
各部の名称と働き	2
カバークローズスイッチ	3

キ

キーボード	3, 16
- のお手入れ	50
起動時の自己診断テスト	151
起動メニュー	154, 191

ク

空冷用ファン	7
クリーニングフロッピー	51

ケ

ケーブル	88, 120, 126
携帯電話	120
- を接続する	120
携帯電話接続カード	104

コ

コネクタのピン配列と信号名	216
---------------------	-----

サ

サウンドドライバ	241
サスペンド/レジュームスイッチ	4
サスペンド機能	73, 74

シ

充電	62
----------	----

充電時間	64
終了	56
終了メニュー	155, 194
仕様一覧	212
詳細メニュー	152, 170
状態表示 LCD	4, 13
省電力メニュー	154, 184
情報メニュー	155, 193
シリアルコネクタ	10, 216

ス

スーパーディスクドライブ	143
スピーカー	3
- の確認	44

セ

赤外線通信	249
赤外線通信ポート	8
セキュリティメニュー	153, 181
接続・セット	
- AC アダプタ	59
- CD-ROM	38
- CRT ディスプレイ	127
- PC カード	107
- PDC コネクタ	120
- PHS	120
- 携帯電話	120
- テンキーボード	102
- 内蔵 FDD ユニット (外付け)	27
- バッテリー	70
- バッテリー (増設用)	93
- プリンタ	88
- フロッピーディスク	33
- マウス	102
- メモリ	95
接続・セット・取り付け	
- 増設用内蔵バッテリーユニット	25
- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット	25
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	25
- 内蔵 FDD ユニット	25
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	25
- マルチベイ用カバー	25

- ユニット	25
節電	73
- ご購入時の設定	222
- 設定を変更する	222

ソ

走査周波数	219
増設用内蔵バッテリーユニット	92
- を取り付ける	25
- を取り外す	25

テ

ディスプレイ	
- CRT	125
- CRTディスプレイに表示を切り替える	129
- のお手入れ	50
テンキーボード	102
- を接続する	102
テンキーモード	19
電源	
- 注意事項	54, 56
- の管理	226
- を入れる	54
- を切る	56
電話回線	45
- の接続口	46

ト

盗難防止用ロック	10
ドライバ	85
ドライバのインストール	232
- PCカード	109
- サウンドドライバ	241
- ディスプレイドライバ	233
- フラットポイントのドライバ	246
- モデムドライバ	244
取り付け	
- AC アダプタ	59
- CRT ディスプレイ	127
- PC カード	107
- PDC コネクタ	120
- PHS	120

- 携帯電話	120
- 増設用内蔵バッテリーユニット	25
- テンキーボード	102
- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット	25
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	25
- 内蔵 FDD ユニット	25
- 内蔵 FDD ユニット (外付け)	27
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	25
- バッテリ	70
- バッテリ (増設用)	93
- プリンタ	88
- マウス	102
- マルチベイ用カバー	25
- メモリ	95
- ユニット	25

取り外し・取り出し

- AC アダプタ	60
- CD-ROM	40
- PC カード	117
- 増設用内蔵バッテリーユニット	25
- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット	25
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	25
- 内蔵 FDD ユニット	25
- 内蔵 FDD ユニット (外付け)	29
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	25
- バッテリ	70
- プリンタ	90
- フロッピーディスク	34
- マルチベイ用カバー	25
- メモリ	95
- ユニット	25

ナ

内蔵 CD-ROM ドライブユニット	
- を取り付ける	25
- を取り外す	25
内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	140
- を取り付ける	25
- を取り外す	25
内蔵 FDD ユニット	
- を外付けで接続する	27
- を取り付ける	25

- を取り外す	25
- を取り外す (外付け)	29
内蔵 FDD ユニットコネクタ	7
内蔵スーパーディスクドライブユニット	143
- を取り付ける	25
- を取り外す	25
内蔵バッテリーパック	70
内蔵マイク	5
- 注意事項	21
内蔵モデム	
- 注意事項	45

ハ

ハードディスク (増設用)	146
ハードディスクアクセス表示	15
廃棄	21
パスワード	195
- 設定する	197
- 入力する	199
- 変更 / 削除する	200
パソコン本体	
- 注意事項	20
- のお手入れ	50
発色数	
- CRT ディスプレイ	134
- 液晶ディスプレイ	218
発色数を変更する	
- CRT ディスプレイ	135
バッテリー	61
- 注意事項	69
- の異常表示	67
- の稼働時間	64
- の残量を確認する	65
- の充電時間	64
- 廃棄	21
- を交換する	70
- を充電する	62
バッテリー (増設用)	92
- を取り付ける	93
バッテリー残量表示	14
バッテリー充電表示	14
バッテリーパック装着表示	13
パラレルコネクタ	10, 216
半角 / 全角キー	17

ヒ

光磁気ディスクドライブ	147
-------------------	-----

フ

ファンクションキー	16
ブライツネスボリューム	3
フラットポイント	4
- 注意事項	21
- のドライバ	246
プリンタ	87
- を接続する	88
- を取り外す	90
フロッピーディスク	27
- 注意事項	32
- のデータを守る	35
- をセットする	33
- を取り出す	34
フロッピーディスクアクセス表示	15
フロッピーディスクドライブ	
- のお手入れ	51

ヘ

ヘッドホン・ジャック	5
------------------	---

マ

マイクイン・ジャック	5
マウス	102
- を接続する	102
マウスコネクタ	10, 217
マルチベイ	9, 23
- に取り付けられるユニット	23
マルチベイ用カバー	
- を取り付ける	25
- を取り外す	25

メ

メインメニュー	151, 164
メッセージ一覧	203

メモリ	94
- 容量の確認	99
- を取り付ける	95
- を取り外す	95

モ

モジュラーケーブル	
- を接続する	47
モジュラーコネクタ	11, 217
モデムドライバ	244

ユ

ユニット	22
- を交換する	25

ラ

ラインイン・ジャック	5
ラッチ	3

リ

リソース一覧	214
--------------	-----

レ

レジューム	76, 79
-------------	--------

ワ

割り込み番号	214
--------------	-----

Microsoft および Windows、MS、MS-DOS、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

3D RAGE は、ATI Technologies, Inc. の商標です。

K56flex は、Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV-BIBLO NRⅨ 30L/NRⅨ 26X

FMV 本体&オプションガイド

B3FH-4981-01-00

発行日 1999年2月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

Ⓕ 9901-1

FMV SERIES パソコンマニュアル紹介

ここでは、マニュアルの主な内容を紹介しています。

初めての方は...

『かるがるパソコン入門』

- ・基本の操作を覚える
- ・文字を打つ

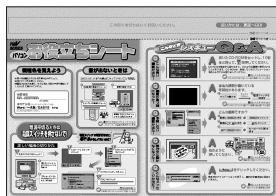


CD-ROMが
付いています



『お役立ちシート』

- ・お手元に置いてお使いください。



FMVを使いこなそう!

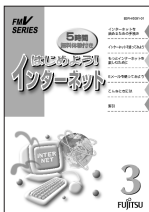
『まるごとEnjoy FMV』

- ・FMVでできること
- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る



『はじめよう! インターネット』

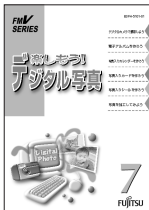
- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



5時間
無料体験付き

『楽しもう! デジタル写真』

- ・デジタルカメラで写真を撮る
- ・写真でカレンダーを作る
- ・電子アルバムを作る



次の機種には添付されません。
FMV-DESKPOWER MIX36L / MIX367 / MIX365
FMV-BIBLO NEIX26 / NSIX26X / MFX26

パソコンの取り扱い

『FMV 本体&オプションガイド』

- ・各部の名前を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす
- ・ハードディスクを増やす



トラブル解決!

『困ったときのQ&A』

- ・困ったときの画面集
- ・画面の設定を変える
- ・サポート情報
- ・パソコン用語集



『パソコンをふりだしにもどす本』

- ・買って来た状態にもどす



パソコンのしくみを知る

『パソコンがおもしろくなる本』

- ・パソコンのしくみを知る
- ・使いかたのコツをつかむ



T4988618871938

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。